

琵琶湖博物館 年報

第 24 号

2019 年度（令和元年度）

滋賀県立琵琶湖博物館

2020 年（令和 2 年）12 月

ごあいさつ

今年は、日本中がそして世界中が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、社会活動の停滞や日常生活の変化を迫られました。当館もまた、2月28日～6月1日の間、臨時休館を行い、その後は予約制度を導入した入館者数制限などの感染防止対策を実施しながら運営をしています。

こうした今年の特別な博物館活動は、私たちに様々なこと考えさせてくれました。この冊子にまとめた2019年度は、通常業務に加えて第3期目の展示・交流空間のリニューアル（A・B展示室のリニューアル）も行ったことから、相変わらずの業務過多となりましたが、今年の異常さから見れば、“平常”の博物館活動であったとさえ感じてしまいます。

研究面では、韓国国立洛東江生物資源館を訪問し、第5回目の合同セミナーやワークショップなどを開催したことが特筆されます。こうした、海外との研究交流を活発化し、琵琶湖地域の研究に役立てようと、今年度にはリニューアルグランドオープンに伴う行事のひとつとして、協定を結んでいる海外の研究機関との国際シンポジウムを企画しましたが、これも入国制限のために、やむなく中止となりました。

2019年度の企画展示は、「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」が開催されました。同時に水族企画展示では「ビワマスと仲間たち」を開催し、琵琶湖の固有魚類ビワマスの明らかになった生活史を紹介し、保全活動の大切さを展示しました。こうした毎年の企画展示は、当館の学芸員の研究成果を紹介するものです。近年、各地の博物館や美術館では、収益の確保がより一層を求められるようになり、多くの入場者が期待されるテーマの展示会が数多く開催されるようになりました。こうした展示会では、標本や作品の多くを海外から借用するため、今年のような人やモノの出入国が制限される状態では、計画を変更せざる得なくなったと聞いています。当館の企画展は、時期は遅れましたが今年も開催することができたことで、当館のこれまでの方針が功を奏したことを改めて感じました。

昨年10月には、開館以来1100万人目の来館者の方をお迎えすることができました。多くの方にご来館いただくのは大変喜ばしいことです。その一方で、これからの博物館は、来館して展示を見るだけでなく、自宅や野外にいても、博物館を利用できることが求められています。そうした試みのひとつとして、コロナ禍の中で、北海道博物館が全国に呼びかけた「おうちミュージアム」に参画したり、YouTubeやテレビ、ホームページを通じての発信を行いました。こうした活動を今後も継続し、多様な方法で益々博物館を利用してもらえるよう工夫をしていきたいと思っています。

2020年11月30日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 高橋啓一

附記

当館における新型コロナウイルス感染症対策について

1 経緯

中国武漢市を中心に発生している新型コロナウイルスが、日本、アメリカ、ヨーロッパまで広がっていることを受け、令和2年1月29日、滋賀県新型コロナウイルス感染症対策本部が設置され、第1回本部員会議が開催された。

令和2年2月27日、急遽館内の危機対応会議を開催。その中で、県内において感染症患者の濃厚接触者が確認され、また、政府が今後2週間、全国的なスポーツ・文化イベントの中止や延期などを要請したことを受けて、国立博物館・美術館が一斉休館していることを考慮した結果、本部員会議で示された「県が主催するイベント開催の考え方と開催時の対応」に準じて、全館休館（※）とすることにし、記者資料提供を行った。

※発表した休館の期間：令和2年2月28日（金）～同年3月16日（月）

休館中は、イベントも中止し、ミュージアムショップ、レストランも休業とした。

2 全館臨時休館の対応

(1) 初回 令和2年2月27日（木）発表

休館期間：令和2年2月28日（金）～同年3月16日（月）

休館理由：① 県内で感染症患者の濃厚接触者が初めて確認されたこと

② 政府の要請に応じて、国立博物館・美術館が一斉休館していること

③ 「県が主催するイベント開催の考え方と開催時の対策」に準じたこと

(2) 2回目 令和2年3月12日（木）※特に発表せず

休館延長：令和2年2月28日（金）～同年3月24日（火）

延長理由：第6回本部員会議にて、県主催のイベント等が引き続き3月24日まで延長することが決定されたこと

(3) 3回目 令和2年3月19日（木）※特に発表せず

休館延長：令和2年2月28日（金）～同年3月31日（火）

延長理由：以下の状況を踏まえて当館独自で延長を判断

・当館の特性＜多数の来館、触れる展示や狭い空間、6割が県外来館者＞

・休館を継続し、館内における感染拡大防止対策を検討することが必要なこと

(4) 4回目 令和2年3月30日（月）発表

休館延長：4月以降も当面の間休館

（結果的に令和2年6月1日まで休館することとなった）

延長理由：①来館者用のアルコール消毒液が確保できないこと

②大都市部で爆発的感染の予兆が生じていること

3 休館中の取組等

(1) 徹底した当館感染症対策についての検討

再開館後の感染防止対策について、職員の感染防止・体調管理、開館前後の消毒方法をはじめ、来館者への対応として、展示室の当面の間の閉鎖や入館制限等について検討するとともに、交流行事・セミナー等の実施についても議論した。博物館を利用して活動している、はしかけグループやフィールドレポーターの活動についても、活動の自粛対応をお願いした。

(2) 休館中の発信の取組

新型コロナウイルス感染拡大防止のため小中高等学校が休校となっていることなどを踏まえ、主に以下のとおり、琵琶湖や当館をもっとよく知っていただくための情報発信等の取組を行った。

- ① 「かんさつシート」の当館ホームページへのアップ
- ② YouTube『Web アミンチュ』『びわ博の中の人』の公開
- ③ 学芸員によるテレビ公開講座（3月12日30分間放送：テーマ「琵琶湖の固有種」）

※これらの事業は、県が実施した「コロナに負けないぞ!! 子ども応援プロジェクト」に当館も参加して実施した。

(3) 「おうちミュージアム」への参加

北海道博物館が提唱し、全国の博物館が参加した、子どもたちが家で楽しく学べるアイデアを伝えるプログラムに参加し、当館が休館中に取り組んだ事業を発信した。

(4) 展示交流員による活動

展示交流員が展示の魅力伝える映像の作成を行い、家庭でも楽しめるコンテンツをウェブ上で提供できるプロジェクトを進めた。

(5) 委託業務の継続

休館中においても、総務省通達「地方公共団体の調達における新型コロナウイルス感染症への対応」において示された方針に従い、受注者側に負担をかけない対応を行うこととし、展示運営補助業務、資料整理委託業務、有人警備・駐車場管理業務、清掃業務の委託業務については継続することとした。

(6) 休業補償等の措置

休館に伴い休業することとなった、ミュージアムショップとレストランについて休業補償の対応を進めるとともに、目的外使用許可にかかる使用料の免除措置を図ることとした。

(7) 中国からのマスクの寄贈

10 数年にわたり当館と様々な形で共同研究を実施してきた、中華人民共和国河海大学（江蘇省南京市）の朱偉教授から、3月、マスク300枚の寄贈を受けた。

（副館長 馬淵兼一）

目 次

ごあいさつ	1
附記	2
I 博物館機能の強化	
1 資料が活用できる博物館	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	6
(2) 資料の活用	11
(3) 資料の保管	13
2 研究を進めて活かせる博物館	
研究推進	
(1) 総合研究	15
(2) 共同研究	15
(3) 専門研究	16
(4) 研究審査委員会	17
(5) 研究助成を受けた研究	17
(6) 研究員の受け入れ	19
研究発信	
(1) 公表された主な研究業績	20
(2) 新琵琶湖学セミナー	24
(3) 研究セミナー・特別研究セミナー	25
(4) 琵琶湖博物館サイエンスセミナー	26
(5) 琵琶湖博物館ブックレット	27
研究交流	
(1) 協力協定に基づく連携	27
(2) 研究機関との連絡活動	28
(3) 海外活動	28
研究部活動	
(1) 研修	29
(2) 薬品類の管理	29
(3) 研究備品の管理	29
3 新たな参加と発見ができる博物館	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	30
(2) 企画展示・水族企画展示	39
(3) ギャラリー展示・トピック展示等	45
展示交流	
(1) フロアートーク	48
(2) ディスカバリールームのイベント	48
(3) 展示交流員と話そう	49
(4) デジタルサイネージ	50
その他	
(1) 受賞	51
博物館連携	
(1) 滋賀県博物館協議会	51
(2) 烏丸半島活性化連携事業	51

4 体験と交流を促す博物館	
一般利用者へのサービス	
(1) 観察会・見学会等	53
(2) 講座	53
(3) 体験教室	54
(4) 体験学習	55
学校連携	
(1) 学校団体	56
(2) 教育指導者等研修	59
企業連携	60
研修・実習	
(1) 国際交流	61
(2) 視察対応（国内）	61
(3) 博物館実習	62
5 対話と応援ができる博物館	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	63
(2) はしかけ制度	64
地域交流活動への支援	
(1) 博物館内での支援活動	86
(2) 地域での支援活動	88
(3) 質問対応	91
(4) びわ博フェス 2019	92
琵琶湖博物館環境学習センター	
(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供	92
(2) 環境学習の交流の場づくり	93
情報発信活動	
(1) 地域発見！参加型移動博物館	94
(2) インターネットを利用した館外への情報提供	95
(3) 印刷物	95
(4) コンテンツの Web 発信	96
II 新琵琶湖博物館の創造	97
III 環境の整備	
1 拠点としての施設整備	
(1) 利用者用施設の整備	99
(2) 情報システムの整備	99
(3) 来館者アンケート調査	99
2 柔軟な運営組織	
(1) 組織	104
(2) 職員	105
3 社会的支援と新しい経営	
(1) 利用状況（2019 年度入館者数）	109
(2) 広報活動	111
(3) 予算	130
(4) 寄付など	130
4 存在基盤の確立	
(1) 琵琶湖博物館協議会	131
(2) 企画・計画	131
IV 2019 年度をふり返って	
1 研究部	133
2 事業部	134
3 総務部	135

I 博物館機能の強化

1 資料が活用できる博物館

資料整備活動

琵琶湖博物館では、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」を中心として、その全体評価に関わるもの、博物館のテーマである「湖と人間」に関係する日本やアジア、世界の湖沼とその周辺地域における自然・人文・社会科学等に関する過去から現在までの資料を収集し、それらの整理、保管を行い、活用することで博物館活動の充実に努めている。

それらの資料は、実物資料のほか、生魚などの生体資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料があり、博物館職員や参加型調査による収集、受贈、受託、提供、交換、購入、製作などの方法によって受け入れられる。また、それらは必要な時に利用できるよう、各資料の体系に従って整理し、次世代へ引き継ぐために、長期間にわたって安全に良好な状態で保管する活動を行っている。保管や利用にあたっては、各資料に関する専門の学芸職員のほか、図書資料については、司書資格をもった職員が対応にあっている。

以下に、2019年度の資料整備および利活用の状況を示す。

(1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微小生物標本、水族資料（生体資料）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2019年度末現在で、博物館登録資料は645,349で、収蔵概数は1,377,130となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

1) 収蔵資料数

2020年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2019年度登録数	2019年度受入総数
地学	86,629	114,140	12,448	2,989
動物	190,900	363,867	1,279	1,655
植物	89,964	191,628	1,008	1,168
微生物	13,407	75,943	36	1,044
水族（生体）	19,234	30,173	14,152	25,749
考古	0	1,429箱と392	0	0
歴史	292	220	292	0
民俗	6,721	6,851	0	14
環境	0	45箱と770	0	0
図書	156,460	160,000	3,103	3,014
映像	81,742	433,146	0	554
合計	645,349	1,377,130	32,318	36,187

【各分野別の詳細】

地学標本	2019年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	20	0	4	0	15	19	データベースの各アイテムへの入力作業中	43,355	48,000
岩石・鉱物	16	0	1,812	0	0	1,812		11,978	23,300
堆積物	12,412	0	1,093	0	0	1,093		30,045	40,110
プレパラート	0	0	65	0	0	65		1,251	2,730
小 計	12,448	0	2,974	0	15	2,989		86,629	114,140

動物標本	2019年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物（魚類除く）	38	19	3	0	25	47		3,678	4,022
内 訳	哺乳類骨格標本	1	0	0	0	8		902	902
	哺乳類乾燥標本	10	0	1	0	0		154	154
	哺乳類(その他)	1	0	1	0	0		818	818
	鳥類骨格標本	1	1	0	0	0	骨格標本 2	244	244
	鳥類乾燥標本(巢, 卵, レプリカ等含む)	18	18	1	0	10	仮剥製標本 4 部分剥製標本 1	1,037	1,049
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0		10	10
	爬虫類液浸標本	3	0	0	0	3		47	47
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0		44	91
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0		7	7
	両生類剥製標本	0	0	0	0	0		0	0
	両生類液浸標本	4	0	0	0	4		355	355
	両生類 (その他)	0	0	0	0	0		17	302
	魚類(淡水魚類)	491	2	814	0	0	816		57,933
内 訳	乾燥骨格および アクリル包埋標本	0	0	0	0	0	返却標本の再配架	2,678	2,678
	DNA 分析用標本	3	1	0	0	0	収蔵標本の維持管理. 新規登録 3 件	3,727	3,727
	その他の液浸標本	488	1	814	0	0	新規採集, 寄贈標本および未登録標本の整理. 新規登録 488 件	51,528	80,497
昆虫	0	0	0	0	186	186		102,472	239,904
内 訳	昆虫液浸標本	0	0	0	0	0	未登録標本の整理	12,504	31,066
	昆虫乾燥標本	0	0	0	0	186	滋賀県産標本の整理、布藤コレクションの登録作業	89,968	206,838
貝類	2	0	2	0	268	270	未登録標本の整理. 新規登録 2 件	14,456	17,982
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	748	104	232	0	0	336		12,361	15,057
小 計	1,279	125	1,051	0	479	1,655		190,900	363,867

植物標本	2019年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料	収蔵概
さく葉標本	1,008	0	1	0	5	6	登録・ラベル貼付・収蔵・管理・ 低温処理・燻蒸庫燻蒸	89,964	190,288
植物液浸標本	0	0	0	0	0	0		0	0
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
プレパラート標本	0	0	1,162	0	0	1,162		0	1,162
小 計	1,008	0	1,163	0	5	1,168		89,964	191,628

微生物標本	2019年度							累 積	
	登録数	作成・撮影	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	36	0	1,039	0	5	1,039		12,015	13,053
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	0
珪藻プレパラート	0	5	0	0	0	5		1,392	1,397
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	10,052
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	866
小 計	36	0	1,039	0	5	1,044		13,407	75,943

水族資料 (生体)	2019年度							累 積	
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物	12,609	738	243	8,519	3,077	12,577		17,001	17,001
内 訳	哺乳類	32	0	0	0	0		32	32
	魚類	12,560	725	241	8,519	3,075		16,903	16,903
	両生類	13	13	0	0	0		29	29
	爬虫類	0	0	0	0	0		28	28
	鳥類	4	0	2	0	2		9	9
無脊椎動物	1,543	12,084	0	1,096	0	13,172		2,233	13,172
内 訳	昆虫類	0	0	0	0	0		0	0
	貝類	1,194	164	0	1086	0		1,194	1,240
	甲殻類	347	11,800	0	10	0		1,037	11,810
	扁形動物	2	120	0	0	0		2	122
小 計	14,152	12,822	243	9,615	3,077	25,749		19,234	30,173

考古資料	2019年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0		0	1,394(箱)
木器等(棚置き数)	0	0		0	357
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	26
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21(箱)と3
小 計	0	0		0	1,429(箱)と392

歴史資料	2019年度						累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	292	0	0	0	0	居初家文書のデータベースを公開した	292	162
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	0	0	0	0		0	46
その他	0	0	0	0	0		0	12
小 計	292	0	0	0	0		292	220

民俗資料	2019年度				累 積	
	登録数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	1	1		4,133	4,141
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	13	13		2,588	2,602
二次資料	0	0	0		0	108
小 計	0	14	14		6,721	6,851

環境資料	2019年度					累 積	
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0	0		0	74
生活用具類	0	0	0	0		0	37
民具類	0	0	0	0		0	22箱と630
二次資料(レプリカなど)	0	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0	0		0	4
小 計	0	0	0	0		0	45箱と770

図書資料	2019年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	1,569	32	972	1,004	おとなのディスカバリーへ図書約1,600冊、雑誌16誌を配架。その他書籍レファレンス、コピーサービス(有料)。資料整理として蔵書点検28,000点、図書装備約1,600冊	92,200	95,000
文献	456	0	456	456		54,900	57,000
雑誌	1,078	160	1,394	1,554		9,360	8,000
小 計	3,103	192	2,822	3,014		156,460	160,000

(*)ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む

映像資料	2019年度							累 積	
	登録数	撮影数	移管数	寄贈・寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	113	358	491	大橋コレクションの登録準備、画像データベース 資料データの修正など	81,742	423,361
動画資料	0	0	0	1	62	63		0	9,785
小 計	0	0	0	114	420	554		81,742	433,146

2) 寄贈者および提供者 敬称略(点数) *印は2018年度追加分

【地学資料】

化石：松岡啓二(15) 木村敏之(1) 吉原 徹(1) *小嶋 智(1) *上村 隆(1)

岩石・鉱物：島川武治(200) 中澤和雄(1,610) 村上義信(2)

堆積物：京都大学(989) 高島市(4) 竹村恵二(9) 兵頭正幸(90) *柏谷健二(1件)

プレパラート：*植田弥生(50) *(株)パレオラボ(15)

【動物標本】

哺乳類乾燥標本：坂井麻紀 (1)

哺乳類 (その他)：*(株)海の中道海洋生態科学館 (1)

鳥類乾燥標本：木内陽子 (1) 滋賀県立朽木いきものふれあいの里 (10)

魚類液浸標本：山梨県水産技術センター (2) 馬淵浩司 (2) 韓国国立洛東江生物資源館 (1)
北野大輔 (800)

昆虫液浸標本：*丸山聡子 (8)

昆虫乾燥標本：はしかけグループ「虫架け」(186)

貝類液浸標本：三浦 収 (2) 水資源機構 (268)

昆虫と貝類以外の無脊椎動物：大高明史 (226) Ming-Chung Chiu(5) 太田悠造 (1件)

【植物標本】

さく葉標本：村上大介 (1) 中井克樹 (5)

プレパラート標本：布谷知夫 (1, 162)

【民俗資料】

生活生業用具：*猪飼一寛 (1)

漁撈用具：*野村源四郎 (10) *卯路 繁(1) *西堀弥三次 (2)

【図書資料】

川那部浩哉 (11) 篠原 徹 (39) 用田政晴 (57) 高橋啓一 (15) マーク・J・グライガー (1)

矢野宏二 (4) 志岐常正 (9) 五島正幸 (1) 荻米一志 (1) 田中周平 (1) 中野聰志 (64)

伊谷純一郎 (19) 仲谷英夫 (14) 松田道一 (1) 樹林舎 (1) 日本動物学会 (11)

守山の歴史を考える会 (2) 唐招提寺 (2) 読書グループ松葉会 (2) 甲南中部自治振興会 (1)

京都アメリカ大学コンソーシアム (1) 長尾自然環境財団 (1) 山梨県立博物館 (1)

草津古文書学習会 (1) 北村美香 (結Creation) (32) 湖北町食事文化研究会 (1)

志津まちづくり協議会 (1)

【映像資料】

静止画：堀地和夫 (113) (静止画)

動画：(株)日本エアロビデオ (1)

3) 移管資料

滋賀県立琵琶湖文化館より：地学関係標本 15点

4) 購入資料

なし

5) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	250
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	60
アカヒレタビラ	<i>Acheliognathus tabira erythropterus</i>	62
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	38

種 名	学 名	個体数
カゼトゲタナゴ (山陽集団)	<i>Rhodeus smithii smithii</i>	275
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	211
アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	176
デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	144
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	85
カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis rasborella</i>	247
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pugnax</i>	270
ワタカ	<i>Ischikauia steenackeri</i>	100
ズナガニゴイ	<i>Hemibarbus longirostris</i>	5
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	50
ドジョウ科		
ビワコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii oumiensis</i>	140
メダカ科		
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	93
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	299
ギギ科		
ネコギギ	<i>Pseudobagrus ichikawai</i>	64
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp..	263
外国産魚類		
カワスズメ科		
コパディクロミス・アズレウス	<i>Copadichromis azureus</i>	59
ニンボクロミス・リビングストーン	<i>Nimbochromis livingstonii</i>	38
オレオクロミス・タンガニカエ	<i>Oreochromis tanganyicae</i>	63
レピドランプロログス・アテヌアータス	<i>Lepidolamprologus attenuatus</i>	83

(2) 資料の活用

1) 資料の貸出 (研究依頼を含む) 8件 200点

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	23	米原市伊吹山文化資料館	多賀榮之氏寄贈標本 5束など 合計 40点	企画展での展示
9	27	野洲市歴史民俗博物館	湖魚関係レプリカ「ふなずし」1 点 など 合計 22点	企画展での展示
10	16	松原町自治会	大橋コレクション写真 33点	文化祭での展示
10	18	水産大学校	カワシンジュガイ類 73点	研究
10	30	吉安 裕	メイガ類標本 5点	研究
11	17	京都大学	魚類液浸標本 20点	研究
2	2	大阪市立自然史博物館	魚類液浸標本 3点	企画展での展示
2	27	環境省自然環境局生物多様 性センター	魚類液浸標本 4点	研究

2) 資料の譲与 4件 114点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
5	13	相模川ふれあい科学館	カヤネズミ 4 個体	展示および繁殖
5	16	富山大学	ニンボクロミス・リビングストローニー 10 個体	繁殖および研究
12	10	韓国国立洛東江生物資源館	魚類液浸標本 50 点	資料交換
3	16	京都市動物園	イチモンジタナゴ 50 個体	生息域外保全および展示

3) 特別観覧

<映像資料・静止画> 19件 103点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	14	山根 猛	人と暮らしアルバム 6 点	講演で使用
6	4	滋賀県琵琶湖環境部	魚類, 鳥類写真 2 点	ガイドブックへの掲載
6	15	長良川うかいミュージアム	カワウ写真 2 点	特別展示で使用
6	18	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	魚類写真 2 点	学習教材で利用
7	10	山根 猛	魚類写真 7 点	講演で使用
7	19	サンライズ出版	琵琶湖真景図画像 2 点	刊行図書への掲載
8	5	滋賀県農政水産部	魚類写真 1 式	啓発資材への掲載
8	22	啓林館	魚類, 展示写真 2 点	教科書への掲載
9	12	小北智之	魚類写真 1 点	講演で使用
10	10	農林漁村文化協会	魚類写真 1 点	出版物への掲載
10	30	滋賀県総合企画部	近江国六郡物産図説画像 1 点	講演会チラシへの掲載
11	9	滋賀県びわ湖フローティングスクール	魚類写真 23 点 水草写真 11 点 貝類写真 8 点	ガイドブックへの掲載
12	4	滋賀県教育委員会	オオサンショウウオ写真 2 点	ガイドブックへの掲載
12	12	株式会社ブランディット	展示室写真 4 点	学習教材で利用
12	23	老上学区まちづくり協議会	民具写真 9 点	学習教材で利用
12	27	丸善出版	魚類写真 6 点	刊行図書への掲載
1	14	有限会社三猿舎	瀬田唐橋写真 2 点	刊行図書への掲載
1	16	中央公論新社	伏竜骨之図 2 点	刊行図書への掲載
2	27	滋賀県琵琶湖環境部	琵琶湖関連写真 9 点	ガイドブックへの掲載

<館内観覧・撮影> 18件 1365点

月	日	利用者	観覧内容	観覧目的
4	27	高橋大樹	歴史資料 一式	学術研究
5	7	滋賀県立大学	植物さく葉標本 38 点	学術研究
5	7	FLOATING LIFE	水族資料 7 点	動画配信のための撮影
5	31	Yu-Feng Hsu	昆虫標本 1 点	学術研究
6	2	稗田真也	植物標本 440 点	学術研究
6	13	津下麻樹	水生生物液浸標本 4 点	学術研究
7	7	大谷大学	歴史資料 1 点	書籍への掲載のための撮影
8	6	野洲市歴史民俗博物館	歴史資料 30 点	企画展準備のため
9	24	新潟大学	水草標本 400 点	学術研究

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
10	30	吉安 裕	昆虫乾燥標本 35点	学術研究
10	30	南 尊演	昆虫乾燥標本 30点	学術研究
11	19	保井綾華	火山灰試料 10点	学術研究
11	20	高橋大樹	歴史資料 一式	企画展準備のため
12	5	京都大学	貝類液浸標本 19点	学術研究
1	10	宮崎大学	植物さく葉標本 18点	学術研究
2	7	京都大学	魚類液浸標本 100点	学術研究
3	12	関西学院高等部	魚類液浸標本 200点	学術研究
3	24	中島 淳	魚類液浸標本 100点	学術研究

4) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2019年度には以下の論文・書籍が公表された。

著者	年	タイトル	雑誌名または出版物	頁	種別	活用標本
Yuzo Ota	2019	Habitat utilization and seasonal occurrence of <i>Tachaea chinensis</i> (Isopoda: Corallanidae) infesting freshwater shrimps in Lake Biwa, central Japan	Crustacean Research Volume 48	133-143	論文	微生物資料
Tominaga, K., Kawase, S.	2019	Two new species of <i>Pseudogobio</i> pike gudgeon (Cypriniformes: Cyprinidae: Gobioninae) from Japan, and redescription of <i>P. esocinus</i> (Temminck and Schlegel 1846)	Ichthyological Research	488-508	論文	魚類液浸標本
富 小由紀 ほか	2019	古琵琶湖層群蒲生層最上部から産出した化石珪藻フロラ.	Diatom	35:1-17	論文	堆積物資料
Katsutoshi Watanabe, et al.	2020	Large-scale hybridization of Japanese populations of Hinamoroko, <i>Aphyocypris chinensis</i> , with <i>A. kikuchii</i> introduced from Taiwan.	Ichthyological Research	361-374	論文	魚類液浸標本

5) 資料の利用 (その他)

図書資料については、2018年度よりデータベースを新システムに移行し、目録所在情報サービス (NACSIS) に登録することで他の資料とは違う形での利用促進をおこなった。2019年度には、閲覧冊数が1,543冊、相互貸借による資料の貸出が2冊、文献複写サービスの受託が5件あった。

(3) 資料の保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防霉対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物トラップ調査、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理 (IPM) を行っている。

2019年度は、収蔵庫内の温湿度を管理するため、データロガーを新規で設置し（液浸・地学・動物収蔵庫を除く）、クラウドサーバー上でリアルタイムに監視するためのシステムを導入した。また、収蔵庫空間におけるカビ防御のため、前年に引き続き、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。動物標本（剥製）・ヨシ松明などが展示されているC展示室内においては、昨年度に引き続き文化財害虫の生物トラップによるモニタリングを継続し、ライトトラップによる駆除作業を試みた。また、廊下排水口からハエ類の侵入が認められたため、一部排水口の防虫ネットの更新を行い、昨年度カビの発生がみられた前室から搬出した資料の処分を行い、環境改善を行った。収蔵庫空間トイレの排水槽にて大量のチョウバエが発生していることが分かり、外部への逸出防止策を施し、今後の業者清掃を待っている。

1) 収蔵空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・時間ごとに計測し、全データを保存。一部収蔵庫では、データロガーを使用し、クラウドサーバー上でリアルタイム監視を実施。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 ・収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
特別清掃等	生物環境調査の結果から、特別清掃の実施(害虫の増加場所を対象とした一部展示室内) 乳剤散布5回
生物環境調査	年3回の生物環境調査 ・2019年6月7日～6月21日 昆虫トラップ調査 241カ所(設置・回収・分析) ・2019年11月1日～11月15日 昆虫トラップ調査 241カ所(設置・回収・分析) ・2020年2月28日～3月13日 昆虫トラップ調査 235ヶ所(設置・回収・分析) *当館のIPM基準値 ・虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が 1

2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップの結果を踏まえて、害虫の発生源となりやすい箇所等について、今後の対策の検討を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を5回、エキヒューム燻蒸を2回実施した。また、密閉テント方式のエキヒューム燻蒸を1回実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2 研究を進めて活かせる博物館

研究推進

琵琶湖博物館では、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という5つの事業を総合的に行なっている。その中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果やその発信として、展示、資料、交流活動が行なわれ、研究が魅力的であれば、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

研究部では2015年3月に策定された新琵琶湖博物館創造基本計画に従い、3つの役割である 1)「湖と人間」のあり方を県民とともに考え、ともに行動する博物館、2) 次代を担う人が育つ拠点となる博物館、3) 地域活性化の核となる博物館を、博物館の研究活動を通じて具現化することを目指している。そのため、2016年度から2020年度の5年間の研究活動方針および行動計画に従い、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探っていくことを進めている。この役割や活動は、主な3つの研究の方向性に沿って、継続していく予定である。

- ・琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進

琵琶湖博物館の専門、共同、総合研究や外部資金による研究を組み合わせる。

- ・「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究

国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究を行う。

- ・「木から森へ」の博物館学の追求

博物館機能を活用して誰もが琵琶湖博物館の活動を知り、研究や事業に参加できるための博物館学研究を行う。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。2017年度に整備した当館の研究評価実施要綱に従い、総合研究と共同研究については、研究計画調書ならびに説明によって、研究審査委員会の審査を受け、その結果を踏まえて、当館で行う研究課題を定めた。また、専門研究については、内部評価委員会を設置し、研究課題を検討し、助言を行いながら、研究を推進した。2019年度は、次の研究課題が実施された。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、次の総合研究1件を行った。

- ・過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明

代表者：亀田佳代子，研究期間：2019～2023年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の11件であった。

- ・「田んぼのいきもの全種リスト」の増補更新と公開システムの構築

代表者：大塚泰介，研究期間：2017～2020年度

- ・古琵琶湖誕生期における化石林に基づく水辺植生と古環境の解明

代表者：山川千代美，研究期間：2017～2019年度

- ・琵琶湖南湖において沈水植物の量を適正化するための条件探索

代表者：芳賀裕樹，研究期間：2017～2019年度

- ・琵琶湖種とされるピワマスにおける遺伝的多様性の変化

代表者：桑原雅之，研究期間：2018～2019年度

- ・琵琶湖南湖堆積物からみた過去 2000 年間の古植生解析
代表者：里口保文，研究期間：2018～2020年度
- ・RAD-seq データに基づく歴史人口学解析による琵琶湖魚類相形成史の解明
代表者：田畑諒一，研究期間：2018～2019年度
- ・幼児の博物館体験と野外体験の効果
代表者：中村久美子，研究期間：2018～2021年度
- ・フナズシの歴史的展開についての研究－「古フナズシ」の復元実験－
代表者：橋本道範，研究期間：2019～2021年度
- ・バイカル湖堆積物研究成果の集約・管理・公開へ向けた総合研究－バイカル資料・研究発信センターを目指して－
代表者：柏谷健二，研究期間：2019～2020年度
- ・近江 1 万年間の森と人の関係史－人は森をどう利用してきたのか
代表者：妹尾祐介，研究期間：2019～2020年度
- ・淡水クラゲ類の性決定の要因を探る
代表者：鈴木隆仁，研究期間：2019～2021年

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

＜申請専門研究＞

- ・飼育下バイカルアザラシの摂取カロリーに関する研究 3（松岡由子）
- ・照葉樹林帯－ブナ帯における里山生態系の成立維持過程の解明－滋賀と福島における遺跡花粉分析データの悉皆調査から－（林 竜馬）
- ・琵琶湖湖岸に生育する絶滅危惧植物の発芽特性の解明（大槻達郎）

＜専門研究＞

環境史研究領域

- ・虫生野火山灰層堆積期の古水系解析（里口保文）
- ・古琵琶湖層群産クルミ属堅果類化石の形態からみた種の再検討について（山川千代美）
- ・地域環境史の理論的構築（橋本道範）
- ・高頻度高精細な河川環境情報の収集と分析手法の検討（山中大輔）
- ・自然資源の利用と管理（楊 平）
- ・漁業組合文書の基礎的研究（渡部圭一）
- ・焼成実験からみた粘土の特質と琵琶湖周辺地域の縄文土器の製作技術との相関（妹尾裕介）
- ・3D スキャンによる魚類液浸標本の三次元形態計測（田畑諒一）

生態系研究領域

- ・ウ類と人との軋轢と軽減に関する国際比較：カナダの事例に関する情報収集（亀田佳代子）
- ・南湖志那沖の湖底地形の把握（芳賀裕樹）
- ・タナゴ亜科魚類 3 属の性決定について（松田征也）
- ・琵琶湖水系に生息するアマゴの遺伝的由来に関する情報の収集（桑原雅之）
- ・滋賀県多賀町の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石（八尋克郎）
- ・水生生物・陸貝の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（榎永一宏）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（ロビン ジェームス スミス）

- ・明治・大正期における農業用水の湖水利用の実態について（下松孝秀）
- ・耳石を用いた魚類の生態解析（片岡佳孝）
- ・少花粉ヒノキの採種園維持管理方法の確立と品種開発（山本綾美）
- ・琵琶湖周辺環境とイタチムシ類の分布（鈴木隆仁）

博物館学研究領域

- ・MT法を応用した生物同定支援システムの開発（大塚泰介）
- ・地球物理学からの博物館学の展開～展示交流空間の活用可能性（戸田 孝）
- ・イバラモ群落の成立環境とフェノロジーに関する研究（芦谷美奈子）
- ・滋賀県内および国内の水田地帯に出現する魚類リストの作成（金尾滋史）
- ・ディスカバリールームにおける幼児の博物館体験（中村久美子）
- ・学習内容に合わせた博物館の活用Ⅲ ～学校の利用目的から考える博物館～（奥野知之）
- ・中学校における博物館の有効利用法について（由良嘉基）

(4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
林田 明	同志社大学理工学部 教授
中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 特任教授
不破 徹也	滋賀県総合教育センター 係長
瀬田 勝哉	武蔵大学 名誉教授
細谷 和海	近畿大学農学部環境管理学科 名誉教授
遊磨 正秀	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 教授
足立 重和	追手門学院大学社会学部社会学科 教授
齊藤 純	天理大学文学部歴史文化学科 教授
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
馬淵 兼一	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(5) 研究助成を受けた研究

琵琶湖博物館では、研究費用として外部資金を獲得することを推進している。その代表的なものは文部科学省科学研究費助成事業で、今年度は新規3件の採用と継続7件を合わせ計10件が採択された。学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究代表者（2018～2022年度）

山川千代美

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）

里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）

橋本道範

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 A）「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」研究分担者（2016年～2021年度）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「東シナ海の花粉分析からみる40万年間の植生の温暖化応答と海流・モンスーンとの因果」研究代表者（2019～2021年度）

中村久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手）「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」研究代表者（2019～2021年度）

大塚泰介

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「付着藻類群集構造の色素分析による定量化とその変動要因の解明」研究分担者（2017～2019年度）

渡部圭一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東北型社会の特質に関する史的研究：地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」研究分担者（2015～2019年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「生活変化/生活改善/生活世界の民俗学的研究：日中韓を軸とした東アジアの比較から」研究分担者（2017～2020年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「里山における自然資本の意識化とネットワークのための地域参加型研究」研究分担者（2018～2020年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「低植生環境における村の生存維持に関する研究：近世～近代の琵琶湖地域を事例として」研究代表者（2018～2020年度）

柘永一宏

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「アフリカ大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」研究代表者（2018～2020年度）

大槻達郎

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手）「マメ科植物の地域適応に関与する根粒菌のゲノム進化－共生関係の創出維持機構の解明－」研究代表者（2018～2020年度）

田畑諒一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手）「淘汰・浸透を経験したミトゲノムと核ゲノム内関連遺伝子の共進化プロセスの解明」研究代表者（2018～2020年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「ゲノム情報で解き明かすジュズカケハゼ種群の多様性と進化プロセス」研究分担者（2019～2021年度）

鈴木隆仁

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「淡水棲マミズクラゲの性決定及び生物伝播の謎に迫る」研究分担者（2016～2019年度）

楊 平

- ・文部科学省科学研究費助成事業（新学術領域研究）「物質文化の変遷と社会の複雑化」研究分担者（2015～2019年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」研究代表者（2019～2022年度）

中野正俊

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「汎用性のある博物館・学校・地域等連携実践の新たな開発と普及」研究代表者（2018～2020 年度）

天野一葉

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「侵略的外来種ソウシチョウにおける捕獲技術の高度化と管理ユニット策定」研究代表者（2019～2021 年度）

<研究調査業務受託>

- ・京都府いなべ市 天然記念物ネコギギ飼育増殖業務 松田征也（2019年度）

(6) 研究員の受け入れ

- ・池田 勝 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
- ・北村美香 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：博物館における教育普及事業の「評価」について
- ・辻川智代 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史の変遷を通じた地域文化研究
- ・黒岩啓子 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：博物館におけるコミュニケーションと学びを支える展示評価・来館者調査
- ・柏尾珠紀 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：滋賀、琵琶湖周辺農山村におけるジェンダーの社会学的考察
- ・廣石伸互 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：蛍光抗体法によるアオコ単独細胞の検出に関する研究
- ・中野聰志 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：琵琶湖周辺花崗岩類—特に田上花崗岩体ペグマタイトーの研究
- ・天野一葉 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・藤岡康弘 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究、および琵琶湖博物館の総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」
- ・中野正俊 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：児童の活用型学力と学びの有用感を高める理科・環境学習：「主体的・対話的で深い学び」を博物館連携学習へどう生かすか
- ・寺本憲之 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：ブナ科植物を寄主とする鱗翅目昆虫相と食性に関する研究／伝統文化産業「蚕糸業」の指導／地域ぐるみによる野生動物管理などの指導／環境保全型農業などの指導
- ・岩木真穂 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：水位変動に関連する諸現象の観測的解明を通じた、琵琶湖の物理現象を「よりよく伝える」方法の探求
- ・山本充孝 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：琵琶湖の魚貝類の飼育技術ならびに生態に関する研究
- ・楠岡 泰 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：「共生藻類をもつ繊毛虫の生態」および「淡水クラゲ類の性決定要因の分析」

- ・鈴木真裕 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：二次的自然における水生生物群集の形成過程と多様性に関する研究
- ・根来 健 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：浄水処理に障害を及ぼすプランクトン等（水道障害生物）の体系の再構築
- ・今井一郎 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：有毒アオコ *Microcystis aeruginosa* の制御に有効な水生植物由来の殺藍藻細菌の生態に関する研究
- ・柏谷健二 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：湖沼堆積物を利用した長期環境変動の解析
- ・左子芳彦 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：ゲノム情報を用いた水圏微生物の生理・生態学的研究
- ・真柄 侑 2019年9月1日～2020年9月1日
テーマ：近江湖東地方における生業および暮らしの再検討とその民族的背景に関する調査研究
- ・Corey Tyler NOXON 2019年10月1日～2020年3月31日
テーマ：Exploring factors related to sedentism; Analysis of Lake Biwa Jomon period sites

<名誉学芸員>

- ・布谷知夫 2014年4月1日～2024年3月31日
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・前畑政善 2016年4月1日～2021年3月31日
テーマ：水田魚類の研究
- ・川那部浩哉 2015年4月1日～2020年3月31日
テーマ：博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及
- ・中島経夫 2015年4月1日～2020年3月31日
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・用田正晴 2016年4月1日～2021年3月31日
テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究
- ・マーク J グライガー 2017年4月1日～2022年3月31日
テーマ：甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにすむエビ類の様々な研究と海洋寄生虫

研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.biwahaku.jp/research/publication>) に掲載している。

<学術論文>

- Watanabe, J., Koizumi, A., Nakagawa, R., Takahashi, K., Tanaka, T. and Matsuoka H. (2020) Seabirds (Aves) from the Pleistocene Kazusa and Shimosa groups, central Japan. *Journal of Vertebrate Paleontology*, Society of Vertebrate Paleontology, U.S.A. e1697277-2, DOI: 10.1080/02724634.2019.1697277.
- 藤井弘章・亀田佳代子・牧野厚史・前迫ゆり (2019) 琵琶湖地域におけるサギ類・カワウをめぐる民俗—江戸時代から現代までの鳥類利用の文化—。 *山階鳥類学雑誌*, 51: 1-28.

- 林 竜馬・和田 周・佐々木直子・竹田勝博 (2019) 滋賀県西の湖におけるヨシ群落の花粉生産量－イネ科草本群落の相対的花粉生産量推定に向けて－. *日本花粉学会会誌*, 65 : 11-20.
- 富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2019) 古琵琶湖層群薄生層最上部から産出した化石珪藻フロア. *Diatom*, 35 : 1-17.
- 加藤衛弘・羽賀和樹・渡部圭一 (2020) 近代移行期における山村の開発と由緒－秋田藩領荒瀬村肝煎・湊家文書の解題と翻刻－. *研究紀要 (徳川林政史研究所)*, 54 : 143-164. (『金鯪叢書』第47輯所収)
- 渡部圭一 (2020) 万延元年上妙典村「異流ケ間敷法門」一件－妙好寺住職の江戸出訴日記『荒塵記』翻刻と解題 (三). *市史研究いちかわ (市川市役所文化スポーツ部文化振興課)*, 12 : 45-54.
- Watanabe, K., Tabata, R., Nakajima, J., Kobayakawa, M., Matsuda, M., Takaku, K., Hosoya, K., Ohara, K., Takagi, M. and Jang-Liaw, N.-H. (2020) Large-scale hybridization of Japanese populations of *Hinamoroko*, *Aphyocypris chinensis*, with *A. kikuchii* introduced from Taiwan. *Ichthyol. Res.* Doi:10.1007/s10228-019-00730-9
- 松田征也・石田未基 (2019) 滋賀県近江八幡市で確認されたヒメマルマメタニシ. *ちりぼたん (日本貝類学会研究連絡誌)*, 3-4 (49) : 89-91.
- 桑原雅之 (2019) 琵琶湖水系におけるビワマスとアマゴの共存可能性. *水産育種*, 49 : 1-5.
- Nakai, K. (2019) Historical review of introduced snakeheads in Japan. In: Odenkirk, J. S. and Chapman, D. C. (eds.) Proceedings of the First International Snakehead Symposium (American Fisheries Society Symposium, 89), *American Fisheries Society*, Bethesda, pp.185-202.
- Hirano, T., Saito, T., Tsukamoto, Y., Koseki, J., Prozorova, L., Tu, D. V., Matsuoka, K., Nakai, K. and Chiba, S. (2019) Role of ancient lake for genetic and phenotypic diversification of freshwater snails. *Molecular Ecology*, 28 (23), 5032-5051. DOI: 10.1111/mec.15272.
- Smith, R. J., Zhai, D. and Chang, C. Y. (2019) *Ilyocypris* (Crustacea: Ostracoda) species in North East Asian rice fields; description of one new species, and redescriptions of *Ilyocypris dentifera* Sars, 1903 and *Ilyocypris japonica* Okubo, 1990. *Zootaxa*, 4652, 56-92.
- Alkalaj, J., Hrafnisdottir, T., Ingimarsson, F., Smith, R. J., Kreiling, A-K, and Mischke, S. (2019) Distribution of Recent non-marine ostracods in Icelandic lakes, springs, and cave pools. *Journal of Crustacean Biology*, 1-11. doi:10.1093/jcobiol/ruz008.
- Yamamoto, M. and Ohtsuka, T. (2020) Evaluation of three preparation methods for living diatoms at a sandy river-mouth tidal flat: conventional acid-cleaning, nuclear staining, and sieving. *Fottea, Olomouc*, 20: 17-24.
- 澤邊久美子・夏原由博 (2019) 小規模半自然草地におけるカヤネズミの冬季の営巣環境. *保全生態学研究 (日本生態学会)*, 24 (1) : 31-38.

<専門分野の著作>

- 高橋啓一 (2019) 中国旧石器時代における人とスイギュウの関係性をさぐる. In: 門脇誠二 (編), *パレオアジア文化史学 2019年度A02班研究報告*, pp.31-35.
- 藤井弘章・亀田佳代子・牧野厚史・前迫ゆり (2018) 竹生島における山林資源の利用と保全－社寺林の歴史民俗学的考察－. *民俗文化*, 30 : 33-71.
- 山中大輔・水野敏明 (2019) 愛知川における河床耕耘試験施工結果について (中間報告). *令和元年度 (第41回) 滋賀県土木技術研究発表会論文集*, pp.1-6.
- 楊 平 (2019) 中国黒竜江省ハルビン市周辺のマンモス動物群を訪ねて－中国東北地域の後期更新世哺乳動物群から日本のマンモス動物群を考える－. *化石研究会会誌*, 51 : 43-52.

- 林 竜馬 (2019) 西の湖および琵琶湖周辺のヨシ群落における冬季地上部現存量調査報告書 (2016～2019 年).
滋賀県調査報告書, 15pp.
- 渡部圭一・三樹友梨香 (2019) 比良山麓の「石屋」用具調査. 地域の歴史から学ぶ災害対応—比良山麓の伝
統知・地域知. 総合地球環境学研究所 Eco-DRR プロジェクト, 京都, pp. 38-41.
- 渡部圭一 (2019) 旧津田内湖のアンコ魴漁. 淡海文化財論叢, 淡海文化財論叢刊行会, 11 : 249-254.
- 渡部圭一 (2019) 書評 伊藤廣之著『河川漁撈の環境民俗学』. 京都民俗, 京都民俗学会, 37 : 21-80.
- 渡部圭一 (2019) 多賀の祭りを支えた人びと 第1回. 多賀, 多賀大社, 62 : 6-7.
- 渡部圭一 (2020) 多賀の祭りを支えた人びと 第2回. 多賀, 多賀大社, 63 : 4-5.
- 春田直紀・渡部圭一 (編) (2020) 中世惣村の現在—近江国今堀郷故地の現地調査 (琵琶湖博物館研究調査報
告第32号). 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津, 128pp.
- 渡部圭一 (2020) 兵庫町. 天理市教育委員会事務局文化財課 (編), 大和神社ちゃんちゃん祭り調査報告書,
天理市文化遺産活性化委員会・天理市教育委員会, 奈良県天理市 : 80-101.
- 渡部圭一 (2020) 「座筋」の成立と長老衆. 天理市教育委員会事務局文化財課 (編), 大和神社ちゃんちゃん
祭り調査報告書, 天理市文化遺産活性化委員会・天理市教育委員会, 奈良県天理市 : 181-195.
- 渡部圭一 (2020) 広峰区の諸相. 小浜市教育委員会 (編), 小浜放生祭総合調査報告書, 小浜市教育委員会,
福井県小浜市 : 64-74.
- 渡部圭一 (2020) 第二章 社会 第一節 自治会と自治会記念誌, 第二章 社会 第二節 明治～戦前・戦
中期の町内, 第二章 社会 第三節 自治村落と戦後の自治会, 第二章 社会 第四節 戦後の自治
会の展開, 第七章 信仰 第一節 寺社 二 諏訪神社. 立川市史編さん民俗部会 (編), 新編立川市
史資料編 柴崎の民俗, 立川市, 東京都立川市 : pp. 25-62, pp. 298-306.
- 大久保実香 (2019) 聞き書き的な手法を用いた映像展示の作成—滋賀県立琵琶湖博物館—. 佐野直子・浜本
篤史 (編), 『聞き書き』で地域をつくる～聞く人がいて、話す人がいる～ (1. 2版) (名古屋市立大
学人間文化研究科佐野直子研究室), pp. 60-61.
- 中尾京子・大久保実香 (2019) 聞いたお話をもとに展示を作る—琵琶湖博物館はしかけ暮らしをつづる会—.
佐野直子・浜本篤史 (編), 『聞き書き』で地域をつくる～聞く人がいて、話す人がいる～ (1. 2版)
(名古屋市立大学人間文化研究科佐野直子研究室), pp. 62-63.
- 妹尾裕介・大石雅興・村野正景 (2020) III03 「鴨沂高校地歴研究部」の考古学調査—滋賀県滋賀里遺跡—.
In: 村野正景 (編), 学校の文化資源の「創造」, pp. 34-74.
- 妹尾裕介 (2020) 第3章 調査の概要 第1節 (2) ①京都大学総合博物館収蔵資料の概要. 津雲貝塚総合調査報
告書 (笠岡市教育委員会), 岡山笠岡市, pp. 28-113.
- 田畑諒一 (2019) サケ科魚類の中でのサクラマス群の位置づけ. 第27回企画展示「海を忘れたサケ—ビワ
マスの謎に迫る—」展示解説書, 琵琶湖博物館, pp. 36-37.
- 田畑諒一 (2019) サクラマス群の遺伝的關係. 第27回企画展示「海を忘れたサケ—ビワマスの謎に迫る—」
展示解説書, 琵琶湖博物館, p. 38.
- 金尾滋史・田畑諒一 (2019) 湖魚奇観に描かれた生き物の解説. 令和元年度秋期企画展「人と魚の歴史学」
展示図録, 野洲市歴史民俗博物館 (銅鐸博物館), pp. 12-21.
- 松田征也 (2019) ヤリタナゴ・アブラボテ・カネヒラ・イチモンジタナゴ (共著: タナゴ類担当). 滋賀県立
大学研究成果 水田地域における生態系保全のための技術指針, <https://www.usp.ac.jp/info>
- 八尋克郎 (2019) 古琵琶湖層群の昆虫化石. 昆虫と自然, 55 (1) : 16-19.
- 八尋克郎 (2019) 甲虫コレクションガイド 15 滋賀県立琵琶湖博物館の甲虫コレクション. さやばねニュー
ーシリーズ, 35 : 8-10.
- 八尋克郎 (2020) 琵琶湖のまわりの昆虫—地域の人びとと探る—. 琵琶湖博物館ブックレット (サンライズ
出版), 10, 125pp.

- 酒井陽一郎・石川可奈子・佐藤祐一・井上栄壮・芳賀裕樹 (2019) 水草管理による生態系再生に向けた研究. *琵琶湖環境科学研究センター研究報告書 (平成 30 年度)*, 15, 滋賀県,
www.lberi.jp/wising/file/download/1/363
- 佐藤祐一・酒井陽一郎・芳賀裕樹 (2020) 琵琶湖南湖における水草分布の過去と現在～水草消長モデルを用いた再現～. *第 54 回日本水環境学会年会講演集*, p. 401.
- 中井克樹・沖津二郎・浅見和弘・大杉奉功・笹田直樹 (2020) ダム湖における侵略的外来魚の生息抑制手法. In: 水源地生態研究会 (編) *水源地生態研究会報告書*, (一財) ダム水源地センター, 東京, pp. 2-103-2-110.
- 源 利文・速水花奈・福岡有紗・池田紗季・後藤成美・坂田雅之・稲川崇史・沖津二郎・片野 泉・土居秀幸・中井克樹・一柳英隆・後藤 亮・宮 正樹・佐藤博俊・山中裕樹 (2020) ダム湖における環境 DNA による生物調査の実装化に向けた検討. In: 水源地生態研究会 (編) *水源地生態研究会報告書*, (一財) ダム水源地センター, 東京, pp. 7-29-7-39.
- Kanao, S. and Hasegawa, K. (2019) *Gymnogobius isaza*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T110461312A110461327.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T110461312A110461327>. en
- Kanao, S., Watanabe, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Sarcocheilichthys biwaensis*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T110464455A110464467.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T110464455A110464467>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K. and Mukai, T. (2019) *Ischikauia steenackeri*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T114826015A114826025.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T114826015A114826025>. en
- Kanao, S., Taniguchi, Y. and Watanabe, K. (2019) *Oryzias latipes*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T166979A1159322.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T166979A1159322>. en
- Kanao, S. and Hasegawa, K. (2019) *Gnathopogon caerulescens*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T114640023A114640052.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T114640023A114640052>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K., Mukai, T. and Nakajima, J. (2019) *Cobitis magnostriata*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055145A122055153.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055145A122055153>. en
- Kanao, S., Watanabe, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Rhinogobius biwaensis*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055606A122055620.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055606A122055620>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K. and Mukai, T. (2019) *Carassius cuvieri*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T166137A1114496.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T166137A1114496>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K., Mukai, T. and Nakajima, J. (2019) *Biwia zezera*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T116033622A116034107.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T116033622A116034107>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K., Mukai, T., Nakajima, J. and Takaku, K. (2019) *Hemigrammocyppris neglectus*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T116029799A116029877.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T116029799A116029877>. en

- Kanao, S., Hasegawa, K. and Mukai, T. (2019) *Biwia yodoensis*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055098A122055107.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055098A122055107>. en
- Hasegawa, K., Kanao, S. and Mukai, T. (2019) *Silurus lithophilus*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T110464579A110464605.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T110464579A110464605>. en
- Hasegawa, K., Kanao, S., Miyazaki, Y., Mukai, T., Nakajima, J., Takaku, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Tanakia tanago*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T21383A110464790.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T21383A110464790>. en.
- Hasegawa, K., Kanao, S., Miyazaki, Y., Mukai, T., Nakajima, J., Takaku, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Acheilognathus longipinnis*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T213A116034178.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T213A116034178>. en.
- Hasegawa, K., Kanao, S., Miyazaki, Y., Mukai, T., Nakajima, J., Takaku, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Pseudorasbora pugnax*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055564A122055572.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055564A122055572>. en.
- Taniguchi, Y., Kanao, S. and Watanabe, K. (2019) *Oryzias sakaizumii*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055463A122055482.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055463A122055482>. en.
- Watanabe, K., Kanao, S. and Taniguchi, Y. (2019) *Tachysurus ichikawai*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T39293A110460709.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T39293A110460709>. en
- Mukai, T., Hasegawa, K. and Kanao, S. (2019) *Gymnogobius cylindricus*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055267A122055277.
<https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055267A122055277>. en.
- 石崎大介・金尾滋史・亀甲武志・酒井明久・中尾博行・藤岡康弘・松田征也・馬淵浩司 (2019) 魚種別の生態・生活史と保全方法. 平成 28~30 年度 滋賀県立大学特別研究成果「水田地域における生態系保全のための技術指針」 Ver. 1. 0. <http://www.usp.ac.jp/info/v170/>.
- 金尾滋史・田畑諒一 (2019) 湖魚奇観に描かれた生き物の解説. 野洲市歴史民俗博物館 (編), 令和元年度秋期企画展展示図録「人と魚の歴史学」, 野洲市歴史民俗博物館, 野洲, pp. 12-25.
- 金尾滋史 (2020) 淡水魚の保全に関わる様々な連携. スイゲンゼニタナゴを守る市民の会・芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会 (編), 第 69 回魚類自然史研究会関連シンポジウム スイゲンゼニタナゴの過去・現在・未来~芦田川の魚の保全にむけて~報告書, スイゲンゼニタナゴを守る市民の会・芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会, 福山, pp. 43-47.
- 高橋啓一・島口 天・松岡由子 (2020) 津軽海峡から産出したセイウチ類の犬歯化石. *化石研究会会誌*, 52(2) : 69-75.

(2) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館の研究成果発信の一環として、「新琵琶湖学セミナー」を開催している。2019 年度は、リニューアルオープンする A 展示室の新しいテーマ「湖の 400 万年と私たち - 変わる大地・気候・生き物 -」をセミナーのタイトルとし、古代湖である琵琶湖の 400 万年のものがたりについて、湖の生き物・大地・気候という 3 つのテーマの最新の研究成果を紹介し、現在の私たちの暮らしとの関係性についても伝えるセミナーとした。

具体的な内容は下記の通りである。例年通り熱心な参加者が多く、質疑も活発に行われた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第2回は会場をホールに移動して実施したが、第3回は中止となった。第1回と第2回の一般参加者数は、のべ130人であった。

開講日：1月25日(土)・2月22日(土)・3月28日(土) (3月はコロナ禍により開催中止)

開講時間：13:30～15:50

会場：第1回 琵琶湖博物館セミナー室 第2回 琵琶湖博物館ホール

第1回(1月25日)「うつり変わる湖の生き物とDNAから探る進化の歴史」 参加人数：71人

田畑諒一(琵琶湖博物館)：「DNAからみる魚の進化のものがたり」

三浦 収(高知大学)：「化石とDNAからみるカワニナ類の進化のものがたり」

第2回(2月22日)「うつり変わる湖と大地の震え」 参加人数：59人

里口保文(琵琶湖博物館)：「湖を動かした大地のうつり変わりー湖がのこした痕跡を追うー」

小松原 琢(産業技術総合研究所)：「湖国を揺すった大ナマズたちー地形と地質と歴史から探る活断層の活動史ー」

第3回(3月28日)「うつり変わる気候と森」 (コロナ禍により開催中止)

山川千代美(琵琶湖博物館)：「琵琶湖を取り巻く森のものがたりー400万年の移り変わりー」

中川 毅(立命館大学)：「暴れる気候と暴れない気候ー人類は「想定外」の時代をいかに生きたかー」

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

1) 研究セミナー

学芸職員および特別研究員の研究発表と研究交流の機会として、毎月第3金曜日 13:15～15:15 に琵琶湖博物館セミナー室において、以下の研究セミナーを開催している。

第1回 4月19日 38人

亀田佳代子・前迫ゆり・藤井弘章・牧野厚史「カワウと森と人の150年史」

大槻達郎「琵琶湖湖岸と海浜に生育するハマエンドウにおける環境ストレスへの適応的な応答」

妹尾裕介「胎土からみた琵琶湖周辺地域の縄文土器の地域性」

第2回 5月17日 29人

田畑諒一「琵琶湖産魚類のミトコンドリアゲノムにおける自然淘汰の痕跡」

大塚泰介「東海層群と古琵琶湖層群の珪藻化石：大型タラシオシラ科珪藻を中心に」

八尋克郎・中西康介・牛島稔広「滋賀県昆虫目録の公開」

第3回 6月21日 27人

橋本道範「中世菅浦のビワー環境史的消費論の構築に向けてー」

鈴木隆仁「薄型水槽におけるオカメミジンコの長期飼育法」

渡部圭一「里山の近代史：近江湖東における「はげ山」の植生回復過程」

第4回 7月19日 26人

里口保文「琵琶湖南湖堆積物の堆積相と堆積速度」

Robin SMITH「田んぼのカイミジンコの分類学について」

左子芳彦(特別研究員)「熱水環境に生息する好熱菌の生理・生態学的研究」

第5回 8月16日 24人

戸田 孝「「はしかけ制度」を介した「科学館的手法」展開の試み」

松田征也「希少淡水魚の保全」

寺本憲之(特別研究員)「滋賀県の蚕糸業の歴史と未来」

- 第6回 9月20日 36人
 中井克樹「自然保護行政を兼務して：行政における課題と博物館への期待」
 金尾滋史「自然史情報集約の場としての博物館の機能」
 中村久美子「ディスカバリールームのリニューアルと幼児の博物館活動について」
- 第7回 10月18日 24人
 芦谷美奈子「展示空間におけるハンズ・オン手法の有効性と限界」
 林 竜馬「滋賀県西の湖におけるヨシ花粉生産量推定と市民参加型調査による冬季のヨシ地上部生物量の測定」
 山川千代美・ジョンウキョン・小林真生子・松本みどり「三重県伊賀市市部の木津川河床の化石林」
- 第8回 11月15日 22人
 芳賀裕樹「南湖の沈水植物は消えたのか？」
 楊 平「水辺と暮らし」
- 第9回 12月20日 32人
 榎永一宏「福島県只見町におけるアシナガバエの多様性」
 柏谷健二（特別研究員）「湖沼堆積物情報と地球環境変動－バイカル湖と琵琶湖の比較－」
 藤岡康弘（特別研究員）「人々は琵琶湖で何を採ってきたのか。」
- 第10回 1月17日 29人
 片岡佳孝「耳石から魚類の生態を探る」
 下松孝秀「明治・大正期の琵琶湖岸農地開発の実態について」
 山本充孝（特別研究員）「琵琶湖産アユにおける脊椎骨異常（変形症）の発生機序について」
- 第11回 2月21日 19人
 奥野知之「学習内容に合わせた博物館の活用Ⅲ」
 山本綾美・吉川 章「少花粉ヒノキミニチュア採種園育成方法の確立を目指して」
 山中大輔・水野敏明・東 善弘・小倉拓郎・浅野悟史「愛知川における河床耕耘試験施工について」
- 第12回 3月20日 29人
 柏尾珠紀（特別研究員）「フナずしの生産と消費を支えた要因－2000年頃の食文化財調査のデータより」
 由良嘉基「中学校における博物館の有効な利用法について」
 桑原雅之「琵琶湖水系におけるビワマスとアマゴの共存可能性」

なお、2019年度は特別研究セミナーの開催はなかった。

(4) 琵琶湖博物館サイエンスセミナー

2020年夏のグランドオープンに向けた期待感の醸成と琵琶湖博物館の魅力を、首都圏から全国に向けて発信するため、昨年度の第1回目に引き続き、東京・日本橋の滋賀県アンテナショップ「ここ滋賀」においてサイエンスセミナーを実施した。

■第2回 「ゾウがいた、ワニもいた 琵琶湖のほitori」

講演者：高橋 啓一

開催日時：4月20日（土） 開催時間：15:00～16:30

会場：滋賀県情報発信拠点「ここ滋賀」2階「日本橋 滋乃味」（東京都中央区日本橋）

参加者：26名

■第3回 「海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」

講演者：桑原 雅之

開催日時：7月28日（日） 開催時間：15:00～16:30

会 場：滋賀県情報発信拠点「ここ滋賀」2階「日本橋 滋乃味」（東京都中央区日本橋）

参加者：22名

(5) 琵琶湖博物館ブックレット

新琵琶湖博物館創造基本計画および行動計画に従い、研究成果をわかりやすく伝えていくため、新たに琵琶湖博物館ブックレットシリーズを刊行した。琵琶湖や近江の自然や文化を題材として、その面白さ、不思議さなどを語りながら、それらが全国的にあるいは世界的に見ても興味深いものであることを、県内外の人に発信することを目的としている。内容は、初めてそれを読む人にもわかりやすい書き方をするとともに、図や写真を豊富に使用して見て楽しめる本をめざしている。2016年度に刊行して以来、今年度は次の第10、11号を発行した。

第10号「琵琶湖のまわりの昆虫」

八尋 克郎（琵琶湖博物館）

第11号「ナマズの世界へようこそ」

前畑 政善（琵琶湖博物館名誉学芸員）

田畑 諒一（琵琶湖博物館）

研究交流

(1) 協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）に基づく連携

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）の締結に基づく研究・交流のネットワークを確立し、国内外の関係機関との連携を強化している。これまでの主として海外博物館との関係を維持するとともに、必要に応じて新たな関係を構築している。協定の締結内容としては、次の5項目である。そのほか、研究および資料、展示についての協力内容が特定される場合は、別途協議して協定を結ぶものとしている。

- ①研究者等博物館職員の交流
- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流
- ③専門技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本等の交換（生きた生物を含む）
- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2019年度までに、フランスのパリ国立自然史博物館、ロシアのバイカル博物館、北マケドニアの国立オフリド水生生物研究所、中国の中国科学院水生生物研究所と湖南省博物館、韓国の国立洛東江生物資源館、京都大学野生動物研究センターの7つの博物館・研究機関とMOUを締結している。また、新琵琶湖博物館創造基本計画の研究活動方針として、

- ・古代湖や固有種の成立や人の暮らしと生物の営みなど、「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究
- ・琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など東アジア水系の特徴を明らかにする研究

を推進することとしている。

これらを踏まえ、2019年度は次のような活動を展開した。

1) 韓国国立洛東江生物資源館（韓国慶尚北道尚州市）

韓国国立洛東江生物資源館は、韓国の淡水生物を研究する専門機関で、淡水生物の発掘、培養、遺伝的特性、生理活性、産業化などの研究を行っている。また、これらの内容に関連した様々な動物、植物、微生物の展示や教育プログラムの開発を、韓国国民を対象に行っている機関でもある。2017年4月21日に協力協定(MOU)を締結し、年1回、交互に、合同セミナーやワークショップなどを開催して情報交換を行い、共同研究や事業を進展させていくこととしている。

今年度は、5月に洛東江生物資源館で合同セミナーと展示および資料交流の打合せ、そして調査船による洛東江の見学などを行った。特に今回は、2019年度企画展示「海を忘れたサケーピワマスの謎に迫るー」に関する展示交流についての打合せも行った。

期 間： 5月21日（火）～24日（金）

メンバー：高橋啓一（琵琶湖博物館館長）

金尾滋史（琵琶湖博物館主任学芸員）

大槻達郎（琵琶湖博物館学芸技師）

根来 健（琵琶湖博物館特別研究員）

日 程：5月21日（火）館長あいさつ・情報交換

5月22日（水）調査船からの洛東江の案内、魚類採集等のワークショップ

5月23日（木）収蔵庫および展示室見学、当館企画展への協力を含む展示・資料交流の打合せ

第5回合同セミナー「日本と韓国における淡水生物の多様性と変遷」

5月24日（金）国立大邱博物館訪問・見学

(2) 研究機関との連絡活動

1) 県内試験研究機関

県立の8つの試験研究機関が琵琶湖や滋賀県の環境に関する相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議（事務局：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）が設置運営されている。その後、目的を環境に限らず滋賀県立の試験研究機関相互間の連絡調整を行い、その試験研究の円滑な推進や広く情報の発信を図ることとなった（2018年1月25日本会議）。

各機関が行っている研究やその成果について、広く一般に知ってもらうために、発表会を毎年開催している。今年度は、琵琶湖環境ビジネスメッセ共催セミナーとして、2019年10月18日（金）に長浜ドームで研究発表会を開催し、各機関1題ずつの口頭発表を行った。2020年2月5日（水）に行われた本会議では、引き続き各機関の職員が関心を持っているテーマを題材に勉強会を開催していくこと、共同研究によって新たな発展が見込まれる課題について情報共有を行っていくこと、研究倫理研修の相互参加や設備機器の相互利用などにより研究協力を進めていくことなどが確認された。

(3) 海外活動

1) 研究に関する国際用務

大塚泰介

- ・6月18日～6月23日、フィリピン・マニラ、8th biennial Scientific Meeting and Symposium of the Philippine Phycological Society, Inc. でのワークショップ講師およびゲストスピーカー

楊 平

- ・7月17日～7月23日、中国、科学研究費助成事業「稲作と中国文明ー総合稲作文明学の新構築ー」に関わる現地調査
- ・11月19日～11月28日、中国、科学研究費助成事業「稲作と中国文明ー総合稲作文明学の新構築ー」に関わる現地調査

桑原雅之

- ・9月29日～10月3日、ロシア、バイカル湖博物館との協力協定に関する打合せおよび、バイカルアザラシ研究に関する打合せ

田畑諒一

- ・9月29日～10月3日、ロシア、バイカル湖博物館との協力協定に関する打合せおよび、バイカルアザラシ研究に関する打合せ

林 竜馬

- ・12月6日～12月15日、アメリカ、科学研究費助成事業「東シナ海の花粉分析から見る40万年間の植生の温暖化応答と海流・モンスーンとの因果」に関わるAGU Fall Meetingへの参加および発表

研究部活動

(1) 研修

琵琶湖博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版（平成25年1月25日）および「博物館関係者の行動規範」（日本博物館協会平成23年3月）に準拠した「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」（2016年7月）を定め、公正な博物館活動を推進している。また、研究活動の不正行為を防止する一環として、毎年研究倫理研修を行っている。2019年度は次のような研修を実施した。

1) 第1回研究部研修「研究倫理研修」

参加者：37名

日時：10月4日（金）13：30～15：30

場所：琵琶湖博物館セミナー室

内容：「研究倫理の3つの公理」

講師：池田光穂 氏（大阪大学C0デザインセンター副センター長）

2) 日本学術振興会 研究倫理 e ラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)の受講

実施期間：3月6日～3月31日まで

受講時間：約1時間半

受講人数：43名（学芸職員その他、特別研究員10名を含む）

(2) 薬品類の管理

滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程（2017年4月1日より施行）の第4章に記述されている通り、化学薬品の保管状況および毒劇物等の使用状況について確認を行うことを目的に、9月23日から10月20日までの期間で、薬品の棚卸し作業を行った。その結果、毒物、劇物、有害物質、指定物質、第一種指定化学物質について、すべての在庫を確認した。薬品瓶の重量（容器込み）を測定し、薬品管理使用簿に記入した。棚卸しの結果は、化学薬品管理報告書にまとめ、化学薬品管理委員会の委員長に報告した。また、不要となった薬品や廃液については、廃棄を行った。

(3) 研究備品の管理

研究備品の適切な管理のため、博物館全体の研究備品を計画的に確認することとしている。今年度は、前年度までに行った研究部の調査結果と、総務部総務課の持つ県の備品台帳との情報の整合性について確認を行った。開館から20年以上が経過し、使用不可能な研究機器の現状把握と処分を進める必要がある。

3 新たな参加と発見ができる博物館

展示活動

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

- ・地域の人々による展示コーナー（コレクションギャラリー内）

『琵琶湖の生い立ち』展示室にあり、「琵琶湖の生い立ち」や「地盤の成り立ち」に関する事柄で、地域の人々が自ら調査や採集をした資料や情報をもとに、琵琶湖地域のおもしろさや、展示する人の想いや興味が伝わるような展示を目指している。展示関係者による展示室での解説や交流を不定期に開催している。

1. 2億5千万年前の近江・美濃の化石

展示した人：中川直弘さん

期間：2018年10月2日～2019年9月8日

2. 鉱物化石よもやま話

A 展示室がリニューアルされることを受けて、コレクションギャラリーの展示ケース全体を使った展示を行った。

展示した人：福井龍幸、磯部瑛仁、磯部晶碩、飯村 強、新保健志、高田雅彦、馬越 仁、新川 教、岡村喜明、中村豊美、北田 稔、長 朔男（展示導線順、敬称略）

期間：9月15日～11月24日

- ・地域の人々による展示コーナーでの展示交流

このコーナーで展示している人やその関係者が、展示物の解説や、鉱物や化石などの標本を触る体験をしてもらう等、展示室での交流を実施した。日程と実施者は以下のとおり。

4月6日（中川直弘、飯村 強）、8月4日（田中光徳）、8月11日（田中光徳）、
9月14日（飯村 強、新川 教、北田 稔）、9月15日（飯村 強）、9月28日（飯村 強）、
10月14日（北田 稔）、10月27日（北田 稔）、11月16日（田中光徳）、
11月24日（北田 稔、福井龍幸）

2) B 展示室

- ・収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」

博物館の収蔵庫で大切に保管している琵琶湖地域関連の古い文書や絵図などを、B 展示室奥の壁面展示ケースで順番に紹介している。2019年度の展示は次の通り。

期 間	展示資料名
2019年3月26日(火) ～5月12日(日)	《古文書トピック展示 いっちょもんさん物語 その二》 「田畑地六ヶ所譲証文」 明和2 (1765)、「伊勢講入用控帳」 万治2年 (1659)、 「屋敷添地売渡証文」 享保5年 (1720)、「金子借用証文」 享保8年 (1723)、 「田地売渡証文」 享保8年 (1723)、「郷中御目付庄屋役任命」 延享3年 (1746)、 「御神事祭礼勤方申合証文」 明和3 (1766)、以上すべて江戸時代・個人蔵
5月14日(火)～ 6月16日(日)	《湖を渡る神輿一日吉山王祭一》 「日吉山王祭礼図屏風 六曲一隻」 江戸時代前期 (17世紀末)、 「日吉山王祭礼図屏風 六曲一双のうち左隻」 江戸時代中期 (18世紀)
6月18日(火)～ 7月7日(日)	《屏風を読む一江戸時代の地理空間情報》 「大日本国図屏風 六曲一隻」 江戸時代前期 (17世紀後半)、 「近江名所図屏風 六曲一隻」 江戸時代中期 (18世紀前半)

期 間	展示資料名
7月9日(火)～ 9月8日(日)	《縁起の世界—石山寺縁起絵巻をよむ》 「石山縁起絵巻 第二巻」(複製) 南北朝時代(14世紀)
9月14日(土)～ 10月20日(日)	《江戸時代の風景—琵琶湖真景図をよむ》 「琵琶湖真景図」江戸時代末期(19世紀)
10月22日(火)～ 11月24日(日)	《収蔵庫をのぞいてみよう! ザ・ファイナル》 「郁子図」江戸時代後期(19世紀)、 「青蓮院宮尊円入道親王令旨」鎌倉時代(14世紀)

3) C 展示室

① 「川から森へ」コーナー

川を守る人びとのパネル展示を更新した。

- ・4月2日～ 小佐治環境保全部会・総合地球環境学研究所栄養循環プロジェクトと近江八幡市立馬淵小学校のパネル展示を更新した。

② 「生きものコレクション」コーナー

・「生きものちがいと変化」の「移り変わり」の展示を更新した。

・1月30日～ レッドデータブック4冊を更新した

・移り変わり紹介パネルを4点(オオバン・ホンモロコ・ニゴロブナ・セタシジミ)を更新した。

③ 「これからの琵琶湖」コーナー

毎年更新する「これからの琵琶湖コーナー」にある研究スタジアムは、7月1日に第4期に更新された。各ブースの展示担当は、大塚、スミス、渡部、中村、里口である。

4) 水族展示室

季節ごとに常設展示の展示替えを行った。また、展示パネルの新規設置および内容更新を行った。

4月1日～	マイクロアクアリウム	アカヒレタビラの仔魚展示開始
4月15日～	マイクロアクアリウム	カイダニ展示開始
6月5日～	マイクロアクアリウム	ニッポンバラタナゴの仔魚展示開始
6月12日～	下流域の魚たち水槽	ウグイからハス・アユへ展示替え
6月13日～	マイクロアクアリウム	アミメネコゼミジンコ展示開始
6月13日～	マイクロアクアリウム	田んぼのエビ展示開始
7月3日～	マイクロアクアリウム	アメーバ展示開始
7月6日	マイクロアクアリウム	田んぼのエビ展示終了
7月8日～	湖底の生き物水槽	ビワオオウズムシ展示開始
7月26日～	マイクロアクアリウム	マミズクラゲのクラゲ体展示開始
7月27日	ナイトアクアリウム開催	
7月31日～	中流域の魚たち水槽	ナガレカマツカ展示開始
8月3日～	マイクロアクアリウム	イタチムシ生体展示開始
8月10日～	マイクロアクアリウム	マミズクラゲ展示開始
9月8日～	下流域の魚たち水槽	アユへ展示替え
9月8日～	マイクロアクアリウム	タイリクバラタナゴ仔魚展示開始
9月26日～	バイカル大水槽	シュカ展示開始
10月17日～	マイクロアクアリウム	エビノコバン展示開始
11月20日	下流域の魚たち水槽	アユからビワマスへ展示替え

11月12日～	バイカル大水槽	オークニ展示開始
11月12日～	マイクロアクアリウム	マミズクラゲのポリプ展示開始
12月9日～	マイクロアクアリウム	アカリコケムシ展示開始
12月15, 16, 22～24日	トンネル水槽	サンタ潜水イベント
12月19日～	湖底の生き物水槽	アナンデールヨコエビ展示開始
1月2日	下流域の魚たち水槽	ビワマスからオイカワへ展示替え
1月2日～	一部水槽（琵琶湖固有種の水槽、バイカル湖小水槽）の照明に水中LEDを導入	
1月2日～	マイクロアクアリウム	ネズミワムシの展示開始
1月7日～	マイクロアクアリウム	アオミドロ展示開始
1月21日	下流域の魚たち水槽	オイカワからワカサギへ展示替え
3月12日～	下流域の魚たち水槽	ウグイへ展示替え

5) D展示室 ディスカバリールーム

「子どもと大人と一緒に楽しむ体験と発見」をテーマに、2018年7月6日リニューアルし、新しい展示構成となった（展示構成は以下の表のとおり）。リニューアルでは、「琵琶湖博物館の入口」となる展示室という方針は継承し、新たに五感や実物標本を使った体験型展示により学び発見する喜びを知ってもらえる場とした。具体的には、五感を使う展示、親子で楽しめる展示、本物を体験する展示、身近なものをテーマにした更新展示を軸に構成し、小さなころから博物館に親しむことでミュージアムマナーも身につけられるような場を目指している。今年度はとくに新展示を活用したイベント作りに取り組んだ。

	コーナータイトル	内容	概要
1	さわってみよう	化石・レプリカ・石	触覚を使い、材質による手触りの違いを知る
2	聞いてみよう	コオロギ、アマガエル、コウモリの模型	聴覚を使い、生き物が音を出す仕組みを知る
3	におってみよう	季節の植物の匂い抽出液、オオサンショウウオの匂い（人工）	嗅覚を使い、生き物が出す匂いや意味を知る
4	大きくしてみよう	昆虫類、植物、鳥のハネ、アザラシのひげなど	視覚を使い、普段と違う視点で拡大して見る
5	さがしてみよう	カラス・フクロウ・スズメ・カワセミを双眼鏡で探す	発見する楽しみを知る導入として、室内の生き物を探す
6	見つけてみよう ー生き物のすみかー	キツネ、タヌキ、ネズミ、モグラの剥製など	空間的に配置した剥製を体感しながら生き物のすみかを知る
7	見つけてみよう ー生き物のかたちー	タヌキの剥製、骨格標本、信楽焼きのタヌキ	目線近くに配置した剥製をじっくり観察し、頭の中のイメージとの違いに気づく
8	のぞいてみよう ー魚の世界ー	ナマズ、コイ、ニゴロブナ	間近でじっくり観察し、さらに人それぞれの見え方の違いに気づく
9	人形げきじょう	季節ごとのパペット	新しいびわこの仲間のパペットを加えた
10	おばあちゃんの台所	井戸、いろり、かまどなど	昭和の古民家を再現
11	ザリガニになろう	ザリガニ大型模型	ザリガニになった気持ちでエサを獲る
12	ディスカバリーコーナー	季節ごとのディスカバリーボックス	館内の多様なテーマごとに詰め込んだボックス
13	イノシシの歯、コウモリの歯	2種のアゴの動き方模型	歯の役割、仕組みを知る
14	みんなのたからもの	来館者が見つけた宝物	参加型の展示コーナー
15	ブックコーナー	図鑑類	学芸員が子どもの頃読んでいた本の紹介
16	糸描きコーナー	毛糸で絵を描くボード	
17	かげえボックス	影絵用のライトとスクリーン	

各コーナーで季節に合わせた展示物の入れ替えを次の表の通り実施した。また人形げきじょうでは今年度1種(龍)を新規製作した。ディスカバリーボックスはリニューアルにあわせて17種類を新規製作・更新した。

【季節展示】

展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	春 version	4月1日～6月28日
	こどもの日	4月13日～5月5日
	七夕	6月29日～7月7日
	夏 version	7月21日～9月16日
	秋 version	9月17日～12月9日
	土用	7月21日～7月27日
	お月見	9月13日～9月16日
	冬 version	12月10～1月25日
	冬至	12月15日～12月22日
	お正月	1月2日～1月11日
	七草	1月3日～1月7日
	節分	1月26日～2月2日
	ひな祭り	2月24日～2月27日
	春 version	2月24日～3月31日
ブックコーナー	春 version	4月10日・5月2日・6月6日
	夏 version	6月25日・8月11日
	学芸員(片岡・渡部・山本)の紹介本	8月6日～2月3日
	秋 version	10月1日・11月13日
	学芸員(桑原・鈴木・山川)の紹介本	2月4日～3月31日
	冬 version	11月24日・12月11日・2月4日
にんぎょう劇場	春 version	5月2日
	夏 version①	6月11日
	夏 version②	8月9日
	秋 version	10月1日・10月22日
	冬 version	12月16日
生きものの展示	ナマズ	常設
	コイ	常設
	フナ	常設
	カイコ	7月10日～8月31日
ディスカバリーボックス	春 version	4月1日～6月2日
	夏 version	6月3日～10月6日
	秋 version	10月7日～12月12月14日
	冬 version	12月16日～3月31日
におってみよう	春 モミ	5月8日～7月24日
	春 シノブヒバ	5月16日～7月10日
	夏 クスノキ	7月25日～8月25日
	夏 ヨモギ	7月11日～11月25日
	夏2 ニホンハッカ	8月25日～12月4日
	夏2 ヘクソカズラ	9月4日～12月3日
	冬 フウ	9月4日～2月25日
	冬 モミ	12月5日～3月16日
冬 シノブヒバ	3月17日～3月31日	

【展示体験企画】「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」

におってみようの植物展示用芳香蒸留水の作成時に、来館者の見学体験の受け入れを行い、実際に香りの抽出を行う様子を知ることによって展示への興味や野外展示林への関心を高める目的で行った。

※抽出植物は野外展示林もしくは博物館周辺に生息する植物で行う。

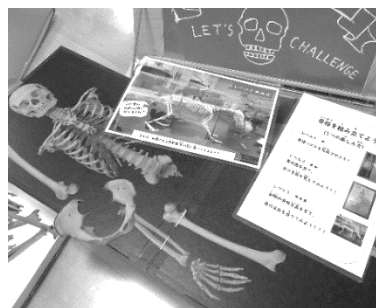
日 時	実施植物	参加者	備 考
5月15日(水)	ヨモギ	5	各回定員5名
7月10日(水)	ハッカ	5	
9月4日(水)	フウ	5	
12月4日(水)	モミ	5	

【常設展示】

- ・「人形げきじょう」：新規（龍）2体を製作。
- ・「ディスカバリーコーナー」：ディスカバリーボックスの新規製作、更新
新規「オトシブミ」、「カタツムリ」
更新「骨格をくみたてよう」（繁忙期版）



新規パペット(龍)



ディスカバリーボックスの更新
（「骨格をくみたてよう」）

【その他】

- ・新任研修

日時：4月11日

対象：新任職員、新規展示交流員

内容：ディスカバリールームの主旨とリニューアル後の展示室における展示交流員の業務内容を中心に研修をした

- ・モーニングレクチャー

日時：5月7日～10日

対象：展示交流員

内容：リニューアル後の展示内容とディスカバリールームでの展示交流の在り方について研修をした

6) E展示室 おとなのディスカバリー

おとなの好奇心を刺激して、おとなが心から楽しめる展示室で、第2期リニューアルにより2018年7月6日に新しく誕生した。より体験的な展示と、博物館で活動している人たちの出会い・集いの場、そしてフィールドへ出たくなるような空間で、繰り返し利用されることを目指した部屋で、しらべるゾーン、質問コーナー、オープンラボ、交流コーナー、滋賀県本コーナーの5つのゾーンから構成されている

「しらべるゾーン」の展示更新と交流活動は以下の通りである

【植物】

・植物標本

- 4月 これ、知っていましたか？ー標本整理をしている人しか知らない裏話ー ヒサカキ(*Eurya japonica*)
7月 フウを見て時の流れを感じる
11月 紅葉と花と実を見ることができる木 マルバノキ マンサク科
1月 コオニタビラコは春の七草の一つです

・植物細密画

- 4月 はしかけ「湖(こ)をつなぐ会」杉野由佳さん 植物細密画の世界
カタクリ *Erythronium japonicum*, フジ *Wisteria floribunda*, ホトケノザ他 16 作品
6月 はしかけ「湖(こ)をつなぐ会」杉野由佳さん 植物細密画の世界
スイレン、ノアザミ他 16 作品
11月 はしかけ「森人」矢原 功さん 植物細密画の世界
晩秋の植物ノブドウ、サネカズラ、ジュズダマ他 20 作品
1月 出口武洋さん 樹冠トレイル虹景
3月 出口武洋さん 桜

・植物写真(大型)

- 5月 博物館に生えるタンポポ
7月 湖岸の夏風景
9月 初期の紅葉
10月 紅葉終盤
12月 冬の太古の森
2月 琵琶湖の雪景色(ケヤキ)
3月 桜とヒヨドリ

・植物(映像)

- 6月 秋の植物 36点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」村山和夫さん
9月 秋の植物 24点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」村山和夫さん
12月 冬の植物 39点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」村山和夫さん
3月 春の植物 37点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」村山和夫さん

・ハンズオン

- 4月 セイオユタンポポ、カラスノエンドウ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、クスノキ、
ヒメオドリコソウ、ムラサキサギゴケ、ヤツデ、カツラ、ハウチワカエデ、フウ、メタセコイア
7月 キカラスウリ、ハス、ヘクソカズラ、ドクダミ、オニグルミ
10月 キンミズヒキ、ハウチワカエデ、カツラ、イチイガシ、ツユクサ
1月 ヤツデ、サザンカ、ロウバイ、ナンキンハゼ、オニグルミ、クズ、ヌルデ

・正面展示

- 4月 セイヨウタンポポとカンサイタンポポ(レプリカ)
6月 ホタルに関係する草花、ホテイアオイ
10月 コイブキアザミ、ベニテングタケ、ツキヨタケ(レプリカ)
11月 バカマツタケ
1月 羽子板と羽根(ムクロジ)、「干支の植物 2020 ネズミ(鼠、子)がつく植物」
2月 セイヨウタンポポとカンサイタンポポ(レプリカ)
2月 タチスズシロソウ(レプリカ)

・正面展示周辺

- 4月 植物化石、樹木スプーン
- 5月 ハーバリウム はしかけ「緑のくすり箱」吉野まゆみさん
- 7月 「オリンピックの彫り方」 坂手久郎さん
- 12月 クリスマスリース はしかけ「緑のくすり箱」吉野千栄子さん
- 12月 ツバキ (レプリカ)

・棚 (季節の植物：博物館に生える植物・生物)

- 5月 オオセミタケ
- 6月 コモチマンネングサ
- 9月 ホソツクシタケの仲間
- 11月 紅葉ハウチワカエデ等 3点

・棚 (フィールドレポーター通信)

- 4月 大津の関西タンポポ探し フィールドレポーター 中野敬二さん
- 11月 集まれ！モミジ (カエデ) の仲間たち フィールドレポーター

・はしかけ (担当：芦谷美奈子)

- 4-5月 「タンポポ調査西日本 2020」あなたも参加しませんか?
- 1-3月 「タンポポ調査西日本 2020」あなたも参加しませんか?

【岩石・鉱物・化石】

10月19日 (土) 10時～16時 「びわ博フェス」のイベントの一つ
 展示の岩石を使った一般来館者への、滋賀県の岩石クイズや解説、岩石を触ってもらうなど、交流を行った

【鳥類】

・展示交流活動 フロアトーク

- 4月7日 「キジバトの子育て」
- 6月12日 「キジバトの子育て」
- 9月17日 「キジバトの子育て」
- 2月8日 「キジバトの子育て」

【哺乳類】

2月13日 ドブネズミ 本はく製、クマネズミ 本はく製、根朱筆 (蒔絵筆) の展示を更新した

「オープンラボ」での実演や交流活動等の使用実績は124件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
4月1日～3月6日	展示係ミーティング (50件)	展示係
4月3日	土に含まれる鉱物観察	妹尾
4月12日	花粉化石の観察	林
4月13日	保全計画ミーティング	はしかけ海浜植物
4月18日	土器観察	妹尾
4月19日	タンポポの花粉の写真撮影の練習	フィールドレポーター中野
4月20日～2月22日	剥製のスケッチ (6件)	はしかけ淡海スケッチの会
4月26日	ディスカバリールームミーティング	ディスカバリールーム担当
4月30日	フィールドレポーター打ち合わせ	フィールドレポータースタッフ
4月30日～8月13日	タンポポの花粉の写真撮影 (8件)	フィールドレポーター中野
5月1日	花粉化石の観察と研究打ち合わせ	米原高校地学部
5月1日～10月8日	植物化石選別作業 (8件)	古琵琶湖発掘調査隊

日付	内容	担当
5月5日	除草対象の植物の確認	はしかけ海浜植物
5月31日	総合研究打ち合わせ	研究部
6月1日	小さな生き物の観察	琵琶湖の小さな生き物を観察する会
7月2日～1月14日	昆虫標本作成の実演(7件)	榊永
7月12日	韓国洛東江生物資源館対応ミーティング	研究部
8月1日	フィールドレポーター打ち合わせ	松岡
8月3日	京都府立南陽高等学校夏季実習	鈴木
8月4日	植物観察の会	
8月7日	花粉化石の観察と研究打ち合わせ	米原高校地学部
8月7日	植樹祭ギャラリー展打ち合わせ	山本
8月28日	海外視察(中国昆明動物博物館)協議	中井・大槻・スミス
8月29日	昆虫標本整理の実演	八尋
9月4日	視察	下松
9月5日	視察	大塚
9月16日	同志社大学地学部	山川
9月17日・19日	研究打ち合わせ(2件)	山川
9月20日	びわ博フェスの打ち合わせ	はしかけ海浜植物
9月22日	研究打ち合わせ	米原高校地学部
9月23日	昆虫観察	大槻
9月25日	昆虫標本整理の実演	八尋
9月29日	びわ博フェスのためのポスター制作	はしかけ淡海スケッチの会
10月8日～11日	モーニングレクチャー(4回)	芦谷
10月14日	企画展示ミーティング	亀田
10月20日	びわ博フェス・骨格標本製作	ほねほねくらぶ
10月20日	びわ博フェス・昆虫観察	虫架け
10月25日	打ち合わせ	滋賀県立草津東高校放送部
10月27日	研究打ち合わせ(同志社大学)	山川
10月30日	水草の同定	芦谷
12月8日	虫バッジ作り	ザ!ディスクバはしかけ
2月7日	研究部代表者会議	研究部
2月8日	ミーティング	はしかけサロン de 湖流
3月1日	食と文化会議	食と文化の研究会
3月3日	創造室会議	新琵琶湖博物館創造室
3月10日	研究部領域会議	博物館学領域

「交流コーナー」での使用実績は7件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
7月29日	県立守山中学校質問対応	亀田
9月25日～1月8日	活動打ち合わせ(5件)	はしかけ大津の岩石調査隊
10月30日	フロアトーク	芦谷

7) 屋外展示

・樹冠トレイルを活用した来館者との展示交流活動

第2期リニューアルで2018年にオープンした樹冠トレイルを活用して、屋外展示の植物の魅力の間近で体感してもらうための展示交流活動を実施した。また、植物の管理をはじめとした屋外展示の整備活動を行っ

た。交流活動と整備活動については、はしかけグループ「森人（もりひと）」と全面的に協力して、地域の人々による来館者との交流を行った。

- 6月8日 樹冠トレイルの森ガイド
- 8月24日 おとなのディスカバリーを利用した交流活動 「植物をスケッチしよう！」
- 9月14日 わくわく探検隊「葉っぱの形に注目しよう！」
- 10月20日 びわ博フェス「森のガイドツアー」



・園路橋の改修

一般駐車場から博物館へ向かうところにある園路橋は開館以来25年が経過して、表面が一部腐食し、雨が降ると水たまりが出来る状況であった。そこで、グランドオープン控え、園路橋の改修を行い、2020年2月22日から使用を開始した。橋の上に土砂等が堆積すると橋の表面の摩耗等が進むため、今後はこまめな維持管理作業が重要となる。また、今回の工事で工夫した点は、降水時に園路からの土砂を含む雨水排水が橋にかかりにくくなるように、橋上流の横断溝を延長するとともに、園路の端部（側部）に素掘り側溝（歩行者の転落に支障のない程度の深さ）を設置した。



園路橋

・屋外展示にかかる案内サインの新設

駐車場からの経路が解りにくいことは開館当初からの当館の課題であるが、その対策として設置していたクイズ案内板などの看板類が2018年9月の台風第18・21号で大きく損傷し、想定していた機能を果たさなくなっていた。そこで、看板類の設定について、従来のものでは対応できていなかった問題も含めて、改めて全体計画を見直した。そしてそれに基づいて、2019年6月に新規看板類5基を新設した。その運用状況を踏まえて7月には1基を修正し、10月には1基を追加した。従来から設置されていた歩行者向け案内看板で引き続きまたは台風後に修復して運用しているものは11基あるので、併せて17基となった。

また、屋外に設置されている案内地図の状況についても検討を進め、そのうち駐車場からの経路の途中にある1基について内容が古くなって不適切と判断されたので、新たな案内地図の作成に向けた作業を行った。予算上の都合により、実際の設置は来年度以降となる予定である。

2019年6月上旬に、屋外展示空間で鳥に食品を取られた来館者が居るらしいという情報があった。前年秋から樹冠トレイルを運用開始したことに伴って、来館者と鳥との距離が縮まっている可能性が考えられ、同様の被害が従来より増える可能性も考えられることから、エントランスから屋外展示への出口に来館者に注意喚起する掲示を追加した。

(2) 企画展示・水族企画展示

1) 第27回企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」

The salmon that forgot the sea -the mysteries of the Biwa salmon-

① 主旨

世界有数の古代湖である琵琶湖には、約60種の固有種が生息し、世界的にも貴重な生物多様性のホットスポットとなっています。同時に、琵琶湖周辺の地域には固有の魚と深く結びついたユニークな食文化や漁撈文化が存在し、固有種と人の持続可能な共存関係の構築が重要な課題となっています。

この課題に取り組むため、琵琶湖固有のサケ科魚類であるビワマス(*Oncorhynchus masou* subsp.)に焦点を当て企画展示を開催します。同種は琵琶湖の成立と並行して進化し、琵琶湖を海に見立てて下るといって、大変ユニークな生活史を持つ世界的にも貴重な種です。加えて、ビワマスは琵琶湖の生態系の中で高次の消費者として位置づけられることから、ビワマス個体群の動向は、琵琶湖の生態系の状況を示す指標の一つになり得ると考えられます。

ところで、平安時代に編纂された延喜式にも記述があるように、ビワマスはきわめて古くから滋賀・京都の人々にきわめて美味しい食用魚として親しまれてきました。しかし近年、ビワマスについては琵琶湖生態系と人との関わり方が大きく変化し、琵琶湖の環境も大きく変化してきました。将来に向けて、ビワマスと人との持続的な発展的共存関係を構築していくためには、多くの立場の人々に現状を知ってもらおうと共に、そのあり方を考え実践してもらう必要があります。

本企画展では、ビワマスを琵琶湖生態系のシンボルとし、長年の研究の蓄積や最新の遺伝子研究の成果を踏まえ、ビワマスの生態や進化の過程を示すことで、この魚の貴重さについて紹介すると共に、同種が滋賀・京都の食文化の中で長年にわたって愛されてきた事を紹介します。また、生息環境の変化や、人間活動の変化によってこのビワマスにも種の存続の危機が迫っていることを紹介し、来場者の皆さんと共に持続可能な共存関係の構築の必要性について考えたいと思います。

② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：7月20日(土)～11月24日(日) *実質開催日数115日

場 所：琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料金：小中学生150円(120円)、高・大学生240円(190円)、大人300円(240円)

(()内は20名以上の団体、団体会員、キャンパスメンバーズ、水槽サポーター料金)

観覧者数：42,478人

展示企画・制作：桑原雅之(主担当)、芳賀裕樹(副担当)、片岡佳孝(副担当)、田畑諒一(副担当)、
金尾滋史(副担当)、出口武洋(パネル等デザイン)

展示施工：株式会社 本庄

展示協力：天野洋典、荒金利佳、知来 要、大橋智之、大喜のぞみ、出口武洋、藤岡康弘、藤原きよし、
福田政行、布施雄大、郭金泉(GWO, J.C.)、平山次夫、廣田利之、石原 清、加藤 巧、北原一平、
亀甲武志、菊池基弘、木村男也、小林 眞、近藤義和、松岡正蔵、光永 靖、森田健太郎、
中川美千代、鍋島直晶、新村安雄、新田雅一、大久保作蔵、大島正伸、佐藤祐一、里口保文、
謝英宗(Shei, Ying-Tzung)、菅原和宏、杉江秀生、杉本宏樹、杉本まりえ、田中秀具、坪井潤一、
上野嘉之、若林 輝、若松博幸、藪本美孝、山本祥一郎、山本秀徳、吉安克彦、YU Jeong-Nam、
中禅寺湖漁業協同組合、彦根市立図書館、廣田写真事務所、韓国国立洛東江生物資源館、
北九州市立自然史・歴史博物館、国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所 沿岸・
内水面研究センター内水面漁場管理グループ、国立研究開発法人水産研究・教育機構北海道区
水産研究所さけます資源研究部、米原市、米原市ビワマス倶楽部、百瀬漁業協同組合、

西浅井漁業協同組合、サケのふるさと千歳水族館、滋賀県立図書館、滋賀県水産課、滋賀県水産試験場、滋賀県醒井養鱒場、滋賀県漁業協同組合連合会高島事業場、台湾国立台湾博物館、湖香六根、家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスに戻すプロジェクト

③ 展示内容

【概要】

ビワマスの研究の歴史や近年明らかにされてきた生態や生活史、琵琶湖の成立と共に進化してきた様子について、最新の研究成果を元に紹介すると共に、漁業、レジャー利用の状況、増殖事業の概要、ビワマスを利用し、守っていこうとする人たちの活動について、パネルや映像を使用して紹介した。

展示では、プロローグで魚類写真家の廣田利之氏が撮りためたビワマスの生態写真を展示し、来場者にビワマスを感じてもらおうこととした。また、玖珠盆地で発掘されたサクラマス群の化石や、台湾ンマス、韓国のサクラマス、またビワマスが移植された中禅寺湖のホンマス等について、剥製やレプリカ、その他の資料を使ってビワマスの進化とその位置付け、人の活動との関わりについて紹介した。

子どもの来場者向けに、ビワマス釣り体験コーナー、お絵かきコーナー等も設置した。

今回の企画展示では、来場者同士が意見交換できる場として、「一緒に考えよう ～ビワマスとの未来～」と題したコーナーを設けると共に、企画展関連シンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」を開催し、そこで出た意見も展示することで、来場者発信型の展示の試みを行った。これらについては、(財)科学博物館振興財団からの助成を得て実施した。

【各コーナー】

プロローグ

川と湖の巡礼魚 ～ビワマス讃歌～ 廣田利之氏写真展

第1章

1-1 ビワマスの生活を探る

海を忘れたサケ –ビワマスの生活史–

川で生まれ、琵琶湖に降る

湖での生活 ビワマスはどこにいる？ –超音波発信器を着けて追跡する–

湖での生活 ビワマスは何を食べる？

ビワマスは生まれた川に戻るのか

1-2 ビワマスとサツキマス（アマゴ）

サツキマス（アマゴ）とは

ビワマスとサツキマス（アマゴ）の見た目の違い

ビワマスとサツキマス（アマゴ）研究の流れ

江戸時代の人々は区別していた

亜種とは何か

1-3 ビワマスとアマゴ共存のメカニズム

これまで考えられていたビワマスとアマゴの関係 –琵琶湖と流入河川–

ビワマスにも河川残留型がいた

ビワマスにも初夏に河川に遡上する一群がいる

ビワマスはなぜアマゴと交雑しなかったのか

魚は山を越えてやってくる –イワナを例に–

第2章

ビワマスの進化の謎に迫る

ビワマスと仲間たち –サクラマス群各亜種の降湖（海）型と河川生活期（河川型）–

サクラマス群各亜種の分布
サケ科魚類の中でのサクラマス群の位置づけ
サクラマス群の遺伝的關係
海を忘れたサケー北湖の誕生と共にー
玖珠盆地で発見されたサケ科魚類の化石
韓国のサクラマス（ヤマメ）
台湾の国宝魚となったタイワンマス

第3章

3-1 ビワマスとつきあう

ビワマスを獲るー小糸網漁ー
ビワマスを獲るーレイクトローリングー
ビワマスを食べる
風土と育む 滋賀の「食」最前線

3-2 ビワマスを増やす

ビワマスを養殖するー醒井養鱒場ー
ビワマスの増殖事業
ビワマスの移植ー中禅寺湖のホンマスー

第4章

ビワマスと共存していくために

漁獲量の減少

ビワマスが消える？

- ・ビワマスと共存していくための新しい動き
遊漁者による引縄釣りのこれまでの経緯と対策
一般社団法人 ビワマスプロガイド協会の設立
- ・地元の川にビワマスを戻す市民の取り組み
米原市ビワマス倶楽部の歩み
家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト
- ・一緒に考えようービワマスとの未来ー
ビワマスへのメッセージ あなたの思いをビワマスたちに届けよう！（メッセージ掲示ボード）
企画展示関連シンポジウムで出た意見（概要）

④ 印刷物

- ・展示解説書

編集責任者：桑原雅之

著者：廣田利之、藤岡康弘、光永 靖、天野洋典、佐藤祐一、高橋啓一、桑原雅之、片岡佳孝、田畑諒一

デザイン：出口武洋

仕様：A4 サイズ 60 ページ 総カラーページ 800 部 7月20日発行 販売価格 600 円

印刷：モリワキ印刷

- ・企画展示ポスター A1 サイズ 表カラー 1,000 枚 6月28日発行

デザイン：出口武洋 印刷：モリワキ印刷

- ・企画展示チラシ A4 サイズ 表カラー・裏単色 30,000 枚 6月28日発行

デザイン：出口武洋 印刷：モリワキ印刷

⑤ 関連事業

○オープニングセレモニー

7月20日(土)9時30分から企画展示室前にて開催。展示に協力いただいた方(廣田利之・魚類写真家、郭金泉・国立台湾海洋大学教授)、および石川康久・琵琶湖環境部長を招いて、館長挨拶、来賓の挨拶、担当学芸員による内容紹介、テープカットを行った。その後、担当学芸員による展示の案内を実施した。

○琵琶湖博物館サイエンスセミナー

第3回「海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」 講師：桑原雅之

7月28日(日)15:00~16:30 ここ滋賀(東京都中央区) 定員30名

○関連イベント

・琵琶湖博物館第27回企画展示 関連シンポジウム 「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」

9月14日 13:00~16:40

参加者：70名

オーガナイザー：桑原雅之(琵琶湖博物館)

6講演

「サクラマスのDNAを調べる」

山本祥一郎(中央水産研究所)

「タイワンマスの不思議」

郭金泉(台湾海洋大学)

「琵琶湖水系にすむビワマスとアマゴ」

桑原雅之(琵琶湖博物館)

「ビワマスの美味しさ」

杉本宏樹(湖香六根料理長)

「ビワマスの漁業と増殖の歴史」

藤岡康弘(琵琶湖と森の生き物研究会)

「ビワマスとの新しい関係」

鍋島直晶(西浅井漁協ビワマス漁師)

ポスター講演

「台湾の溪流魚への地球温暖化の影響」ーチジワン溪での研究例ー

謝英宗(国立臺灣博物館)(通訳：郭金泉)

内容：古くから私達の生活と関わりが深いビワマスについて、将来にわたって利用しながら守っていくための考え方や方策について、来場者と共に考える機会とした。

○コラム

6月15日、新琵琶湖学を拓く情報誌 びわはく、海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー、桑原雅之

7月13日、中日新聞、湖岸より 海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー、桑原雅之

○新聞記事

7月19日、朝日新聞 遊・You・友 企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」

7月23日、中日新聞 ビワマスの謎の生態 パネルや剥製で迫る 琵琶湖博物館企画展示

8月22日、読売新聞 ビワマスの生態に迫る 琵琶博で展示 写真パネルや剥製

8月22日、滋賀報知新聞 県立琵琶湖博物館 ビワマスの謎に迫る企画展

8月30日、京都新聞 ビワマス30年の研究成果紹介 交雑の実態や遡上調査

9月27日、読売新聞(しが県民情報) 企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」

10月9日、産経新聞 県立琵琶湖博物館で企画展 ビワマスの謎に迫る

○来場者3万人達成式典

10月4日に来場された方が3万人目となり、高橋館長の挨拶、展示解説書および企画展ポスター、企画展グッズの贈呈などの式典を行った。



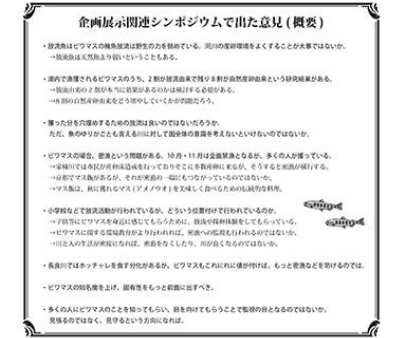
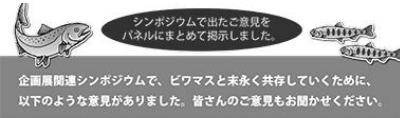
企画展示室入口



展示室の様子



ビワマスへのメッセージボード



シンポジウムの概要パネル



本企画展示は、一般財団法人全国科学博物館振興財団の助成を受けて開催した。

2) 第31回水族企画展示「ビワマスと仲間たち」 Biwa salmon and related species

① 主旨

ビワマスは、サクラマスやサツキマスときわめて近縁で、これらの魚種は総称してサクラマス群と呼ばれています。琵琶湖水系には、琵琶湖を中心にビワマスが生息しているほか、流入河川にはサツキマスの河川型であるアマゴが生息しています。加えて、滋賀県内を流れ日本海側に流れ込む河川には、サクラマスの河川型であるヤマメが生息しています。つまり、滋賀県にはサクラマス群全種類が生息しているのです。中でもビワマスは、北湖の形成と共に、その環境にて依存度を高め湖沼性の性質を急速に進化させてきたことがわかってきました。今回の水族企画展示では、ビワマスの属するサクラマス群をはじめ、国内あるいは移入種を含む湖沼性のサケ科魚類を展示します。

また、琵琶湖水系には流入河川の源流部にイワナが生息しています。このイワナは、日本海側から琵琶湖水系に侵入してきたことがわかっており、その分布の形成過程は、琵琶湖とアマゴの関係を考える上でも重要な種です。加えて、サケ科魚類は人の生活にも深く関わっており、滋賀県内でもビワマスやアマゴに加え、イワナやニジマスが養殖され、溪流釣りのための放流や料理にたくさん利用されています。

これらのサケ科魚類を見ていただくことで、彼らの興味深い生活や進化の様子、また人との関わり方のあり方などを感じていただきたいと思います。

② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：7月20日（土）～11月24日（日） *実質開催日数 115日

場 所：琵琶湖博物館 水族企画展示室

観覧料金：常設展示観覧料金による

展示企画・制作：主担当 桑原雅之 副担当：片岡佳孝、金尾滋史、田畑諒一、水族飼育員（富山学園）

展示協力：荒金利佳、知来 要、藤岡康弘、藤原きよし、廣田利之、菊池基弘、小林 眞、松岡正蔵、鍋島直晶、杉本宏樹、杉本まりえ、若林 輝、若松博幸、山本祥一郎、有賀 望、廣田写真事務所、国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所 沿岸・内水面研究センター内水面漁場管理グループ、国立研究開発法人水産研究・教育機構北海道区水産研究所さけます資源研究部、西浅井漁業協同組合、サケのふるさと千歳水族館、滋賀県漁業協同組合連合会高島事業場、湖香六根、滋賀県醒井養鱒場、札幌市豊平川さけ科学館、京都大学総合博物館、山梨県水産技術センター

③ 展示内容

【展示生物】

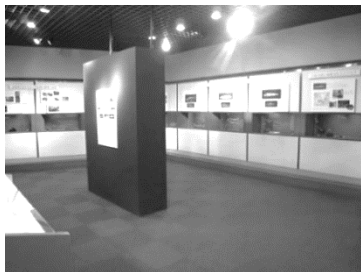
ビワマス、サツキマス（アマゴ）、サクラマス（ヤマメ）、ホンマス、レイクトラウト、ミヤベイワナ、ヒメマス、イワナ、ニジマス

【展示標本】

田沢湖産クニマス、西湖で再発見されたクニマス

【映像関係】

ビワマス産卵行動（既存映像）、ビワマス調査（既存映像）、小糸網漁、レイクトローリング漁、ビワマス料理スライドショー



ビワマスと仲間たち展示風景



田沢湖産クニマス



西湖で再発見されたクニマス

(3) ギャラリー展示・トピック展示等

1) ギャラリー展示

① 琵琶湖 漁具図鑑―魚つかみの道具のヒミツ

期間：2019年3月23日（土）～5月6日（月）

主催：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

内容：2018年3月に国の登録有形民俗文化財となった琵琶湖博物館所蔵の「琵琶湖の漁撈用具及び船大工用具」のなかから、えりすぐりの伝統漁具を展示。豊富な実物資料に加えて、道具を眺めるだけではわからない、道具を使いこなす人々の戦略や、人と生きものとの駆け引きなどをパネルで解説した。

② 企業 CSR パネル展

期間：5月25日（土）～6月9日（日）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

③ 第69回滋賀県統計グラフコンクール優秀作品展

期間：1月2日（木）～1月13日（月）

主催：滋賀県統計課

共催：滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：2019年9月に実施した第69回滋賀県統計グラフコンクールの優秀作品31点を展示した。最終日（1月13日）には展示作品を見てクイズに答える「しが統計・キッズクイズ」を開催した。

④ トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～

期間：1月19日（日）～2月16日（日）

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク（略：BBN）（旭化成㈱、旭化成住工㈱、オムロン㈱、積水化学工業㈱、積水樹脂㈱、ダイハツ工業㈱、㈱ダイフク、ヤンマー㈱）

共催：滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：滋賀県内に所在する企業がトンボを保全するために結成した「生物多様性びわ湖ネットワーク」の活動の成果を展示した。生息数が減少しているトンボを工場敷地内のビオトープで保全するとともに、滋賀県内に生息する100種全種のトンボの確認を目指した調査を実施したことなどを紹介した。今年度からトンボのフォトコンテストを開催して、受賞作品の展示を行った。

⑤ 来館者・県民による展示評価「リニューアル展示体験コーナー」

期間：2月22日（土）～3月8日（日）（2月28日からコロナ禍により休館となったため中止）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

2) トピック展示等

① JA 滋賀中央会第43回「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクールの作品展（図画部門）

期間：2019年3月26日（火）～4月7日（日）

主催：滋賀県農業協同組合中央会

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品、1,010点の中から選ばれた入賞作品41点を紹介した。

② 飛ぶタネと紙ヘリコプター

期間：4月6日（土）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

③ 伊藤園キャンペーン寄付金贈呈式

期間：4月12日（金）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

④ サポーターCSR展

期間：5月14日（火）～6月16日（日）ただし「企業CSRパネル展」の間は中断

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

⑤ はしかけ「湖をつなぐ会」紙芝居

期間：7月28日（日）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

⑥ びわ博フェス2019

期間：10月19日（土）20日（日）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

⑦ はしかけ「湖をつなぐ会」紙芝居

期間：11月16日（土）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

⑧ アトリウムコンサート

期間：12月7日（土）14日（土）15日（日）21日（土）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

⑨ 淡海こどもエコクラブ 活動成果ポスター展示

期間：12月3日（火）～1月5日（日）

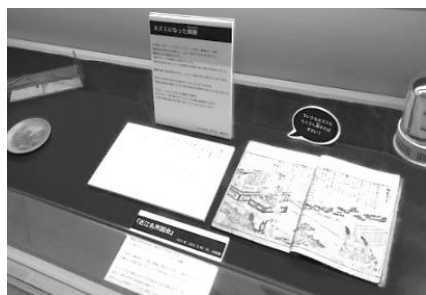
場所：琵琶湖博物館 アトリウム

⑩ 2020 干支展 「ねずみ！子！ネズミ！」

期間：1月2日（木）～19日（日）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：ネズミにまつわる滋賀の地名や動物、植物、伝統野菜を紹介した。また、ネズミの毛で作られた筆と琵琶湖との関係や、書物に描かれた三井寺に伝わる鉄鼠の伝承についても紹介した。



近江名所図会に描かれた鉄鼠



ネズミの筆とネズミのはく製

⑪ 人間コマでダムすごろく！

期間：1月11日（土）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

共催：治水・利水を学ぶ・楽しむ実行委員会

⑫ はしかけ「湖をつなぐ会」紙芝居

期間：1月26日（日）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

3) 水族展示

水族トピック展示

① 滋賀県からも新種！ナガレカマツカ

期間：5月14日（火）～6月23日（日）

場所：水族展示室 中流域水槽前

内容：2019年4月24日に新種として発表され、滋賀県にも生息しているナガレカマツカの生体を展示した。また、ナガレカマツカとカマツカ、同時に新種として発表されたスナゴカマツカの区別点、当館にも収蔵されている新種2種の貴重な模式標本についてパネルで紹介した。

4) 共催展

野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館） 秋季企画展「人と魚の歴史学」

期間：10月5日（土）～11月24日（日）

場所：野洲市歴史民俗博物館 2階企画展示室

主催：野洲市・野洲市教育委員会

共催：滋賀県立琵琶湖博物館

内容：野洲市歴史民俗博物館と共催で企画展を開催した。さまざまな史料から人々の暮らしと魚介類の関係・歴史を紹介し、中でも屏風「湖魚奇観」を滋賀県で初めて展示するなどして、水辺の生物との共生、やさしい環境社会の構築を考える機会となるような展示とした。また、期間中4回の記念講演会と1回の展示解説を実施した。

入館者数：1,759人

記念講演会：第1回 10月5日（土）

「俳諧・俳句にあらわれた近江の魚たち」 篠原 徹（琵琶湖博物館名誉館長）

第2回 10月19日（土）

「なれずしの中から飛躍したふなずし」 橋本道範（琵琶湖博物館専門学芸員）

第3回 10月26日（土）

「江戸時代の絵画から琵琶湖の魚を読みとくー湖魚奇観や湖中産物図証の魚たちー」
金尾滋史（琵琶湖博物館主任学芸員）

第4回 11月23日（土・祝）

「DNAからみた琵琶湖の魚たちの歴史ー湖魚奇観の魚を中心にー」

田畑諒一（琵琶湖博物館学芸技師）

展示解説：11月16日（土）

齊藤慶一（野洲市歴史民俗博物館学芸員）

展示交流

(1) フロアートーク

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸職員による展示解説「フロアートーク」を行っている。学芸職員が日替わりで担当する「質問コーナー」の当日担当学芸職員がフロアートークを行う。学芸職員は、基本的には月1回の学芸会議が行われる第3金曜日を除く開館日に、1日1回、午前11時から展示を使ってレクチャーを実施する。フロアートークの場所や内容は当日担当の学芸職員が決定し、場合によっては実施時間が変更されることがあり、玄関入口にある催し物ボードにも、当日のフロアートークの案内を掲示している。

(2) ディスカバリールームのイベント

季節展示にあわせた参加型のイベントを下記の表のとおり実施した。昨年度はリニューアル工事期間があったため、上半期のイベントは中止または変更して実施した。そのため今年度はリニューアル後初となる、ディスカバリールームでの上半期イベントの実施となった。「びわこいのぼりを作ろう！」から「カイク絵日記」をつくろうまでが該当する。とくに「びわこいのぼりを作ろう！」は、これまでディスカバリールームの入り口に掲示していたが、リニューアルで入り口の仕様が変わったため、アトリウムでの展示へと変更した。また、前年度からはじめた「かぼちゃをさがそう！」は好評で、800名を超える参加があった。加えて、屋外展示への誘いとなるイベント実施を目指して、「森のにおいをさがそう！」、「森の宝物をさがそう！」を実施した。「みんなのたからもの」コーナーでは、近代美術館とはしかけが共催した「石ころ de アート」の成果物を展示する期間を設け、参加型展示ケースとしての機能強化に努めた。

【イベント実施一覧】

イベント開催日	イベント名	参加人数
4月13日(土)～4月26日(金)	みんなで「びわこいのぼり」を作ろう！	296人
4月16日(火)～4月21日(日)	だれのたまご	—
5月5日(日)	カブトを作ろう！	243人
6月29日(土)～7月7日(日)	七夕☆短冊に願い事をかこう！	800人
7月13日(土)～8月31日(土)	みんなで「カイク絵日記」をつくろう！	94人
10月19日(土)～10月31日(木)	かぼちゃをさがそう！	857人
11月23日(土)	森のにおいをさがそう！	5人
12月21日(土)	はたきをつくろう！	13人
1月12日(日)	森の宝物をさがそう！	12人
1月28日(火)～2月2日(日)	節分☆オニのお面をつくろう！	113人
2月26日(水)～3月3日(火)	おひなさまをつくろう！	18人



みんなで「びわこいのぼり」を作ろう！



カブトを作ろう！



かぼちゃをさがそう



森のおいをさがそう！



森の宝物をさがそう！



はたきをつくろう！

(3) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における 1) 安全確保、2) 快適な環境の提供、3) 展示室での発見のサポート(展示交流)といった3つの働きをしている。特に「展示交流」は、展示室におけるコミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や暮らしについて関心を持っていただくためには重要な要素である。そのいっそうの充実をはかるために「展示交流員と話そう」を実施した。

展示交流員が普段の展示交流にある「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで行った。実施前に各自がテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受け、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備をした。実施の方法は、用意した資料を触っていただく、自作の資料を見ていただく、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫をした。

実施期間：12月1日～3月31日（コロナ禍により2月28日より臨時休館のため中止）

実施人数：展示交流員 25名

実施回数：展示室での来館者の状況により随時実施

臨時休館中のWeb動画配信の作成

新型コロナウイルスの感染症対策のため、2月28日から3月31日まで臨時休館となった。当館は滋賀県の「コロナに負けないぞ！子ども応援プロジェクト」の一環として、この「おうちミュージアム」に参加した。「おうちミュージアム」とは、北海道博物館が提唱し、休館中でもご家庭でも楽しめるようにペーパーパークラフトや観察シート、動画など、さまざまな素材を提供するプロジェクトで、さまざまな博物館が参加している。

展示交流員は、web アミンチュ(滋賀県民の様々な動画をwebとテレビで発信する県民主役メディア)と連携して「展示交流員と話そう」を中心に配信動画作成・撮影に臨むだけでなく、当館独自の動画コンテンツの作成・撮影に参加した。

実施期間：3月10日～3月31日

【実施内容】

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
C展示室	今泉 美保	昭和39年「東京オリンピック開催」 ー富江家の暮らしー	富江家
	奥村 恵子	博物館で介護民族学	富江家周辺
	斉藤 文子	琵琶湖の水生植物	生き物コレクション
	林 克子	カワウの今	カワウのコーナー
	木下 睦司	新登録の世界遺産を空から見る	琵琶湖へ出かけよう
	吉田 史子	身近なカメたち	カメ水槽前
	川口 千佳	自然の中のまる(球)・三角・五角・いろ いろな形を見つけよう	「森を見に行こう」前の机

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
C展示室	関谷 栄子	遠方からのお客様コハクチョウ	タッチパネル、田んぼの生き物たち
	田中 美紀	カヤネズミ	カヤネズミ前
	西 美咲希	滋賀県に住む鳥	鳥の剥製前
	柳原 徳子	断層を空ビワでさがそう	空ビワ
水族展示室	板垣 真由美	まんまる、バイカルアザラシ	バイカルアザラシ水槽前
	坂上 麻理	単性生殖ギンブナの不思議	内湖・ヨシ原
	坂井 麻紀	琵琶湖のおいしい魚達	水族展示室全部
	片岡 典子	バイカルアザラシ	バイカルアザラシ水槽前
	阪路 美津子	びわこオオナマズ	ビワコオオナマズ水槽前
	西村 典子	オオサンショウウオ	中流域水槽前
	満田 千秋	アメリカザリガニ	ふれあい水槽前
	山本 明美	カイツブリ	水辺の鳥水槽前
	玉木 雪実	ヒドラ	マイクロアクアリウム
ディスカバリールーム	北田 昌子	カヤネズミの紙フィギュアを作ろう	ディスカバリールーム
	木村 寿枝	タヌキ	タヌキ前
おとなのディスカバリー	福本 嘉子	びわこの真珠	貝コーナー
	梶本 千勢	土偶	考古コーナー
	芦田 弘美	縄文土器のお話	考古コーナー

(4) デジタルサイネージ

琵琶湖博物館では、来館者向け利用案内の向上を目的としてデジタルサイネージを導入、運用してきた。本年度も新たに3台を導入し、現在8台を運用している（表）。

特に、券売カウンター横の大型デジタルサイネージでは、企画展やトピック展示、館内イベントなどの案内を適宜更新し、年間をつうじて情報発信ができた。新たに導入した3台については、2台を正面入り口に設置し、入館・退館に直接関わる情報（利用料金や駐車場利用など）を流した。もう1台は、イベント参加者の誘導や急に館内案内が必要となったときを想定し、館内を自由に移動させて使用することとした。デジタルサイネージの設置場所と運用状況（6,7,8は本年度導入）

	設置場所	画面サイズ	形式	表示内容
1	券売カウンター横	55インチ	固定	展示案内（企画展、イベント、えさやり時間など）
2	券売カウンター	43インチ	固定	利用料金、利用上の注意（喫煙禁止・飲食禁止・ペット禁止など）
3				
4				
5	1F エスカレーター前	43インチ	可搬	エスカレーター案内
6	正面入り口	55インチ	可搬	利用料金、利用案内
7				利用料金、利用案内
8	自由に移動させて利用	55インチ	可搬	必要に応じてイベント案内、注意喚起など

2019年度にエントランス風除室に導入したデジタルサイネージ

- ・ 8月12日（月）画面横向きのサイネージ
- ・ 9月25日（水）画面縦向きのサイネージ

2019年度にエントランス風除室のデジタルサイネージに更新した情報

- ・ 8月12日（月）料金表、駐車サービス券のおしらせ
- ・ 8月15日（木）台風警戒情報のおしらせ
- ・ 9月25日（水）年間パスポート、餌やりの時間のおしらせ
- ・ 12月1日（日）敷地内館の全面禁煙のお知らせ

その他

(1) 受賞

第2期リニューアルは、「日本空間デザイン賞2019」に入選した。

博物館連携

(1) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の70館（2019年9月末現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の3つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年3回の研修・情報交換事業、5年に1度の記念事業などを実施している。当館は広報委員会と記念事業委員会に各1名が参画し、活動の一翼を担っている。

(2) 烏丸半島活性化連携事業

琵琶湖博物館をはじめ、烏丸半島に関連する施設、企業、団体等で構成する琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会の事業として、各構成団体が連携・協力し烏丸半島への誘客を促進する取組を行った。

1) からすまいちばんカレンダー2019の作成

各構成団体が関わる7月から9月までのイベントを紹介するチラシ（各施設で割引クーポン付）を作成した。

実施期間：7月1日（月）～9月30日（月）

チラシ作成：12,000枚

配布先：各構成団体の施設、草津市各まちづくりセンター、周辺の幼稚園・保育園等の施設、他

2) ウォーキングマップの作成

烏丸半島をめぐる一周約3.3kmのウォーキングマップを作成し、半島内の施設や見どころ、自然等を紹介した。

マップ作成：10,000部

配布先：半島内各施設

3) 「からすまいちばん 健康ウォーキング&スタンプラリー2019」の作成・実施

ウォーキングマップを使ってのクイズと構成団体の施設等をポイントとするスタンプラリーを実施した。

実施期間：11月1日（金）～1月31日（金）

チラシ作成：6,000枚

配布先：各構成団体の施設、周辺の幼稚園・保育園等の施設 学童施設、他

賞品提供：琵琶湖汽船、ホテルポストプラザ草津、道の駅草津、水生植物公園みずの森、
草津市観光物産協会

応募数：82人

当選者数：22人

4) 各種広報媒体の活用による情報発信

各構成団体が発行する広報やリーフレットをはじめ、パブリシティ・Facebook の活用により烏丸半島の情報を発信した。

5) その他

ゴールデンウィーク、お盆期間における「草津烏丸半島湖上遊覧クルーズ」の運航（琵琶湖汽船）、バスチケットキャンペーンの実施（実施期間：10月26日(土)～3月29日(日)の土・日・祝)

4 体験と交流を促す博物館

一般利用者へのサービス

(1) 観察会・見学会等

2019年度は博物館や県内各地で観察会等18件の事業を実施した。そのうち7件は事前参加申込によるもので、ほかの11件は当日受付による運営を実施した。参加申込手続きには「しがネット受付システム」及び往復はがきによって運営している。

開催日	曜日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
4月13日	土	タンポポ調査説明会	20	8	はしかけ タンポポ調査
4月20日	土	タンポポ調査説明会	20	5	はしかけ タンポポ調査
5月15日	水	季節の植物でアロマウォーター作ろう	5	15	はしかけ 緑の葉箱
6月9日	日	みんなで湖魚料理をつくろう！（コアユ・シジミ編）	20	18	滋賀県漁協組合連合会青年会
7月6日	土	希望ヶ丘自然観察会（夏のトンボと昆虫）	30	35	滋賀県希望ヶ丘文化公園
7月10日	水	季節の植物でアロマウォーター作ろう	5	12	はしかけ 緑の葉箱
7月28日	日	初心者のためのふなずし作り体験	20	20	
8月3日	土	わくわくお宝さがし	15	41	はしかけ 水と暮らし研究会
8月11日	日	琵琶湖を歩こう	20	22	湖北野鳥センター
8月17日	土	下物ビオトープ生物観察会	30	24	滋賀県琵琶湖保全再生課
8月18日	日	マイナス80度から復活した微小生物	15	15	
8月25日	日	わくわくお宝さがし	15	34	はしかけ 水と暮らし研究会
9月4日	水	季節の植物でアロマウォーター作ろう	5	11	はしかけ 緑の葉箱
9月21日	土	顕微鏡で観察しよう プランクトンでビンゴ	15	21	
11月2日	土	みんなで湖魚料理をつくろう！（秋のプレミアム編）	20	11	滋賀県漁協組合連合会青年会
11月23日	土	里山探検 秋の堅田春日山散策	20	2	カワセミ自然の会
12月4日	水	季節の植物でアロマウォーター作ろう	5	5	はしかけ 緑の葉箱
1月11日	土	人間コマでダムすごろく	なし	35	治水・利水を学ぶ・楽しむ実行委員会

(2) 講座

2019年度は、以下に示した講座を実施した。

	内容	開催日	曜日	募集数	参加者数	講師
1	はしかけ登録講座（全3回）	5月26日	日	なし	19(新規)	下松孝秀
		9月22日	日		10(新規)	
		3月8日	日	コロナ禍により中止		
2	琵琶湖地域の水田生物研究会	12月15日	日	200	140	一般発表 9件 ポスター発表 12件 講演 5件
3	新琵琶湖学セミナー（全3回）	1月25日	土	各回	71	田畑諒一・三浦 収
		2月22日	土	70	58	里口保文・小松原琢
		3月28日	土	コロナ禍により中止		山川千代美・中川 毅

(3) 体験教室

1) 里山体験教室 (担当：山本綾美・草加伸吾)

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない、子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ってない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」との共催により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しみながら知ってもらうため年4回実施している。

春は里山を歩き、春を感じるような植物を中心に観察を午前中に行い、午後は、里山整備、ネイチャークラフトをおこなった。参加者が多かったため活動運営に混乱が発生しないか心配したが、はしかけ里山の会スタッフの経験値の高さが生かされ、事故なく実施しただけでなく、参加者に十分楽しんでもらった。

夏は、昆虫を専門とする学芸員の指導を得て、野原の昆虫と森の昆虫の観察会を行った。午後は、ロープと布を使った簡易ハンモックの設置方法を体験した。

秋は、少雨決行としたため参加者が少なめであったが、里山散策での森の恵みを実感する色々な木の実の観察や収穫ができた。里山整備とネイチャークラフトも行い充実した一日であった。

冬は、里山整備で作った木材燃料を使って焚火の体験を行った。また、その火を使って森の木の実等で花炭を作成した。

回	開催日	内 容	参加人数	担当者
1	4月21日	里山の春をみつけよう	42	山本、草加
2	7月15日	里山の夏を楽しもう	49	山本、草加
3	10月14日	里山の秋さがし	30	山本、草加
4	1月20日	冬の里山を楽しもう	44	山本、草加



春：植物観察と山菜の紹介



秋：里山整備の様子

2) 生活実験工房 田んぼ体験

生活実験工房では年間を通して、一般の参加者とはしかけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施し、4月から10月初旬までは、主に水稻栽培に関する体験を行い、12月初旬から翌年3月までは、わらなど収穫した材料や工房周辺にある材料を使った体験活動を実施している。水稻栽培では、昔ながらの苗代づくりから手作業による田植えや稲刈りまでを昔の農具を使いながら体験を行ってきた。

また、農閑期となる冬季には、工房内でしめ縄やわら細工など、わらを有効活用した手作業による体験活動を行い、農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んだ。参加者の中には、家族で継続した参加もあり、子どもたちの成長を見ながら親と子の絆を深める良い機会として頂いた。

「生活実験工房 田んぼ体験」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月	種まき、苗代づくり	職員対応
5月12日	田植え	105名
7月14日	昆虫採集	87名
9月8日	稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け	49名
10月6日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け	45名
11月24日	秋の昆虫採集	26名
12月22日	しめ縄づくり	82名
1月15日	どんと焼き	職員対応
2月9日	わら細工	15名



5月 田植え風景



9月 稲刈り、ハサ掛け

(4) 体験学習

1) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動（担当：由良嘉基、奥野知之）

琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営している。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届けるため、第2土曜日の午後に開催している。滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対する興味・関心を深めてもらうことを大切にしながら「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに関わっている。今年度は、年間8回、計159名の参加者に楽しんでもらうことができた。

回	月日	館内の事業	参加者数
1	5月11日	春の草花でしおりを作ろう！	17名
2	6月8日	石ころdeアート！	18名
3	7月13日	ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！	24名
4	9月14日	葉っぱの形に注目しよう！	22名
5	10月12日	プランクトンを見よう！（台風19号のため中止）	一名
6	11月9日	秋の色探しをしよう！	16名
7	12月14日	綿にふれてみよう！	21名
8	1月11日	水鳥を観察しよう！	14名
9	2月8日	骨にふれてみよう！	27名
10	3月14日	お魚モビールを作ろう！（コロナ禍により開催中止）	一名
			合計159名

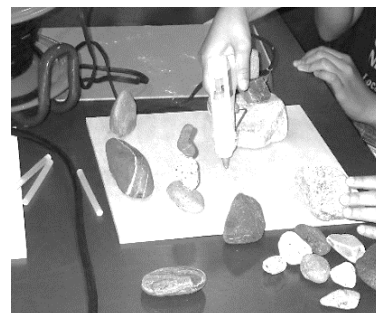
■わくわく探検隊のようす



綿にふれてみよう！



葉っぱの形に注目しよう！



石ころ de アート！

学校連携

(1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。

昨年度と比較すると、学校団体による来館者数はやや減少傾向にある。しかし、県外の高等学校で団体数・生徒数ともに増加がみられた。県外の小学校による団体利用について大幅な減少が目立っている。これに関しては、インフルエンザの流行や新型コロナウイルスの感染拡大による休校も関わっているのではないかと考える。今後も、学校団体の高度利用についてや校種・学年に応じた博物館の具体的活用についても呼びかけていきたい。

1) 学校団体の受け入れ（担当：奥野知之、由良嘉基、植村隆司、塩谷えみ子、草加伸吾）

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H30年度	今年度	増減	H30年度	今年度	増減
県内	小学校	168	164	-4	11,497	11,598	101
	中学校	15	18	3	1,546	1,392	-154
	高等学校	13	14	1	946	500	-446
	特別支援学校	21	13	-8	346	227	-119
	大学など	9	12	3	743	881	138
	合計	226	221	-5	15,078	14,598	-480
県外	小学校	174	162	-12	15,250	13,679	-1,571
	中学校	60	67	7	7,697	6,870	-827
	高等学校	33	36	3	2,831	3,390	559
	特別支援学校	14	17	3	559	456	-103
	大学など	43	35	-8	1,922	1,604	-318
	合計	324	317	-7	28,259	25,999	-2,260
総合計		550	538	-12	43,337	40,597	-2,740

2) 学校団体向け体験学習（担当：奥野知之、由良嘉基、植村隆司、塩谷えみ子、草加伸吾）

学校団体向け体験学習は、展示室見学をより深く学ぶための手助けとなるよう考えて行った。しかし、短時間の来館で体験を中心に考えておられる学校団体もあり、今後見学の目的に合わせた体験学習の実施に努めていきたい。今年度は、別館の運營業務との兼ね合いで、1日に複数の体験学習を受けることができなくなった。今後、体験学習の実施数を増やすことよりもいかに学習に活かしていただけるかについてこだわってみたいのではないかと考える。

校種	主な活動内容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物、昔の暮らし、博物館の展示についてなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、シジミストラップ作り、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、昔暮らし体験（足踏み脱穀、石臼、手押しポンプ）、フローティングスクールでのWEB会議、低学年による屋外展示利用、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖条例ができるまで、琵琶湖総合開発、博物館の展示についてなど）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、課題研究、質問対応
特別支援学校	化石のレプリカづくり、よし笛づくり、シジミストラップ作り

■体験学習実施数

校種	県内		県外		合計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	32	1,969	27	1,707	59	3,676
中学校	6	1,045	14	1,794	20	2,839
高等学校	4	281	4	212	8	493
特別支援学校	2	11	0	0	2	11
大学など	1	8	0	0	1	8
合計	45	3,314	45	3,713	90	7,027

■体験学習のようす



3) ミュージアムスクールの運営（担当：由良嘉基、奥野知之）

2019年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

1年生163名が参加し、2回の展示見学と講義を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を深めた。特に、課題解決型学習を進めるにあたってのポイントを学び、研究の進め方の基本を知る良い機会となった。

① 2019年7月16日（火）於：琵琶湖博物館

- ・9:40～10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要、研究の進め方」（由良）：ホール

■夏休み…展示見学と講義から琵琶湖について特に興味を持ったことがらについて、各自が夏休みに実践的研究や調査を行い、個人レポート作成。

② 2019年10月31日（土）於：琵琶湖博物館

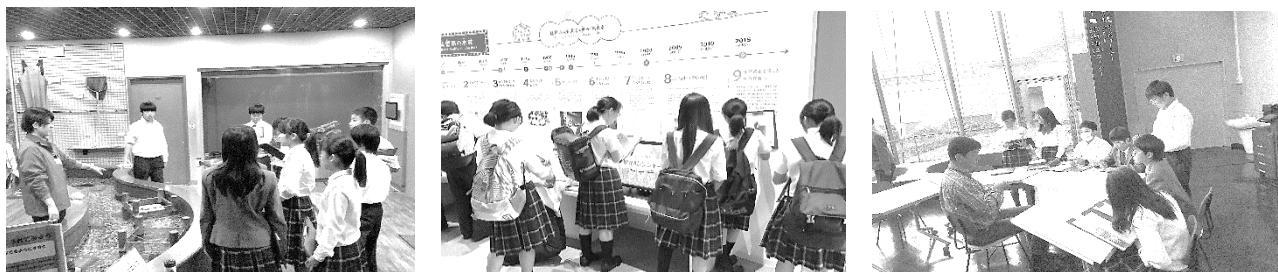
- ・13:00～16:00 常設展示見学 グループ学習

③ 2019年11月16日(土) 於：立命館守山中学校

学習発表会(公開授業)

- ・琵琶湖博物館やフィールドで調べたことを発表
- ・講評(由良)

■ミュージアムスクールのように



4) 自然調査ゼミナール(担当：由良嘉基、奥野知之)

毎年夏休みに滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、滋賀県内の中学生に対し、自然調査の手法を身につける機会の提供をしている。自然環境とじっくり向き合い、身に付けた自然調査の手法を自らの得意分野やフィールドで活かすことができる滋賀の子どもを育てることを目指し、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。昨年度と同様に主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行った。今年度は中学生35名、教員20名が参加した。中学生たちは学芸員のアドバイスを受け、地域の自然を調査し、ホールで調査結果をグループごとに発表した。

① 期日 2019年7月30日(火)

② 内容

午前の部		午後の部	
9:00~9:30	受付	12:45~15:00	班別調査活動Ⅱ
9:30~10:00	開講式・オリエンテーション		(各活動場所)
10:00~12:00	班別調査活動Ⅰ (各活動場所)	15:00~15:30	調査結果のまとめ
12:00~12:45	昼食および休憩 展示室見学	15:30~16:45	調査報告会(ホール)・講評(博物館教員)
		16:55~17:00	閉講式

■班別テーマ

調査班	テーマ	講師	生徒数	教員数
昆虫班	採集や標本づくりを通して昆虫について学ぼう	八尋克郎 (学芸員)	7	4
植物班	葉の食痕の種類と植物種との関係を探る	大槻達郎 (学芸員)	5	3
ほ乳類班	巢の調査や個体観察からほ乳類の生態を調べよう	中村久美子 (学芸員)	5	3
プランクトン班	琵琶湖におけるアオコの原因とそのときの水質環境について	鈴木隆仁 (学芸員)	4	3
魚類班	琵琶湖にいる魚の解剖を通して、魚の生態を調べよう	小林偉真 (教員)	11	5
貝類班	貝の採集や解剖を通して、貝の生態を調べよう	初田彩香 (教員)	3	2

■自然調査ゼミナールのようす



(2) 教育指導者等研修 (担当：奥野知之、由良嘉基)

1) 教職員研修

本年度も学校などへの出張講座、滋賀県教育委員会や県総合教育センターなどと連携した研修を行った。県内の学校の先生方に琵琶湖博物館を知っていただくよい機会となった。博物館を有効に活用いただくきっかけになればと考えている。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
8月2日	金	しが環境教育研究協議会	120	滋賀県教育委員会
8月30日	金	F S連携「びわ湖学習」研修会	2	甲賀市立伴谷小学校
9月4日	水	F S連携「びわ湖学習」研修会	4	甲賀市立伴谷小学校
9月5日	木	F S連携「びわ湖学習」研修会	2	甲賀市立佐山小学校
9月5日	木	F S連携「びわ湖学習」研修会	2	甲賀市立油日小学校
9月5日	木	F S連携「びわ湖学習」研修会	2	甲賀市立中部小学校
11月5日	火	初任者研修	43	滋賀県総合教育センター
11月7日	木	初任者研修	42	滋賀県総合教育センター
11月12日	火	初任者研修	45	滋賀県総合教育センター
11月14日	木	初任者研修	39	滋賀県総合教育センター
11月30日	土	滋賀の教師塾	138	滋賀県教育委員会
1月21日	火	F S連携「びわ湖学習」研修会	2	甲賀市立甲南第三小学校

■教員研修の様子 (初任者研修)



企業連携

当館のリニューアル展示をはじめ、今後の博物館の運営を継続させていくためには、企業との連携は欠かせないものの1つである。博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、企業連携の強化を図った。

○ 琵琶湖博物館主催事業

- ・ CSR パネル展

日時：5月25日（土）～6月9日（日）

場所：企画展示室

参加企業・団体数：28社

- ・ 企業・団体交流会

日時：11月8日（金）14:30～18:30

参加企業・団体数：40社57人

○ 連携事業

2019年度は、次のような連携事業を展開した。

月日	企業・団体名	連携内容
4月12日	株式会社パンテック	新規採用社員研修会（博物館視察研修）
4月23日	東洋アルミニウム工業株式会社	社員研修会（博物館視察研修）
4月27日	日神工業株式会社	管理者研修会（博物館視察研修）
5月26日	三菱重工工作機械株式会社	外来魚駆除イベント・博物館視察の環境活動
6月6日	積水化学工業株式会社多賀・水口工場	役員研修会（博物館視察研修）
7月2日	パンテック株式会社	JICA 中小企業海外事業研修
7月6日	伊藤忠商事株式会社	海外3社合同研修会（博物館視察研修）
7月25日	湖南企業いきもの応援団19社	環境活動研修会
8月24日	旭化成株式会社守山事業場	トンボ観察会
9月17日	株式会社シンコーメタリコン	「環境 CSR パネル展」展示
10月18日	日本精工株式会社	役員研修会（博物館視察研修）
11月1日	株式会社コクヨ工業滋賀	ヨシでびわ湖を守るネットワーク交流会
12月1日	株式会社GSユアサ/日本電池工業会	「手作り乾電池教室」開催
1月19日 ～2月16日	生物多様性びわ湖ネットワーク (県内企業8社)	「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え～」 展示
2月9日	株式会社伊藤園	「びわ湖を美しくするヨシ刈りイベント」開催
2月25日	富士ゼロックス京都株式会社	企業研修会（学芸員との交流）
3月24日～	滋賀県農業協同組合中央会	「ごはん・お米とわたし」絵画コンクール作品 展開催

研修・実習

(1) 国際交流

1) 海外からの視察・研修

2019年度は、海外からのさまざまな団体による視察や研修、計24件に対応した。

* JICA ; (独法)国際協力機構

月	日	視察者	依頼者	人数	対応者
4	12	ブラジル・リオグランデドスル州「滋賀友会」代表一行	商工観光労働部観光交流局	2	中井
5	25	同志社大学リーディング大学院	同志社大学リーディング大学院	8	Smith
6	6	京都大学地球環境学堂（主に短期留学生）	京都大学地球環境学堂	15	大塚
6	15	中国高校生訪日団	日中友好会館	72	奥野
6	20	タイ・カセサート大学学生	京都大学大学院農学研究科	22	Smith
6	28	ミシガン州派遣団高校生	滋賀県教育委員会	60	Smith
7	2	メキシコ行政関係者	商工観光労働部商工政策課	9	亀田
8	28	安徽省巢湖市常務副市長ほか	日本安徽聯誼会	5	大塚・楊
8	27-29	中国社会科学院昆明動物研究所動物博物館 館長ほか	中国社会科学院昆明動物研究所	3	中井ほか
9	4	JICA 研修員	国際湖沼環境委員会	11	Smith
9	5	タイ国立科学博物館	タイ国立科学博物館	11	大塚・Smith
9	6	ICOM 京都大会	ICOM 京都大会実行委員会	27	芳賀・亀田・楊・Smith
9	23	西交利物浦大学	西交利物浦大学	10	大塚
10	17	中国全国政治協商会議人口資源環境委員会訪日団	駐日中国大使館科学技術部	6	高橋啓一
10	18	ベトナム・ホーチミン市関係者	商工労働観光部商工政策課長	6	芳賀
10	20	JICA 博物館学コース研修員私的訪問団	国立民族学博物館	12	中井・芦谷・戸田・中村
10	30	湖南省農業科学院技術団	総合企画部国際課長	9	芳賀
11	16	JICA 地域理解プログラム	国際協力機構	25	Smith
11	26	日中植林・植樹国際連帯事業	公益社団法人青年海外協力協会	50	山本
12	4	湖南省海外聯誼会	総合企画部国際課長	10	芳賀
12	10	湖南省市幹部研修団	総合企画部国際課長	27	芳賀
12	10	国際水文学計画トレーニングコース一行	京都大学防災研究所水資源環境センター	15	中井
1	22	インドネシア湖沼保全研修	国際湖沼環境委員会	16	中井
1	28	インドネシア湖沼保全研修	国際湖沼環境委員会	16	奥野

(2) 視察対応（国内）

月	日	視察者	人数	対応者
6	12	内閣府政府広報室室長一行	2	中井
7	25	ヤンマーミュージアム	3	高橋・榎永
7	28	宮崎市田野総合支所農林建設課	1	下松
8	2	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、京都市、大阪市、神戸市の担当者	11	芳賀

月	日	視察者	人数	対応者
8	9	三原市議会会派創志会	5	中井
8	28	大阪市交通道路室、滋賀県道路課職員（インターンシップ学生含む）	20	芳賀
9	3	環境省水環境課、千葉県、茨城県、長野県、島根県、鳥取県および滋賀県の担当者	15	中井
9	4	茅ヶ崎市文化資料館	1	下松
9	6	地底の森ミュージアム	1	八尋
9	27	環境省外来生物対策室	1	中井
10	29	大北漁業協同組合連絡協議会・大町市漁業協同組合連絡協議会	16	中井
10	31	豊田市役所都市整備部公共建築課	8	山川
11	22	島根県立三瓶自然館学芸課おもてなし推進室アテンダント	4	中村
12	13	柴山潟流域環境保全対策協議会	6	楊
12	22	地方創生担当大臣	1	高橋
1	10	させぼパール・シー株式会社	2	金尾
1	29	福井県博物館協議会	34	芳賀
2	19	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	2	八尋
3	30	京都市動物園	1	松田

(3) 博物館実習

・期間：8月26日（月）～8月30日（金）までの5日間

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内9大学、1博物館の14名を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、交流、展示などの活動について、講義および実習を行った。最終日には課題の発表会を行い、博物館職員との意見交換も行われた。

・実習日程と内容

月日	内容（午前）	内容（午後）
8月26日（月）	<ul style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーション 講義「琵琶湖博物館の概要」 講義「琵琶湖博物館の研究活動」 	<ul style="list-style-type: none"> 講義「博物館での展示」 見学「常設展示室の見学」
8月27日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「博物館資料とその整理について」 講義「IPMについて」 見学「収蔵庫の見学」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習「各資料分野での実習」
8月28日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「展示リニューアルと広報・営業」 講義「ユニバーサルデザインと博物館」 講義「企画展示について」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習「発表課題内容の検討」
8月29日（木）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「環境学習と博物館」 実習「発表課題内容の検討」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習「発表課題の準備とまとめ」
8月30日（金）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「琵琶湖博物館における交流事業」 講義、実習「学校連携および体験学習プログラム」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習成果発表会 修了式

・実習生の大学と人数：9大学・1博物館、14名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
近畿大学	3	京都文教大学	1
成安造形大学	2	京都橘大学	1
滋賀県立大学	2	富山大学	1
京都産業大学	1	和歌山大学	1
琉球大学	1	浜松市楽器博物館	1
		合 計	14

5 対話と応援ができる博物館

利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2019年度の登録者数は195名（2018年度登録更新者218名）である。

フィールドレポーターの主な活動は、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、1年に2回程度のアンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、自由交流型調査のまとめと掲示板発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施がある。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。2019年度の『定例会』等の会合・行事を計21回開催した。

フィールドレポーター2019年度第1回調査「夏のセミの調査」、第2回調査「近江の食 調査」を実施した。調査票の作成や報告書執筆に関しては、「夏のセミの調査」はフィールドレポータースタッフの柁島昭紘氏、「近江の食 調査」は山崎千晶氏が中心になって実施した。「フィールドレポーターだより」（通巻52号）を発行した。

「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」計4号（通巻95-98号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、フィールドレポータースタッフの中野敬二氏が務めた。

フィールドでの観察会や調査会としては、2019年8月3日に琵琶湖バレイでアキアカネ調査を実施した。

びわ博フェスにおいては、2019年10月19日にフィールドレポーターからは、「オオキンケイギク調査」と「集まれ！モミジ(カエデ)の仲間たち」の調査報告をパネル展示で一般公開したと共に、ワークショップを企画し開催した。このワークショップでは、フィールドレポータースタッフ全員が担当となり、夏のセミ調査に関連する内容の「セミあそび・セミクイズ」を実施した。これらの展示やワークショップの会場には、多くの参加者が訪れ、大いに盛り上がった。

回	月	日	出席数	内 容	
1	4	6	11	定例会	2019年度調査計画確認、セミ調査に決定
2	4	21	9	定例会	セミ調査内容の検討、詳細審議
3	5	11	11	定例会	夏のセミ調査、調査資料最終調整、交流会の準備と打ち合わせ
4	5	18	12	交流会	「橋のなまえ」「オオキンケイギク」「集まれモミジ(カエデ)の仲間」調査の報告
5	6	1	8	定例会	掲示板95号内容決定、次回調査テーマ検討、セミ調査発送決定
6	6	15	8	定例会	掲示板95号発送、レポーターだより52号発送
7	7	6	7	定例会	びわはく投稿内容やアキアカネ調査とびわ博フェス関連の検討
8	7	20	9	定例会	びわ博フェスワークショップ内容検討、夏のセミ調査内容の確認
9	8	3	14	調査	アキアカネ調査
10	8	17	7	定例会	第2回調査内容検討、びわ博フェスワークショップ内容等の決定
11	9	7	10	定例会	掲示板96号内容確認、夏のセミ調査経過報告
12	9	21	11	定例会	掲示板96号発送
13	10	5	7	定例会	びわ博フェスワークショップ内容・役割確認
14	10	19	11	定例会	びわ博フェスワークショップの開催・進行

回	月	日	出席数	内 容	
15	11	2	10	定例会	2019年第2回調査内容の検討
16	11	16	10	定例会	2019年第2回調査発行向けの最終調整
17	12	7	10	定例会	「食 調査」票の発送、掲示板 97 号内容の検討
18	12	21	9	定例会	掲示板 97 号発送
19	1	18	11	定例会	食の調査中間報告、セミの調査報告、タンポポ調査の検討
20	2	1	9	定例会	セミ調査報告、タンポポ調査内容の学習等、FR 活動の論議
21	2	15	8	定例会	食調査の集計、タンポポ調査表の確認
22	3	7	—	定例会	(コロナ禍により開催中止)
23	3	21	—	定例会	(コロナ禍により開催中止)

(2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていきこうとする利用者のための登録制度として、2000年8月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらうことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1年毎に何回でも更新できる。

2019年度は登録講座を、5月26日(日)、9月22日(日)の2回実施し、それぞれ18名、9名の新規登録者があり、2019年度末の会員数は403人となった。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の設置理念と、中長期基本計画の核心である「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力となってきた。2019年度には1グループ増加し26グループでの活動展開となった。

各グループの活動

〇うおの会

会長：中尾博行 担当学芸員：松田征也 会員数：81名

[設立の趣旨] 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、お魚採りが大好きな人々が集まって結成されたうおの会。魚つかみを楽しみながら調査結果を記録として残し、身近な環境を見つめなおすことを目的としている。2000年の発足以来、お魚採りが大好きな会員が結集し、博物館を活動の拠点としながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 原則として月1回の定例調査を琵琶湖流域の各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。定例調査は原則として河川単位で実施した。その結果、43種、6398尾の採集記録を残すことができた。また、会員の研鑽の場として、冬季には勉強会を実施した。調査活動のほかに、琵琶湖博物館行事「びわ博フェス2019」への参加をはじめとして、琵琶湖を戻す会、早崎内湖再生保全協議会、水資源機構、草津市不動浜自治会等の各種団体による自然観察会や環境学習等への協力を行った。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、12名の運営委員が中心となって行った。長年の活動が評価され、日本水環境学会の「2019年度水環境文化賞」を受賞することができた。2020年6月に東京にて開催される表彰式に出席予定である。

「うおの会」のおもな活動

・定例調査などの活動一覧(のべ参加人数 217 人・167 データ)

活動日	内 容		参加者数
4/21	第 141 回定例調査	信楽川 (大津市、甲賀市)	24 名
5/19	第 142 回定例調査	草野川 (長浜市)	23 名
6/16	第 143 回定例調査	野洲川 (水口周辺)	17 名
7/21	第 144 回定例調査	千丈川、多羅川、国分川 (大津市)	28 名
8/31	増水で中止：チャンネルキャットフィッシュ調査 (瀬田川)		一名
9/15	第 145 回定例調査	西の湖、大中周辺 (近江八幡市、東近江市)	15 名
10/19	びわ博フェス 琵琶湖博物館		11 名
10/20	第 146 回定例調査	姉川 (中上流/長浜市、米原市)	14 名
11/17	第 147 回定例調査	相模川、総門川、堂の川、常世川、吾妻川等 (大津市)	26 名
12/15	第 148 回定例調査	琵琶湖博物館周辺河川、水路 (守山市、草津市、栗東市)	17 名
1/19	勉強会：熊木さんによるハリヨ研究発表		24 名
2/16	勉強会、データまとめ会 (兼はしかけ更新受付) 場所：琵琶湖博物館		17 名
3/29	総会 (コロナ禍により 4 月に延期)		一名

(上記以外に運営会議を 1 回開催、個人調査データ 137 件)

・各種行事・団体への参加・協力一覧

活動日	内 容		参加者数
8/4	早崎ビオトープ観察会にて	観察会講師	2 名
9/29	東近江市蒲生地区ため池調査への	協力	4 名
10/27	水資源機構「お魚里帰り大作戦 2019 (新浜ビオトープ)」にて	観察会講師	1 名
11/9	草津市不動浜自治会「ふるさと環境を守る会」にて	観察会講師	1 名

(その他の事業に協力：琵琶湖を戻す会各活動)

○近江 巡礼の歴史勉強会

世話人：福野憲二 担当学芸員：橋本道範・渡部圭一 会員数：4 名

[設立の趣旨] 近江の巡礼について、歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、宗教関係者、郷土史家、教育関係者、行政関係者など各種専門分野と勉強会、見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を設立。“近江の祈り”研究の一つとして、甲賀市で発見された福野家古文書「甲賀准四国設立由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八ヶ所(注)の調査活動を行う。

(注) 甲賀准四国八十八ヶ所は、滋賀県の四国巡礼として明治 45 年に設立された唯一の「写し四国八十八ヶ所」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことであるが、現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多くの寺院には掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し記録することに意義があると考えます。

[活動の概要] ・「甲賀准四国設立由来」に基づき 8 名の発起人を訪ね甲賀准四国に関する資料等の発掘を行い設立の経緯と巡礼の広がりを調べる。

- ・各寺院を訪問し住職と面談することで、甲賀准四国の現在の状態を把握し、あわせて新たな資料を発掘する。
- ・朱印帳などを手掛かりに広がり具合を調査し人々を巡礼に駆り立てる要因を探る。
- ・西国三十三所や近江西国三十三所の観音信仰との関連について調査し巡礼の実態を探る。

[2019 年度活動結果報告] 活動会員数 (のべ) 44 名、一般参加者数 (のべ) 543 名

- ・甲賀准四国の調査活動では土山町白毫寺との面談が実現し大師像や厨子を発見できた。

- ・石碑調査で旧道に設置された石碑を発見。今後の調査活動に大いに参考になった。
- ・法然上人 25 霊場の巡拝を通して現代の巡礼のシステムを体験することができた。
- ・甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示を実施して調査結果を地元で発表した。
- ・岩上自治振興会の歴史講座や滋賀県職員の近江地元学研修で成果を報告した。
- ・MIHO MUSEUM や信楽宮町区との協働で飯道山・飯道神社ツアーを実施した。
- ・甲賀市くすり学習館の企画展（山伏の祈りとくすり）に資料提供した。

「近江 巡礼の歴史勉強会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
5 12	甲南町竜法師の嶺南寺を再訪	甲賀市甲南町
5 26	法然上人 25 霊場巡拝（正林寺、清水寺、永観堂）	京都市
5 27	法然上人 25 霊場巡拝（欣浄寺）	三重県伊勢市
7 12	戦国の城を歩く（飯道寺城址）	甲賀市信楽町
8 17	修験の聖地「飯道山・飯道神社」案内 1	甲賀市信楽町
8 24	修験の聖地「飯道山・飯道神社」案内 2	甲賀市信楽町
8 26	愛宕講で京都愛宕神社代参	京都市
8 31	修験の聖地「飯道山・飯道神社」案内 3	甲賀市信楽町
9 6	滋賀県職員の近江地元学研修で千光寺を案内	甲賀市水口町
9 18	江州岩上講秋の大祭に参加	甲賀市水口町
10 19	びわ博フェスにて巡礼歴史のポスター展示	琵琶湖博物館
10 26	法然上人 25 霊場巡拝（知恩寺、金戒光明寺、勝林院）	京都市
11 10	岩上地区文化祭でパネル展示（巡礼歴史）	甲賀市水口町
11 21	土山町白毫寺と東近江長福寺を訪問	甲賀市・東近江市
12 6	甲賀市鮎ざしサークルの試食会に参加	甲賀市水口町
1 13	磯尾明王寺の石碑発見	甲賀市甲南町
1 18	修験の聖地「飯道山・飯道神社」案内 4	甲賀市信楽町
1 30	飯道山麓の古墳調査	甲賀市水口町
2 21	山伏の祈りとくすり（企画展で資料提供）	甲賀市甲賀町

*上記活動を通じた住職との面談実績について

甲賀准四国対象寺院 98 ヶ寺のうち、調査可能な寺院数は兼帯の寺院も合わせて 92 ヶ寺、廃寺・老朽化で調査不可能な寺院数は 6 ヶ寺である。その中で 2020 年 3 月までに住職との面談が実施できた寺院数は 24 ヶ寺（進捗率 26.0%）である。

○淡海スケッチの会

担当学芸員：榊永一宏 会員数：6 名

[設立の趣旨] 滋賀県内の現場へ赴き、絵画や俳句等により、風景やものを写生することを目的とする。

[活動の概要] 月 1 回（基本的に第 4 日曜日）、滋賀県内各地でスケッチ会等を開催。2015 年秋に設立。風景に限らず、植物や博物館内の魚などをスケッチしたり、専門家の話を伺う機会も設けている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4 20	館内活動	琵琶湖博物館	1 名
5 26	写生会	大津港（大津市）	2 名
6 23	写生会	なぎさ公園（大津市）	3 名
7 28	館内活動	琵琶湖博物館	4 名
8 25	館内活動	琵琶湖博物館	3 名

活動日		内 容	場 所	参加者数
9	29	ポスター制作	琵琶湖博物館	3名
10	27	写生会	花緑公園（野洲市）	2名
11	24	写生会	八幡山（近江八幡市）	3名
12	22	ミーティング	琵琶湖博物館	3名
1	26	館内活動	琵琶湖博物館	3名
2	22	館内活動	琵琶湖博物館	3名
3	22	館内活動（コロナ禍により中止）	琵琶湖博物館	一名

○近江はたおり探検隊

運営・ホームページ担当：辻川智代 担当学芸員：渡部圭一 会員数：10名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日		内 容	場 所	担当者・参加者
4	13	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
4	24	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
5	11	織姫の会	生活実験工房	参加者：5名
5	29	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
6	8	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
6	26	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
7	6	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
7	24	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
9	7	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
9	25	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
10	9	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
10	19	びわ博フェス「円形織物でお花のコースターをつくろう」	生活実験工房	参加者：8名 体験者：14名
11	8	織姫の会	生活実験工房	参加者：6名
11	29	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
12	14	織姫の会・わく探と共催「綿に触れてみよう」	生活実験工房	参加者：2名
1	8	織姫の会	生活実験工房	参加者：5名
1	25	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
2	8	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名

○大津の岩石調査隊

代表者：梅澤正夫 担当学芸員：里口保文 顧問：中野聡志 会員数：20名

[設立の趣旨] 市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

[活動の概要] 活動も6年目に入ったので、従来からの隊員に関しては、①主体的な活動の推進、②調査・研

究活動の強化、③活動のPR、また、新しい隊員に対しては④基礎知識・技能の習得、⑤野外活動の面白さの体得、更に、多くの多様な隊員の要望を具体化すべく、事務局をあらたに作った。こうした結果、隊員からの主体的な提案が増加し、主体的で濃度の濃い活動が広がった。当館の地学研究室が事務局として行っている地学研究会でも2件の報告をした。野外活動においても事前調査なども積極化し、調査の密度も高くなった。各活動における報告も充実した。来年度は基礎力の向上を目指し、地球学の入門書の勉強会なども進めたい。また学会誌への投稿なども推進したい。

「大津の岩石調査隊」のおもな活動

活動日			内 容	場 所	参加者
5	25	土	撰津峡の岩石調査 三上さんが地学を教えている同志社大等の野外巡検への参加	高槻市・撰津峡等	12名
6	12	水	野洲の花崗岩、変質花崗岩の野外調査	野洲市	12名
7	15	月	今後の方針協議と自慢の岩石PR、相談会	琵琶湖博物館	14名
8	31	土	薄片作成と今後の予定の立案	琵琶湖博物館	12名
9	21	火	福井県・年縞博物館見学と湖北の野外調査	福井県若狭町	12名
10	19	土	びわ博フェス参加 岩石の面白さ不思議	琵琶湖博物館	11名
11	9	土	三上山野外調査	三上山	9名
12	7	土	多賀町博物館見学と湖東流紋岩類の野外調査	多賀町博物館・八尾山	14名
1	18	日	薄片作成と薄片の勉強会	琵琶湖博物館	10名
2	16	土	地学研究会への参加 2件報告	大津市	11名
3	14	土	岩石薄片実習、勉強会（コロナ禍により中止）	琵琶湖博物館	一名

○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当学芸員：金尾滋史 会員数：25名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様子を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

[活動の概要] 今年度は「滋賀の自然や風景」をテーマとして、県内の様々な風景や身近な自然や生き物の撮影を行った。また、びわ博フェスではこのテーマに関連した写真の展示を行ったほか、館内の写真記録係として、それぞれのイベントの様子を撮影した。このほか、大橋コレクションの活用に向けた資料整理について別途活動日を設け、資料整理を積極的に行った。

「温故写新」のおもな活動

活動日			内 容	場 所	参加者数
4	18	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	4名
4	20	土	おでかけ撮影会 ～日野町鎌掛・土山町鮎河～	鎌掛シャクナゲ景（日野町）、土山町鮎河	6名
5	11	土	博物館周辺の自然撮影	博物館周辺	6名
5	16	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	4名
5	18	土	写真教室「海野和男の生きもの写真のススメ」参加者サポート	博物館セミナー室ほか	2名
6	13	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	6名
6	15	土	おでかけ撮影会～大津市内街歩き～	大津市内	中止
7	20	土	企画展示オープニングセレモニー撮影	博物館企画展示室ほか	5名
7	25	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	5名

活動日			内容	場所	参加者数
8	4	日	おでかけ撮影会～伊吹山山頂～	伊吹山（米原市）	8名
8	21	水	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	6名
9	19	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	5名
9	28	土	びわ博フェス 2019 の出展準備	博物館会議室	5名
10	19・20	土・日	びわ博フェス 2019 での写真展および記録写真撮影	博物館	のべ13名
11	12	日	彦根・足軽辻番所サロン 芹橋生活での講演	善利組足軽屋敷「辻番所・旧磯島邸」（彦根市）	5名
11	21	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	4名
11	30	土	おでかけ撮影会～教林坊・石馬寺～	教林坊（近江八幡市）、石馬寺（東近江市）	9名
12	7	土	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	5名
12	19	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	5名
1	16	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	5名
1	18	土	おでかけ撮影会～大溝・勝野の文化的景観～	大溝・勝野（高島市）	6名
2	8	土	おでかけ撮影会～湖北野鳥センター～	湖北野鳥センター（長浜）	6名
2	13	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	4名
3	14	土	総会（コロナ禍により中止）	博物館会議室	一名

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子 担当学芸員：渡部圭一 会員数：1名

[設立の趣旨] 地域の生活のあり方を考えながら地域の生活話を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要] 2019年度は活動休止

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：堀田博美 事務局長：安原輝 担当学芸員：山川千代美 会員数：36名

[設立の趣旨] 多賀町四手で計画された180～190万年前の古琵琶湖層群調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)において、市民参加の方々を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

[活動の概要]

【定例活動】

- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第七次発掘調査」(場所：滋賀県犬上郡多賀町)に参加。発掘期間中に発掘現場で行われた「親子化石発掘体験」もお手伝いした。(4月20日～4月30日 発掘期間中の参加者(のべ)：71名)

【フィールド活動】

- ・野洲川での屋外勉強会(場所：滋賀県湖南市・野洲川)(11月24日 参加者：15名)

【屋内活動】(場所：琵琶湖博物館)

- ・多賀の発掘現場で採取された咽頭歯化石のクリーニング(計6回)
(内2回は「多賀町発掘お助け隊」の皆様との合同活動。古琵琶湖発掘調査隊のみの参加者(のべ)：61名)
(5月25日、6月23日、7月15日(「多賀町発掘お助け隊」の皆様との合同活動)、8月11日(「多賀町発掘お助け隊」の皆様との合同活動)、9月22日、11月3日)

- ・クリーニング済咽頭歯化石の標本整理(計2回) (11月8日、11月19日 参加者(のべ):4名)
- ・多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業(計22回 参加者(のべ):75名)
(4月12日、5月17日、5月29日、6月6日、6月19日、6月29日、7月11日、7月19日、7月24日、
8月9日、8月21日、9月4日、9月18日、9月28日、10月10日、10月15日、10月22日、11月13
日、11月29日、1月18日、2月7日、2月12日)

【勉強会】(場所:琵琶湖博物館)

- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第七次発掘調査」に向けての勉強会(4月14日 参加者:23名)
- ・古琵琶湖層の咽頭歯化石についての勉強会(「多賀町発掘お助け隊」の皆様との合同活動)
(7月15日 参加者数は咽頭歯化石のクリーニングと同日実施の為、計数せず)
- ・野洲川での屋外勉強会で採取した化石の報告(12月21日 参加者:17名)
- ・京都府宇治田原町・滋賀県土山町の化石についての勉強会(1月11日 参加者:11名)
- ・コイ科魚類の咽頭歯についての勉強会・咽頭歯化石の同定実習(2月2日 参加者:11名)

【びわ博フェス2019】(場所:琵琶湖博物館)

- ・アトリウムにポスター2枚を掲示(10月19日・20日)

○湖(こ)をつなぐ会

代表:中山法子 担当学芸員:林 竜馬 会員数:5名

[設立の趣旨] 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざす。

[活動の概要] 子ども達に歌ってほしい琵琶湖の歌として生まれた「生きている琵琶湖」を広く知ってもら
う活動をしている。琵琶湖博物館に来館した小さな子ども達に「びわこの旅」の紙芝居を使いながら、琵
琶湖といきもの達との関わりを少しでも理解してもらえるように伝え、「生きている琵琶湖」がどこかで
聞いたことがある歌だなどと思ってもらえるようになればと活動を続けている。

「湖(こ)をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内容	場所
5/26	紙芝居「びわこの旅」上演 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「ホテルのホッティー物語」上演	琵琶湖博物館アトリウム
7/28	紙芝居「びわこの旅」上演 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「かやねずみのおかあさん」上演	琵琶湖博物館アトリウム
10/20	びわ博フェス2019 紙芝居「びわこの旅」上演 「生きている琵琶湖」合唱 ビービー笛演奏「かえるのうた」	琵琶湖博物館会議室
11/16	紙芝居「びわこの旅」上演 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「かやねずみのおかあさん」	琵琶湖博物館アトリウム
1/26	紙芝居「びわこの旅」上演 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「かやねずみのおかあさん」	琵琶湖博物館アトリウム
3/8	(コロナ禍により中止)	

○ザ! ディスカバはしかけ

担当:妹尾裕介、大槻達郎 会員数:4名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく
伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動。
大人と子どもが一緒に楽しむイベント作りを目指している。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

実施日			タイトル	内容
4	6	土	飛ぶタネと紙ヘリコプター作り (13:30-、14:30-) 2019年度総会	大人と子どもと一緒に模型を頑張って作りました。最後はみんなで飛ばして植物の不思議を学びました！ 参加者25名、はしかけ3名
6	23	日	虹色の傘を作ろう (13:30-、14:30-)	大人も子どもが力を合わせて、かわいい傘を作ってくれました！ 参加者22名、はしかけ4名
8	7・27	水	ディスカバリールーム展示物の修繕	おばあちゃんの台所の座布団と着物の繕いをしました。はしかけ1名
9	15	日	びわ博フェスの準備	びわ博フェスに向けて材料となる木材の準備をしました。はしかけ4名
10	20	日	びわ博フェス：木いホルダーづくり	木材を好きな木片を選んで、孔をあけ、表面を磨き、木いホルダーを作ってもらいました。参加者100名+、はしかけ4名
12	8	日	虫バッジ作り (13:30-、14:30-)	おとなのディスカバリーのラボで、虫バッジ作りに挑戦しました。参加者30名、はしかけ4名
1	18	土	おてだまをつくろう (13:30-、14:30-)	針と糸で自分だけのお手玉作りをしてもらいました。参加者25名、はしかけ4名

○里山の会

担当職員：山本綾美 草加伸吾 会員数：50名

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して、一般市民への里山理解を深める活動や現代における里山利用を実践している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソゴヤやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の山菜料理、夏の昆虫・生物観察、秋色探し、冬の焚き火(伐採した木々を使い、火おこし術、花炭など里山の燃料を使った遊び)など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動地域での認知度も高まっている。また、琵琶湖博物館内でそば、きのこ栽培など里山関係の企画を提案し博物館活動に参加している。

「里山の会」のおもな活動

活動日	内容	場所
4 13	里山体験教室(春)下見	野洲市大篠原 はしかけの森
4 21	里山体験教室(春)本番「里山の春をみつけよう」	野洲市大篠原 はしかけの森
4 28	山菜パーティ	野洲市市三宅 地先
6 19	潮干狩り	三重県津市 御殿場浜
7 6	里山体験教室(夏)下見	野洲市大篠原 はしかけの森
7 15	里山体験教室(夏)本番	野洲市大篠原 はしかけの森
8 10	そうめん流し、道具類虫干し	琵琶湖博物館
10 5	里山体験教室(秋)下見	野洲市大篠原 はしかけの森
10 14	里山体験教室(秋)本番「里山の秋さがし」	野洲市大篠原 はしかけの森
10 17	びわ博フェス準備	栗東市荒張
10 19	びわ博フェス2019	琵琶湖博物館

活動日	内 容		場 所
11	24	荒神山散策・ごみ拾い	彦根市荒神山
12	7	押花灯りづくり	琵琶湖博物館
1	11	里山体験教室 (冬)下見	琵琶湖博物館
1	19	里山体験教室 (冬)本番	野洲市大篠原 はしかけの森
3	2	里山の会総会、キノコ菌打ち体験	野洲市大篠原 はしかけの森

○植物観察の会

代表者：辻 いずみ 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：21名

[設立の趣旨] 2004年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。長年にわたり年に数回の外部観察会のみを行ってきたが、「はしかけ」本来の自主的活動とするため、2017年からメンバー登録し、月に1度「定例会」、年に数回「お出かけ観察会」を行う形とした。

[活動の概要] 2017年4月から登録制とし、月に1回定例会を行った。定例会では、博物館の周りの観察、持ち寄ったものの観察、芦谷先生に水草について教えて頂く会など、季節や天候によって変えながら行った。はしかけ全体へ呼びかける「お出かけ観察会」は、5月にMieMu（三重県立博物館）屋外で布谷先生に講師をお願いして行った。4月、9月、11月のお出かけ観察は、メンバーのみで行う形とした。2月は当初から活動を行わないとしてあったうえに、3月も臨時休館の関係で活動が行えず、2か月連続のお休みとなった。

[活動の振り返り、来年度へ向けて]

- ・1つのテーマや興味を持つことで、見たいもの、行きたい場所が次々と出てくるので、自分たちメンバーだけのお出かけ観察を、これからも行っていく。
- ・芦谷学芸員に教えていただく「水草観察（お出かけ）Ⅱ」を昨年に続き行うことができた。湖水へ安全に入ることができること、気温水温のこと、植物の生育状況が見やすいことなどを考えると、時期は9月に限定されてくることが予想できる。そのため、毎年この時期に合わせて芦谷学芸員をお願いする形にしたい。
- ・他の活動を兼ねてみえる方が多く、なかなか人数が揃わない現実があった。しかしその反面、その方々が詳しいフィールドへみんなでお出かけして行き、新しい観察ができることも楽しみである。来年度から少しずつ、お出かけの範囲を遠くへも広げていきたいと考えている。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内 容		場 所	参加者	
4	14	日	お出かけ観察「朽木でカエデをみよう」	森林公園 くつきの森	4名
5	11	土	お出かけ観察会「MieMu（三重県立博物館）へ行こう」企画展「ボタニカル・デザイン」午後 屋外で観察会 講師 布谷知夫	三重県津市 MieMu（三重県立博物館）	15名
6	2	日	博物館の周りの観察、持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室1、屋外	5名
7	7	日	博物館の周りの観察、持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室1	8名
8	4	日	持ち寄り観察、後期の計画	琵琶湖博物館 おとなのディスプレイ内ラボ	5名
9	15	日	お出かけ観察「水草をみようⅡ」	長浜市の湖岸、他	3名
10	6	日	9月の水草観察の報告、持ち寄り観察、他	琵琶湖博物館 実習室1、屋外	8名
11	4	月・ 振休	お出かけ観察「水口子どもの森 秋の里山を歩こう」	甲賀市水口子どもの森 屋外のみ	10名
12	1	日	博物館の周りの観察、持ち寄り観察	琵琶湖博物館 おとなのディスプレイ内ラボ、屋外	5名

活動日		内 容	場 所	参加者
1	12 日	博物館の周りの観察、持ち寄り観察、1~3月の計画	琵琶湖博物館 実習室1、屋外	7名
2		お休み		
3	1 日	(コロナ禍により中止)		一名

○たんさいぼうの会

会長：津田久美子 担当学芸員：大塚泰介 会員数：22名(年度内の入退会者を含む延べ人数)

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう(単細胞)の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。

今年度は、会員を主著とする2本の論文(原著)を出版した。また、学会等での発表が2件行われた(下線はたんさいぼうの会会員、二重下線はたんさいぼうの会名義での発表)。

富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2019) 古琵琶湖層群蒲生層最上部から産出した化石珪藻フロア. *Diatom* 35: 1-17.

Yamamoto, M. & Ohtsuka, T. (2020) Evaluation of three preparation methods for living diatoms at a sandy river-mouth tidal flat: conventional acid-cleaning, nuclear staining, and sieving. *Fottea*, Olomouc 20: 17-24.

根来 健・大塚泰介 (2019年11月9日) 水道障害生物 *Fragilaria crotonensis* におけるねじれ群体の出現について. 日本水処理生物学会第56回大会, 日本水処理生物学会, 金沢工業大学扇が丘キャンパス(石川県野々市市) [口頭発表]

根来 健・大塚泰介・辻 彰洋 (2019年12月1日) ねじれた群体を作る *Fragilaria crotonensis* に関する考察. 日本珪藻学会第39回研究集会, 日本珪藻学会, 東京学芸大学(東京都小金井市) [口頭発表].

現在、会員を主著とする藤前干潟(愛知県名古屋市の)の珪藻植生に関する原著論文を投稿中である。また、2020年5月に計画されていた日本珪藻学会第41回大会に、2人の会員がそれぞれ藤ヶ鳴湿原(岡山県岡山市)およびメダカ水槽に発生する珪藻の研究報告でエントリーしていたが、新型コロナウイルス感染拡大のあおりで大会が中止となったため、先行して論文執筆を進めることになった。他に、瀬田公園(滋賀県大津市)、愛知県の鉦質土壌湿地群、野田沼・曽根沼(滋賀県彦根市)などの現生珪藻植生の研究を進めている。また、琵琶湖から出現した群体がねじれるオビケイソウの研究、ミズゴケ付着珪藻の培養、古琵琶湖層群蒲生層の珪藻を用いた古環境復元、古琵琶湖層群甲賀層の珪藻植生の研究などにも取り組んでいる。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4 6	たんさいぼうの会第59回総会・花見	琵琶湖博物館	担当：吉野彰一 参加者：13名
6 11	論文がDiatom誌でオンライン出版される		主著者：富 小由紀
7 20	はじめてのたんさいぼう上級編 生きた珪藻の定量法(その1)	琵琶湖博物館	講師：今井一郎・山本真里子 参加者：9名
8 3	はじめてのたんさいぼう上級編 生きた珪藻の定量法(その2)	琵琶湖博物館	講師：今井一郎・山本真里子 参加者：8名
9 29	たんさいぼうの会第60回総会	琵琶湖博物館	担当：芝崎美世子 参加者：6名
10 19 20	びわはくフェスティバルでマイクロアクアリウムを活用したワークショップ	琵琶湖博物館	琵琶湖の小さな生き物を観察する会と共催 参加会員：5名

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
11 12	30 1	日本珪藻学会第39回研究集会	東京学芸大学 参加者：4名
1	13	たんさいぼうの会第61回総会・新年会	草津市まちづ くりセンター 担当：三村武士 参加者：12名
1	22	論文がFottea誌でオンライン出版される	主著者：山本真里子

○田んぼの生きもの調査グループ

主担当学芸員：鈴木隆仁 会員数：約 10 名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、そこに生息する大型鰓脚類などの生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 毎年 5 月、6 月に、滋賀県各地の水田においてホウネンエビ・カブトエビ類・カイエビ類の分布を調査し、標本を同定するとともに、採集データを登録して、分布図を作成する活動を行っている。エビ類の分布を規定する要因を探るためには、さまざまな環境のもとで飼育実験を行う必要があるとの認識から、本年度は、微生物の生態に詳しい楠岡泰氏から、大型鰓脚類の飼育に関する Lecture を受ける活動を行った。実際に飼育実験を行うための個人調査を 2 回実施し、飼育実験を開始している。

2 種のカブトエビが生息している大津市の月輪、大江、石山寺、千町、赤尾町においては、両種の分布の経年変化を追跡するために、会員全員による合同調査を 6 月上旬に 1 回実施した。合同調査は、2～3 人のグループに分かれて車に分乗し、調査地を回りながら行った。そのほか、昨年度に続いて、循環灌漑地域における大型鰓脚類の分布状況を明らかにするための個人調査を 1 回行ったほか、大津市でカブトエビ類の個人調査を 1 回行った。その後、夏から秋にかけて、合同調査および個人調査で得られたサンプルの同定会と結果報告会を、それぞれ 1 回ずつ行った。例年、年度末に総会を行っているが、本年度は新型コロナウイルス感染症対策に伴う博物館の臨時休館により開催を見合わせた。

毎年秋に行っている標本の同定作業においては、形態のよく似た 2 種のカブトエビ類やカイエビ類の同定に頭を悩ますことも少なくない。そこで、本年度および昨年度に採集した標本を写真撮影し、その画像から取得した形態測定データを統計的に処理して種を同定できるか否かを確認するための実証研究を行った。その結果は、山川が琵琶湖地域の水田生物研究会で口頭発表した。

2019 年度の調査結果

・大津市における 2 種のカブトエビ類の調査

全体で 111 筆を調査し、27%の水田でアメリカカブトエビの生息を、また、24%の水田でアジアカブトエビの生息を確認した。また、10%の水田で両種が同時に生息していることを確認した。一方、60%の水田でトゲカイエビが確認されたが、カイエビが見つかったのは 9%の水田にとどまった。なお、ホウネンエビが見つかった水田は 13%で、14%の水田では大型鰓脚類の生息が確認できなかった。

毎年アジアカブトエビの生息が確認されていた水田のうち、月輪三丁目で 2 筆、大江五丁目で 4 筆が宅地開発により消滅した。大江四・五丁目においては、昨年は 5 筆でアメリカカブトエビの生息が確認されたが、本年度はアメリカカブトエビの生息が全く確認できなかった。石山寺三・四丁目では、両種の出現状況が昨年と異なる水田が多数あった。また、千町三丁目については、毎年休耕になる水田が入れ替わっているため、両種の競合関係を明らかにするには継続した調査を待つ必要がある。赤尾町については、昨年度アメリカカブトエビが確認された水田のいくつかで、本年度はアメリカカブトエビの生息が確認できなかった。昨年度の調査は大雨の翌日であったことを考慮すると、大雨による増水でアメリカカブトエビが用水路の上流側の水田から流れ込んだものの、定着するには至らなかったのではないかと推察される。

・循環灌漑による影響の調査

循環灌漑を実施する守山市木浜町の 79 筆の水田において調査を行った。カイエビの生息が確認された水田は 30 筆、トゲカイエビの生息が確認された水田も 30 筆、タマカイエビの生息が確認された水田は 3 筆であった。また、カイエビとトゲカイエビが共出現している水田は 26 筆あり、タマカイエビが見つかった 3 筆では、カイエビ、トゲカイエビも含めて 3 種が共出現していた。一方、ホウネンエビの生息が確認できた水田はなく、36 筆の水田では大型鰓脚類の生息が全く確認できなかった。昨年度調査した地区と同様に、トゲカイエビの出現率はかなり高くなっており、循環灌漑の影響による分布拡大の可能性が示唆された。

・2020 年度の計画

大津市の月輪、大江、石山寺、千町、赤尾町における 2 種のカブトエビ類の競合関係を見極めるためには、これまでのように各年度 1 日だけの調査では限界があると考えられる。そこで、2020 年度は、両種が共出現するいくつかの水田について、数日おきに環境条件と生息状況を調査する定点観察を行う予定である。また、形態測定に基づくカイエビ類の同定手法を確立するためには、同定の基準とする種について多次元正規分布に従う形態測定データを収集する必要がある。そのため、カイエビ類についてもいくつかの水田で定点観測を行い、成長の各段階にあるさまざまなサイズの標本を採取することを予定している。

2019 年度業績

2019 年 12 月 15 日 第 10 回琵琶湖地域の水田生物研究会 口頭発表「形態測定を用いたカイエビ類の同定について」

「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4 23	楠岡さんから、エビ類の飼育に関するノウハウをヒアリングした	琵琶湖博物館	5 名
5 12	大津市で、飼育試行用のホウネンエビ、ヒメカイエビの採取を行った	大津市	1 名
5 18	大津市で、飼育試行用のカイエビ、トゲカイエビの採取を行った	大津市	1 名
5 26	調査の準備：大江、石山寺地区のカブトエビ類調査の日程確認、調査で使用する瓶の準備を行った	琵琶湖博物館	6 名
6 2	守山市の循環灌漑実施地域の調査を行った	守山市	1 名
6 6	大津市平津地区の調査を行った	大津市	1 名
6 9	3 班に分かれ、大津市月輪、大江、石山寺、千町、赤尾町の調査を行った	大津市	7 名
7 14	標本同定会：採集したサンプルの同定を行った	琵琶湖博物館	7 名
10 13	結果報告会：採集したサンプルの同定結果などを報告した	琵琶湖博物館	7 名
12 15	水田研究会：琵琶湖地域の水田生物研究会において、研究結果の口頭発表を行った	琵琶湖博物館	6 名
3 8	総会（コロナ禍により中止）	琵琶湖博物館	一名

○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：8名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2013年度に設立された。当初は、2年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016年度以降もグループを継続することとした。

[活動の概要] 2019年度は、「タンポポ調査・西日本2020」の調査1年目として、調査を開始しサンプルを整理すると共に、担当学芸員が全体の調査準備のための実行委員会に参加した。また、琵琶湖博物館で開

催された「タンポポ調査説明会」に運営側として参加した。

「タンポポ調査はしかけ」のおもな活動

活動日			内容	場所	参加者
4	13	土	タンポポ調査説明会	琵琶湖博物館および烏丸半島	2名
4	20	土	タンポポ調査説明会	琵琶湖博物館および烏丸半島	2名





〇ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」









担当学芸員：中村久美子 会員数：4名

[設立の趣旨] 幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指している。

[活動の概要] 2012年環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015年度には「親子自然遊びの広場」として開催し、2016年9月からはしかけ活動として立ち上げた。毎月おおよそ第3水曜日に、約10組弱の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑の作物を調理して食べたり、五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施している。おおよそ2歳～4歳の幼児と保護者が楽しんでいるが、時にはお腹が大きくなったお母さんがしばらくして産まれてすぐの赤ちゃんを連れてきてくださることもあったり、0歳児から小学生高学年まで年齢幅広く、自然で遊んでいる。3月の活動では、新型コロナウイルスの影響で博物館が休館となり、初めて博物館外で実施した。子育てサロン等が軒並み自粛休止し母子が日々の過ごし方に困っている中、ちこあそが社会のニーズに答えることができることも実感した。本年度も継続して神戸大学との共同研究を実施することができた。子どもや保護者の声を録音し、自然に関わる際の子どもの変化を調査し、博物館における自然の関わりについて明らかにしようとしている。

「ちこあそ」のおもな活動

活動日		タイトル	内容
4	17	工房ウラでタケノコ掘り	
5	15	2歳児も呼び水を理解するガチャコンポンプ遊び	
6	19	サツマイモの苗を植えました	
7	17	生き物の痕跡を見つけて、？と！がいっぱい	

活動日		タイトル	内容
9	18	カマキリさんも一緒に遊びました	
10	16	サツマイモ掘り。ツルをきれいに剥きながら、おしゃべりタイム	
10	19	びわ博フェス おくどさんでフーフー火吹き体験	
11	20	焼き芋をしました。ホクホクの焼き芋、美味しいね	
12	18	トチの葉っぱで変身!	
1	15	冬でも大人気、ガチャコンポンプで水遊び	
2	26	冬の生き物をルーペで観察、何が見えてるのかな?	
3	18	博物館を飛び出して。ヤギさんにエサやり	

○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎

担当学芸員：大塚泰介

会員数：24名

[設立の趣旨] 私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

[活動の概要] 琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。

調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わ

ない。月に1回集まって、琵琶湖などの小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察を行う。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
4 29	講習会（スマートフォンでの撮影法）	琵琶湖博物館	8名
5 18	採集・観察会	琵琶湖博物館	1名
6 9	採集・観察会	琵琶湖博物館	4名
7 15	採集・観察会	琵琶湖博物館	3名
8 10	講習会（粘菌や珪藻の動き）	琵琶湖博物館	6名
9 23	観察会	琵琶湖博物館	8名
10 19・20	びわ博フェスでのワークショップ	琵琶湖博物館	7名
11 30	採集・観察会	琵琶湖博物館	11名
12 22	採集・観察会	琵琶湖博物館	2名
1 9	採集・観察会	琵琶湖博物館	9名
2 11	採集・観察会	琵琶湖博物館	6名

〇びわたん

担当学芸員：奥野知之・由良嘉基 会員数：12名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（通称：わくたん）」事業は、第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに関わっている。今年度も、他のイベントから学ぶ目的で、6月には、滋賀県立近代美術館職員の方に来て頂き「石ころdeアート！」を実施した。2月には、はしかけグループ〈ほねほねクラブ〉と「骨にふれてみよう！」を行った。他のグループとイベントを行うことで、新たな視点を学ばせていただいた。

今後は、過去に開催してきたテーマも大切にしながら、新たな取り組み（イベント）を考えていく。

「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内容	一般参加者	びわたん
5 12	春の草花でしおりを作ろう！	17名	9名
6 8	石ころdeアート！	18名	7名
7 13	ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！	24名	7名
9 14	葉っぱの形に注目しよう！	22名	6名
10 12	プランクトンを見よう！ 台風19号のため中止	0名	0名
11 9	秋の色探しをしよう！	16名	7名
12 14	綿にふれてみよう！	21名	7名
1 11	水鳥を観察しよう！	14名	9名
2 8	骨にふれてみよう！	27名	11名
3 14	お魚モビールを作ろう！（コロナ禍により中止）	1名	1名

○ほねほねくらぶ

会長：西村有巧 副会長：榎本、納屋内 広報担当：宇野 担当学芸員：松岡由子、中村久美子

会員数：大人 22 名 子ども 3 名 計 25 名

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002 年 7 月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるホ乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月 1~2 回の例会が活動の中心である。

2019 年度は、普段の活動として標本製作を続けながら、2 月には、はしかけグループの『びわたん』と協力して、わくわく探検隊のプログラムとして「骨に触ってみよう」を実施した。また、例年同様、琵琶湖博物館で開催された、琵琶博フェス 2019 に参加、キツネの骨のクリーニング過程の公開作業や来館者との交流活動を行いました。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4 月例会	21 シカの肢とトビの除肉、ゲンゴロウブナの骨のクリーニング、ハクビシンの骨の整理作業	琵琶湖博物館
	29 トビとイタチの皮むき、イタチの除肉	琵琶湖博物館
5 月例会	11 トビとネコの徐肉、ゲンゴロウブナの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	26 トビ 2 体の徐肉、ゲンゴロウブナの骨のクリーニング、はしかけ登録会において活動紹介	琵琶湖博物館
6 月例会	1 トビ 2 体の徐肉	琵琶湖博物館
	26 トビとシジュウカラの徐肉、タヌキとハクビシンの骨のクリーニング、ゲンゴロウブナの骨の脱脂作業	
7 月例会	6 トビとツバメの徐肉、ハクビシンとテンの骨の洗浄作業、ゲンゴロウブナの骨の脱脂作業、ハクビシンの骨の整理作業	琵琶湖博物館
	27 キツネとトビの徐肉	
8 月例会	4 キツネとトビの徐肉、イタチの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	11 キツネとウサギとトビの徐肉、フナの骨のクリーニング	
	17 キツネの徐肉	
9 月例会	7 バイカルアザラシとウサギの徐肉	琵琶湖博物館
	22 ネコの骨のクリーニング、フナの組み立て作業、はしかけ登録会において活動紹介	
10 月例会	5 カイツブリのヒナの仮剥製と、カイツブリの翼の標本の制作、フナの組み立て、カイツブリの徐肉	琵琶湖博物館
	20 びわ博フェス 2019	琵琶湖博物館
11 月例会	2 キツネの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	24 イタチの徐肉、フナの組み立て	
12 月例会	14 イタチの皮剥ぎ、フナの組み立て	琵琶湖博物館
	22 モズの仮剥製の制作	
1 月例会	11 バイカルアザラシの背骨のクリーニング、ゲンゴロウブナの組立	琵琶湖博物館
	19 イタチの皮剥ぎ、キジバトの翼標本の制作、ゲンゴロウブナの組み立て	
2 月例会	1 イタチの徐肉、キジバトの翼標本の制作。	琵琶湖博物館
	8 わくわく探検隊のプログラムとして「骨に触ってみよう」をはしかけグループの『びわたん』さんと共催しました	

活動日		内 容	場 所
2月例会	22	キツネとフナの組み立て	琵琶湖博物館
3月例会	8	(コロナ禍により開催中止)	琵琶湖博物館
	28	(コロナ禍により開催中止)	

○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ 担当学芸員：大槻達郎 会員数：23名

[設立の趣旨] 薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト8名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

[活動の概要] 今年度の活動では、琵琶湖博物館の展示用として、芳香植物の蒸留を年4回行い、一般の参加者も交えて、蒸留水（アロマウォーター）を使ったスプレー作りや石鹸作りなどのワークショップを開催しました。びわ博フェスでは、久しぶりとなるハンドトリートメントのワークショップを行い、植物の心地よい香りと癒しの力を、参加者に広く伝えられることが出来たと思います。また、毎年開催したいといった声がある、藍染体験や廃油石鹸作り、薬草ピザ作り、七草を使ったお菓子作りの他に、新しい試みとして、オオバコのハンドクリーム作りや、木のスプーン作りなどにも挑戦できました。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4 17	ハーブのシフォンケーキ作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当：久保・山本・大羽 参加者：12名
5 15	・よもぎの蒸留とアロマスプレー作り ・よもぎ餅とよもぎゼリー作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：吉野千・松下・近持 参加者：12名
6 25	藍染体験	紺喜染織 (湖南市)	担当：深田・加藤 参加者：6名
7 10	・ミントの蒸留とアロマウォーターで手練り石鹸作り ・虫よけスプレー作りとオオバコクリーム作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：吉野ま・熊谷 参加者：14名
7 27	キカラスウリの観察会	※台風のため、中止	
9 27	・楓の蒸留とアロマウォーターでスプレー作り ・ハンドトリートメントの練習会	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：吉野ま・柳原 参加者：11名
10 19	ハンドトリートメントワークショップ（びわ博フェス）	琵琶湖博物館 会議室	担当：全員 参加者：10名
11 26	廃油石鹸、MPソープ作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当：堀田・深田 参加者：5名
12 4	・モミの蒸留とアロマウォーターでスプレー作り ・薬草ピザ作り	琵琶湖博物館 生活実験工房・ 実習室2	担当：吉野ま 参加者：11名
1 8	七草マフィン作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当：堀田・山本 参加者：7名
2 2	木のスプーン作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：十塚・久国 参加者：10名
3 8	年度末総会	※コロナ禍により4月に延期	

○虫架け

代表者：梶田聡子 担当学芸員：八尋克郎 会員数：14名

[設立の趣旨] 昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしている。

また、採集方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていかうと考えている。

[活動の概要] 野外活動では、調査のための器具を追加し、高島や長浜など湖北方面、近江八幡市、大津市、琵琶湖博物館周辺の昆虫類の調査の質を向上させた。夜間採集の方法を学ぶほか、びわ博フェスに参加した。博物館の生活実験工房行事のサポートも複数回行った。なお、本年度の活動は公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けた。採取した昆虫について、グループ内で同定しきれなかった不明昆虫の同定を助成金により専門家に依頼することができた。特に専門家の少ないカワゲラ目やカゲロウ目においては、その成果は高く、33種を新たに確認していただき、滋賀県での初記録とする事ができた。

「虫架け」の主な活動

活動日	内容	場所	参加者
4/20	湖北における昆虫観察・採集	長浜市	8名
6/1	昼間及び夜間採集	大津市	10名
6/29	道具の確認、点検	琵琶湖博物館	9名
7/6	昼間及び夜間採集	長浜市	12名
7/14	生活実験工房行事「昆虫採集」のサポート	琵琶湖博物館	12名
8/10	昼間及び夜間採集	高島市	9名
9/7	湖岸の昆虫観察	近江八幡市	9名
10/6	びわ博フェスのポスター作り	琵琶湖博物館	6名
10/20	びわ博フェス	琵琶湖博物館	8名
11/24	工房行事「秋の虫探し」への参加及びサポート	琵琶湖博物館	8名
12/15	越冬中の虫観察、同定	琵琶湖博物館	8名
1/11	ミドリシジミ類の越冬卵探索と越冬中の虫探し	マキノ町	8名
2/9	3月の活動について打ち合わせ	琵琶湖博物館	5名

○森人（もりひと）

代表者：福岡敏雄 担当学芸員：林 竜馬 会員数：14名

[設立の趣旨] 2015年度に「はしかフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人（もりひと）として「はしかけ」に登録し2016年度から活動を開始した。

[活動の概要] 「太古の森、縄文・弥生の森の保全と観察をもとに森人同志および来館者との交流を図る。」を目的としほぼ月2回の活動を行っている。2019年度は初めての試みとして8月におとなのディスカバリーを利用した交流活動を行った。

「森人」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
4/13 土	動物観察用自動カメラ設置と樹木調査	生活実験工房、屋外展示の森	4名
4/27 土	外部観察会（春日山原生林）	奈良市 春日山原生林	4名
5/11 土	MieMu 見学会（植物観察の会に参加）	三重県立博物館（津市）	6名
5/25 土	動物カメラのメンテと森の観察など	生活実験工房、屋外展示の森	6名
5/26 日	(AM) 担当者会議・(PM) はしかけ登録講座での森人の説明	セミナー室	2名

活動日		内 容	場 所	参加者	
6	8	土	樹冠トレイルの森ガイド	生活実験工房、屋外展示の森	8名
7	13	土	外部観察会（伊吹山）	伊吹山9合目～山頂	3名
8	10	土	今後の活動計画の検討	生活実験工房	5名
8	24	土	おとなのディスカバリーを利用した交流活動	おとなのディスカバリー	6名
9	14	土	わくわく探検隊 葉っぱの形に注目しよう！に参加	実習室2、屋外展示の森	3名
10	20	土	「びわ博フェス2019」に参加（森のガイドツアーなど）	アトリウム、屋外展示の森	6名
11	9	土	屋外の森の観察と保全計画の立案	生活実験工房、屋外展示の森	6名
11	23	土	外部観察会（京都府立植物園）	京都府立植物園	5名
12	14	土	動物カメラの設置	研究交流室、屋外展示の森	6名
1	11	土	動物カメラのメンテナンス、屋外の森の保全活動など	生活実験工房、屋外展示の森	7名
1	25	土	動物カメラのメンテナンス、屋外の森の保全活動など	生活実験工房、屋外展示の森	4名
2	8	土	動物カメラのメンテナンスとヨシの調査	生活実験工房、西の湖	5名
2	22	土	動物カメラのメンテナンスと屋外の森の散策	生活実験工房、屋外展示の森	5名

悪天候（6、7、9、10月の4回）及びコロナ禍（3月の2回）のため計6回の活動を中止した。

○琵琶湖梁山泊

代表者：坂本大介 担当学芸員：中井克樹 会員数：22名

[設立の趣旨] 地域の自然や文化を研究する中高生を中心として、2018年に設立された新しいグループである。切磋琢磨する若者を博物館の学芸員や大人メンバーがサポートする。研究の相談や勉強会を通じて、興味関心が近い仲間や、認め合い競い合う仲間が見つかるようにと願いを込めて設立した。

[活動の概要] 研究の相談や勉強会をはじめ、定期的に研究発表会を開催して、研究のレベルアップと学校の枠を越えた相互交流を進めていく。今年度は会員それぞれの学校における活動での受賞が相次いだ。ただし会全体での活動は停滞気味で、研究成果を発表しあう「研鑽会」を3月29日に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止になった。

「琵琶湖梁山泊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4	16	珪藻の顕微鏡写真撮影と同定	琵琶湖博物館交流室・研究交流室 担当：坂本・大塚 参加者：6名
5	26	川井彩音会員が日本地球惑星科学連合2019年大会で研究発表	幕張メッセ（千葉県千葉市） 発表者：川井彩音
7	27 ～ 29	米原高校地学部が第43回全国高等学校総合文化祭でのポスター（パネル）発表で文化庁長官賞を受賞	佐賀大学本庄キャンパス（佐賀県佐賀市） 発表者：米原高校地学部（島津・古川他）
8	3	たんさいぼうの会主催「はじめてのたんさいぼう上級編 生きた珪藻の定量法」に参加	琵琶湖博物館実習室1 参加者：中野和真
8	7	珪藻の顕微鏡写真撮影	琵琶湖博物館交流室 担当：坂本・大塚 参加者：9名
8	18	珪藻の顕微鏡写真撮影	琵琶湖博物館交流室 担当：坂本・大塚 参加者：5名

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
9	8	珪藻の顕微鏡写真撮影・同定	琵琶湖博物館研究交流室 担当：坂本・大塚 参加者：3名
9	28	中野和真会員が日本陸水学会第84回大会の高校生ポスター部門で優秀賞を受賞	金沢大学（石川県金沢市） 発表者：中野和真
10	9	珪藻の同定・まとめの相談	琵琶湖博物館交流室 担当：坂本・大塚 参加者：4名
10	27	米原高校地学部が第63回滋賀県学生科学賞県展で最優秀賞を受賞	稲枝地区公民館（彦根市） 発表者：米原高校地学部（島津・古川他）
12	1	中野和真会員が日本珪藻学会第39回研究集会で奨励賞を受賞	東京学芸大学（東京都小金井市） 発表者：中野和真
12	24	米原高校地学部が第63回日本学生科学賞で環境大臣賞を受賞	日本科学未来館（東京都江東区） 発表者：米原高校地学部（島津・古川他）
1	25	珪藻の同定	琵琶湖博物館研究交流室 担当：坂本・大塚 参加者：5名
3	11	珪藻の顕微鏡写真撮影・同定	琵琶湖博物館交流室・研究交流室 担当：大塚 参加者：4名

○サロン de 湖流

代表者：岩木真穂 担当学芸員：戸田 孝 会員数：7名

[設立の趣旨] 琵琶湖や周辺地域の自然環境の中で起こっているさまざまな物理現象（湖流・河川流・地下水流などや気象現象など）について気軽に語り合いながら、フィールドでの観測・背景原理を確かめる実験・数学や統計などの勉強会・生物現象や化学現象あるいは人文社会事象との関連の考察・物理現象を理解するための自分なりの方法の探究などへ発展を目指す。

[活動の概要] 昨年度に初年度ということで進めた「試しの活動」を踏まえて、メンバーの1人が趣味で行っているビワマス釣りと関連が期待される水温の観測を、実際に釣り用の船で湖に出て実施してみたいというアイデアが出た。そこで、このアイデアの実現を目指して観測の試行等を進めた結果、観測計画立案の考え方についての議論が進み、漁業規制など実施の障害となる問題についての整理も進んだ。そして、観測計画の前提となる仮説が整理され、この仮説を魚類自然史研究会で研究発表することを年度末の目標に設定することができた。残念ながら、新型コロナウイルス対策で研究会自体が延期となり研究発表は実現できなかったが、要旨原稿案などの形で研究成果を整理することができた。

「サロン de 湖流」のおもな活動（参加者数の括弧内は学芸員および協力研究者）

活動日	内 容	場 所	参加者数
4	21	湖上観測の実施計画について検討	琵琶湖博物館実習室1 3名 (+2名)
5	10	湖上観測の試行	安曇川沖琵琶湖上 1名
5	23	湖上観測の試行	安曇川沖琵琶湖上 2名
6	13	湖上観測の試行	安曇川沖琵琶湖上 2名
6	20	湖上観測実施上の問題点について検討	琵琶湖博物館実習室2 2名 (+1名)
7	6	今後の活動計画について検討	琵琶湖博物館実習室1 4名 (+1名)
8	4	湖上観測実施の技術的課題について検討	琵琶湖博物館実習室1 5名 (+1名)
10	5	びわ博フェス参加の準備	琵琶湖博物館実習室2 3名 (+1名)
10	19・20	びわ博フェスにポスター参加	琵琶湖博物館アトリウム
11	16	今後の活動方針について協議	琵琶湖博物館実習室1 3名 (+1名)
12	14	水没島付近の内部波などに関する議論	琵琶湖博物館実習室1 4名 (+3名)

活動日	内 容	場 所	参加者数	
1	11	今後の活動方針について協議	琵琶湖博物館会議室	4名 (+1名)
2	8	研究発表に向けた議論	琵琶湖博物館オープンラボ	3名 (+1名)
3	14	魚類自然史研究会に向けた準備 (コロナ禍により中止)	琵琶湖博物館実習室1	一名

○水と暮らし研究会

代表者：中場弘二 担当学芸員：楊 平 会員数：6名

[設立の主旨] 琵琶湖は、生活用水、農業用水としての役割のみならず、さらには景観の構成要素として重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的な降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺の山地から湖に至る間、様々なエリアにおいて、人々は湧水、山水、川水などのさまざまな地表水、地下水と密接な関係にかかわりあって暮らしてきた。そこには、そのかかわりあった風景と人とのつながり「文化」をみることができる。古くから稲作の普及で農耕生活が定着し、また農民の居住地移動が困難であった時代に土地を守り、生き抜くために、各集落で各家庭の生活用水、そして各田畑等への農業用水など、湧水含め山水、川水など、水を如何に使うかが最大の関心事であったであろう。水は生活環境、自然環境において重要な役割を果たしてきたのだ。この水に育まれてきた暮らし「文化」の継承状況を調査し先人たちの水に対する「想い」を発信し記録とし、また、他地域との交流の一助とならんことを願い、研究会を立ち上げた。

[活動の概要] 湧水(沢水、山水、川水を含め)、名水と呼ばれる地域、地点を環境省HP、県下名水HP、その他各情報誌からリストを作成し独自の湧水実態調査表をもって調査し日時、天気、水質測定値、場所由来、現地写真、湧水量、湧水の活用状況の記録を収集していくことに加え、水とのかかわりあって生きていく暮らしにも焦点を当て、その暮らしの実態を現地調査し、ヒアリングを通じて現代人の暮らしの中での先人たちの想いを生かした生活の実態を記録し発信していく。原則として月二回の定期調査を琵琶湖流域の各地で展開していく。定期調査にあたっては、事前に調査先のリストを作成し、情報収集の効率アップに努め、調査終了後には各人の担当に基づく記録作成を速やかに実施する。また、関連事項に関する講座、シンポジウム等あれば、積極的に参加する。

「水と暮らし研究会」のおもな活動

活動日	調査地域	参加者	
4	9	里山景観としての湖西マキノ周辺調査	5名
5	17	里山景観としての東守山地区周辺調査	4名
6	14	里山景観の西高島周辺調査	6名
7	12	里山景観の米原、木之本大音地区周辺調査	6名
8	29	湧水場所の大津、信楽周辺調査	5名
9	24	湧水場所の日野及び酒造会社調査	5名
10	16	新旭地場産業および周辺湧水調査	5名
11	14	能登川地域の湧水調査、多賀博物館見学	6名
11	18	伊庭地区の景観風景現地調査	6名
12	20	五個荘商人屋敷現地調査、川並地区湧水調査	5名
1	8	東近江白鳥神社新年勧請吊り現地調査	5名
1	14	大津市内神社注連縄・勧請吊り現地調査	4名
1	24	日野地区神社勧請吊り調査、湧水調査	6名
2	12	蒲生野風土記見聞、周辺神社勧請吊湧水調査	6名
3	26	東近江地区古墳公園・古刹・神社見聞 (コロナ禍により中止)	一名

○海浜植物守りたい

会長：百木義忠 担当学芸員：大槻達郎 会員数：5名

[設立の趣旨] 本来海岸に生育する海浜植物が何故か、淡水の琵琶湖に生育している。これらの植物は独自の進化をしており貴重であり、保護活動をすることにした。

[活動の概要] 主に新海浜(彦根市)における海浜植物の保護活動を行う。今年度の活動は、ハマエンドウ保護区内の雑草の除去と雑草の種類と特徴を学ぶ。

「海浜植物守りたい」のおもな活動

		内 容	場 所	参加者
4	9	①ハマエンドウ保護柵内チガヤの除草 ②タチスズシロソウ、ハマヒルガオの観察	①新海浜 ②佐波江浜 マイアミ浜	①10名 ②4名
5	7	①ハマエンドウ保護柵内チガヤの除草 保護区内の虫の採取	新海浜	6名
5	27	①琵琶湖博物館の職員18名の観察会で活動内容を説明 ②アメリカネナシカズラ、メリケンムグラ、コマツヨイグサ、メドハギ、カワラヨモギの駆除 ③新海浜の植物の種類確認	新海浜	7名
6	4	①ハマエンドウ保護柵内とその周辺のコマツヨイグサ及びムシトリナデシコの除去 ②滋賀植物同好会 森小夜子さんと新海浜の植物の観察と外来種の雑草除去	新海浜	8名
6	21	①アメリカネナシカズラの駆除。 ②メリケンムグラ、コマツヨイグサ、チガヤ、ムシトリナデシコ、メドハギ等の除去	新海浜	5名
7	2	①アメリカネナシカズラの駆除。 ②メリケンムグラ、コマツヨイグサ、チガヤ、ムシトリナデシコ、メドハギ等の除去	新海浜	7名
8	6	①新海浜の観察(オオマルバノホロシの探索) ②アメリカネナシカズラ、コマツヨイグサ、メドハギ、メリケンムグラ等の除去	新海浜	4名
9	3	①コマツヨイグサ、メドハギ、メリケンムグラ、チガヤ、オオフトバムラム等の除去	新海浜	7名
9	27	①枯れた松(3本)の伐採と、セイタカアワダチソウ、チガヤ、メヒシバの駆除。	新海浜	5名
10	1	①ハマエンドウ保護柵内のチガヤ、メヒシバ、センダンの幼木の等の駆除。浜の枯れた松の伐採(2本) ②メドハギ、ムシトリナデシコ、アメリカセンダングサ、オオフトバムグラ、ツルヨシ等の駆除 ③ナガエツルノゲトウの除去	新海浜	6名
12	3	①ハマエンドウ保護柵内チガヤの除草	新海浜	4名
2	21	①松の苗6本をハマエンドウ保護柵内に植樹	新海浜	6名
3	3	①ハマエンドウ保護柵拡張 ②ハマエンドウ保護柵内のハマゴウ抜き取り	新海浜	6名

地域交流活動への支援

地域や企業、大学などからの講義や観察会の講師依頼などを、地域連携事業として受けている。依頼者のニーズに応える形で講義・観察会等のテーマを絞り込み、当該分野の学芸員を講師にあてることで、学芸員の専門性を活かし、依頼者の今後の活動に資することを目指している。琵琶湖博物館では地域連携事業を、地域の人たちとの共同活動の足掛かりとして捉えている。

2019年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で3月の地域連携事業が全て中止されたにもかかわらず、館内では60件・参加者2,218名、館外では72件・参加者4,757名の活動実績となり、件数、参加者ともに前年度を上回った。

(1) 博物館内での支援事業

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
4月19日	就実大学人文科学部総合歴史学科	(訪問対応)	橋本道範	92
4月27日	日伸工業株式会社	SDGsの意義について	芳賀裕樹	54
5月11日	千里文化財団	収蔵庫見学	渡部圭一	19
5月18日	京都造形芸術大学歴史遺産学科	琵琶湖博物館の基本理念／博物館における資料保存について／博物館を核とした一般市民との活動および調査方法	渡部圭一	5
5月19日	京都造形芸術大学歴史遺産学科	琵琶湖博物館の基本理念／博物館における資料保存について／資料のクリーニング・防錆処理実習	渡部圭一	18
5月26日	京都文教大学総合社会学部	琵琶湖博物館の基本理念／博物館における資料保存について／博物館を核とした一般市民との活動および調査方法	渡部圭一	16
6月6日	滋賀県琵琶湖環境部	滋賀県・琵琶湖における侵略的外来水生植物対策：積極的駆除から持続的管理へ(令和元年度琵琶湖環境部新任職員研修)	中井克樹	28
6月21日	かが市民環境会議	カワウの生態及び環境保全に係る展示の紹介	亀田佳代子	10
6月22日	桃山学院大学	琵琶湖博物館の紹介と収蔵庫見学	中井克樹	3
6月23日	京都女子大学	琵琶湖博物館の紹介	中井克樹	9
7月4日	近江歴史回廊倶楽部	琵琶湖の始まり	里口保文	17
7月6日	成安造形大学	フィールドレポーターおよびはしかけ制度について	松岡由子	27
7月17日	小牧市(小牧市自然環境観察人)	外来種問題の考え方と滋賀県・琵琶湖の事例	中井克樹	11
7月21日	こだわり滋賀ネットワーク	田んぼとびわ湖はつながっている	松田征也	10
7月29日	守山市立守山中学校科学部	琵琶湖の水草を利用して国産小麦や野菜を育てる研究活動経過発表会	芦谷美奈子 中井克樹	20
7月31日	佛教大学	民俗分野の博物館活動／民俗収蔵庫見学	渡部圭一	38
8月3日	近畿植物同好会	琵琶湖博物館の植物標本コレクションと研究	芦谷美奈子	30
8月3日	京都府立南陽高等学校	琵琶湖博物館実習	桑原雅之 鈴木隆仁	13
8月6日	北方領土返還要求運動滋賀県民会議	海を忘れたサケについて	桑原雅之	8

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
8月7日	京都府立南陽高等学校	琵琶湖博物館実習	鈴木隆仁	13
8月7日	愛知県立明和高校	サイエンスツアー「京大研修」(水質に関する講義)	芳賀裕樹	38
8月7日	神戸大学大野ゼミ	琵琶湖博物館における資料管理および展示方法	中村久美子	6
8月7日	びわ湖放送株式会社	海と日本プロジェクト in 滋賀県 ～鯖そうめん拡め隊～	大塚泰介	37
8月23日	コープしが	夏休み宿題応援企画「びわ湖の水といきものたち」学習	中井克樹	40
8月24日	旭化成株式会社守山製作所	ハリヨの保全活動/トンボ観察	松田征也 金尾滋史	30
9月1日	東京農業大学食糧環境経済学科環境経済研究室	琵琶湖の生物多様性と外来生物保護	中井克樹	26
9月19日	愛荘町さわやかまちづくり推進協議会	琵琶湖の水環境	金尾滋史	15
9月25日	京とおうみ自然文化クラブ	森の歴史の話ならびに関連する展示について	林竜馬	25
9月26日	三重県私学理科研修会	地域の博物館をめざして歩む琵琶湖博物館	高橋啓一	24
9月27日	龍谷大学農学部	滋賀県の農業・農政	下松孝秀	220
10月4日	龍谷大学農学部	滋賀県の農業・農政	下松孝秀	220
10月5日	シニア自然大学マイスター	琵琶湖の珪藻について	大塚泰介	40
10月9日	大阪 ECO 動物海洋専門学校	博物館職員の仕事	中村久美子	168
10月18日	吹田市人権啓発推進協議会	琵琶湖における環境の現状や課題について	芳賀裕樹	35
10月23日	草津市子育て相談センター	里山活動における親子活動の大切さ	山本綾美	30
10月25日	滋賀県立草津東高等学校	琵琶湖の環境保全とヨシとの関わりについて	中村久美子	4
10月26日	高島市市民劇上映実行委員会	琵琶湖の環境とせっけん運動	大塚泰介	15
10月27日	大東市立野崎青少年教育センター	ヨシ帯の生きもの	中村久美子	45
11月4日	堺市地学教育研究会	琵琶湖を含めた近畿～東海地域の500万年の地史について	里口保文	12
11月10日	NPO 法人自然と緑	琵琶湖のプランクトン検鏡観察	鈴木隆仁	28
11月12日	吹田市人権啓発推進協議会	琵琶湖における環境の現状や課題について	芳賀裕樹	20
11月12日	滋賀県高等学校社会科教育研究会	わかってきたフナズシの歴史	橋本道範	20
11月14日	NPO 法人シニア自然大学校	琵琶湖固有種ビワマスについて	桑原雅之	45
11月14日	吹田市人権啓発推進協議会	琵琶湖における環境の現状や課題について	芳賀裕樹	20
11月17日	大阪府立豊中高等学校	プランクトン採集・同定実習	鈴木隆仁	20
12月7日	追手門学院大学社会学部	水と人のかかわりをテーマにした社会学的フィールドスタディ	楊平	130
12月12日	滋賀県立大学環境科学部	環境フィールドワーク	金尾滋史	6
12月15日	追手門学院大学社会学部	水と人のかかわりをテーマにした社会学的フィールドスタディ	楊平	130
12月15日	神戸女子大学文学部教育学科	琵琶湖における環境と環境教育	由良嘉基	28

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
12月19日	滋賀県立大学環境科学部	常設展示についての学習、博物館の企画に関するグループワーク	楊平	47
12月19日	琵琶湖遊漁船業協会	琵琶湖の水草について	芳賀裕樹	20
12月22日	倉敷芸術科学大学	琵琶湖博物館の活動紹介	榊永一宏	2
1月5日	びわこ学院大学	滋賀の環境	金尾滋史	24
1月25日	愛荘町教育委員会事務局生涯学習課	烏丸半島周辺で見られる冬の水鳥	亀田佳代子	21
1月25日	京都大学大学院地球環境学堂(受講は守山里山の会)	収蔵庫見学・資料管理に関する講義	渡部圭一	12
1月26日	環境政策課活動推進係(受講は同志社中学校)	琵琶湖の希少生物と外来生物・投網体験	松田征也	24
2月5日	成安造形大学	琵琶湖の魚と人の関わりについて	金尾滋史	100
2月8日	だいはがワタカクラブ	琵琶湖の外来種の現状とワタカの放流について	金尾滋史	10
2月8日	京都外国語大学校友会滋賀支部	林業と森林環境について	山本綾美	20
2月15日	湖西里山会	琵琶湖岸に生息する海浜植物について	大槻達郎	20

(2) 地域での支援活動

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
4月23日	湖南企業生きもの応援団	狼川における生き物調査	草津市	中井克樹	20
4月25日	(公財) 滋賀県建設技術センター	河川に侵入・生育する侵略的外来水生植物(2019年度県土木技術職員現場研修)	草津市	中井克樹	30
5月15日	滋賀県立視覚障害者センター所長・滋賀県視覚障害者福祉協会女性部部長	琵琶湖のなりたち	彦根市	里口保文	22
5月18日	琵琶湖・淀川流域圏シンポジウム実行委員会	フナズシにみる琵琶湖地域固有の文化と生態系	大阪市北区	橋本道範	90
5月25日	松本市立博物館	琵琶湖博物館のはしかけ制度について	松本市	大塚泰介	15
6月8日	佐波江地区自治会	佐波江浜のハマゴウを守ろう!	近江八幡市	大槻達郎	34
6月8日	栗東市教育委員会	ホタルは環境保全のバロメーター	栗東市	榊永一宏	37
6月8日	滋賀県自然環境保全課	特定外来生物オオキンケイギク学習会	東近江市	中井克樹	15
6月15日	守山市教育委員会	野洲川流域の地形と古琵琶湖の解説	守山市	里口保文	20
6月15日	栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会	魚のゆりかご水田 生きもの観察会	東近江市	大塚泰介	150
6月22日	せせらぎの郷(須原魚のゆりかご水田協議会)	いのちのゆりかご講座/稚魚流下調査	野洲市	金尾滋史	200
7月8日	手賀沼流域フォーラム実行委員会	琵琶湖等におけるオオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウの効果的な駆除方法と管理手法について(湖沼の外来水生植物対策に関する最新情報交換会)	我孫子市	中井克樹	40
7月13日	株式会社 SeedBank	水田の生物多様性	京都府左京区	大塚泰介	15
7月13日	京都府立南陽高等学校	琵琶湖博物館実習の事前講義	木津川市	鈴木隆仁	13

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
7月15日	勝部自治会	第11回かつべ水フェスタ 生物観察指導	守山市	金尾滋史	205
7月20日	水土里ネットまつもと	松元ダム外来魚駆除体験(かごしま環境未来館地域まると共育講座)	鹿児島市	中井克樹	40
7月23日	コミュニティ・スクール南笠東	みぢかな生きものたちを大切に(令和元年度オープンスクール in 南笠東小学校:狼川学習を楽しもう)	草津市	中井克樹	20
7月24日	近江八幡市教育委員会	わかってきたフナズシの歴史	近江八幡市	橋本道範	50
7月25日	湖南企業生きもの応援団	狼川における生き物調査	草津市	中井克樹	20
7月27日	公益社団法人日本国際民間協力会	生きもの観察会	東近江市	大塚泰介	15
7月29日	米原市教育センター	米原市教育センター小中環境部会夏季研修会	米原市	金尾滋史	8
7月29日	守山市教育委員会	弥生時代の魚・貝について/河川水路で魚つかみと観察	守山市	松田征也	20
8月6日	快適環境づくりをすすめる会	川の生きもの観察会	彦根市	金尾滋史	30
8月17日	賀茂別雷神社	賀茂社と琵琶湖	京都市北区	橋本道範	47
8月19日	京都府自然環境保全課	鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動に向けて(鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動事前説明会)	京都市左京区	中井克樹	20
9月7日	鈴鹿山混成博物館	さかなが結ぶ神と人	大津市	渡部圭一	150
9月13日	琵琶湖Σ研究センター	ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほとり	草津市	高橋啓一	70
9月14日	三方五湖自然再生協議会	湖と田んぼのつながり	三方上中郡若狭町	大塚泰介	15
10月5日	株式会社たねや農芸たねや菜園	ラコリーナで生息している生き物の特徴、観察のポイントなど	近江八幡市	金尾滋史	20
10月5日	上尾市みどり公園課	ブラックバス等の侵略的外来種が脅かす水辺の生態系:大池のかいぼりを考える(上尾丸山公園かいぼりボランティアリーダー「上尾水辺守」第4回研修会)	上尾市	中井克樹	40
10月8日	関西広域連合	「関西の活かしたい自然エリア」エコツアー体験学習:東播磨のため池群と低層湿原における水辺環境と生物多様性	加古郡稲美町	中井克樹	30
10月15日	湖南企業生きもの応援団	狼川における生き物調査	草津市	中井克樹	20
10月16日	滋賀県立虎姫高校	カワウが教えてくれること~鳥を通して自然と人とのかわり考える~	長浜市	亀田佳代子	669
10月18日	京都大学生態学研究センター	琵琶湖固有種の歴史と起源	大津市	田畑諒一	20
10月19日	野洲市歴史民俗博物館	なれずしの中から飛躍したふなずし	野洲市	橋本道範	120
10月19日	環境省自然環境局外来生物対策室	外来種がいる日本の水辺(外来種問題シンポジウム「みんなで考えるアカミミガメのこれから」)	東京都千代田区	中井克樹	100
10月23日	近江八幡市教育委員会	琵琶湖のおいたち	近江八幡市	里口保文	50

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
10月24日	滋賀県科学教育振興委員会	滋賀県学生科学賞県展・審査会	彦根市	金尾滋史	9
10月26日	野洲市歴史民俗博物館	江戸時代の絵画から琵琶湖の魚を読みとくー湖魚奇観から湖中産物図証の魚たちー	野洲市	金尾滋史	120
10月27日	(独法)水資源機構琵琶湖開発総合管理所	お魚里帰り大作戦2019	草津市	中井克樹	30
10月26日	大津市立和邇図書館サークル連絡協議会	足元に記録された環境変化ー地層から考える過去から未来への環境ー	大津市	里口保文	70
10月30日	東近江市永源寺中学校区教育研究協議会	草むらの不思議が語る世界～次世代を担う子どもたちの心をはぐくむ～	東近江市	中村久美子	25
11月2日	西大路地区人権啓発推進協議会	ふるさと滋賀・日野の成り立ちを知る	蒲生郡日野町	里口保文	50
11月2日	幕別町・幕別町教育委員会	忠類に生き、忠類によみがえったナウマンゾウ、忠類ナウマン象化石骨発見50周年記念事業	幕別市	高橋啓一	120
11月10日	立命館大学理工学研究科環境都市工学科	湖上実習で沈水植物について解説	琵琶湖上	芳賀裕樹	88
11月10日	彦根辻番所の会	大橋コレクションと琵琶湖博物館における映像資料の収集・整理・保存・活用・活動の紹介	彦根市	金尾滋史	30
11月11日	イオンリテール(株)	滋賀県内6同友店合同クリーン活動(外来水生植物駆除活動)	大津市	中井克樹	100
11月15日	かふか生涯学習館	甲賀の民俗と祭り	甲賀市	渡部圭一	60
11月16日	滋賀県立大学地域共生センター	キャンパスSDGsびわ湖大会ワークショップでのファシリテーター	彦根市	金尾滋史	200
11月15日	千葉県農林水産部	琵琶湖におけるオオバナミズキンバイ管理の取組み(農研機構農業環境技術公開セミナー in 千葉)	千葉市	中井克樹	80
11月19日	高島農業農村振興事務所	淡海湖における外来魚駆除活動	高島市	中井克樹	20
11月21日	びわこ地球市民の森	特定外来生物オオバナミズキンバイ: やっかいな特徴と取り扱いの注意(森づくりサポーターオオバナミズキンバイ除去作業)	守山市	中井克樹	30
11月23日	野洲市歴史民俗博物館	DNAからみた琵琶湖の魚たちの歴史ー湖魚奇観の魚を中心にー	野洲市	田畑諒一	120
12月1日	大阪府立大学里環境の会OPU	第13回さとかん環境職業説明会	堺市	中村久美子	20
12月3日	東串良町農林水産係	厄介な水田雑草・オオバナミズキンバイ(オオバナミズキンバイ対策意見交換会)	肝属郡東串良町	中井克樹	15
12月4日	シニア自然大学校	水生植物を保全するための課題とは?ー琵琶湖と周辺の事例を中心にー	大阪市中央区	芦谷美奈子	30
12月6日	甲賀市視覚障害者福祉協会	琵琶湖のなりたち	甲賀市	里口保文	70
12月15日	滋賀県自然環境保全課	自然観察会～初冬の湖岸散策～外来水生植物の駆除の体験と見学	高島市	中井克樹	15

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
12月18日	滋賀グリーン活動ネットワーク	滋賀県・琵琶湖を守る取り組み：生物多様性保全の観点から（滋賀グリーンネットワークSDGs連続講座第5回「生物多様性と環境」）	大津市	中井克樹	50
12月22日	河北潟湖沼研究所	水田の生物群集の複雑さ	金沢市	大塚泰介	40
12月22日	本願清水イトヨの里	淡水魚の保全における市民活動の役割と博物館の機能	大野市	金尾滋史	60
1月10日	美しい手賀沼を愛する市民の会	手賀沼外来水生植物繁茂状況調査及び勉強会・意見交換会	我孫子市	中井克樹	20
1月17日	滋賀県レイカディア大学	琵琶湖のおいたちとそこにいた動物たち	草津市	高橋啓一	300
1月20日	甲南大学	博学プロジェクト第4回公開シンポジウム	神戸市	金尾滋史	80
1月22日	湖南企業生きもの応援団	狼川における生き物調査	草津市	中井克樹	20
1月24日	滋賀県土地改良事業団連合会湖北支部	琵琶湖水の農業用水利用（逆水利用）の成り立ちについて	長浜市	下松孝秀	30
1月28日	千葉県農林水産部	滋賀県・琵琶湖における侵略的外来植物オオバナミズキンバイ等への対策の経緯と課題（印旛沼水質協議会・手賀沼水環境協議会共催勉強会）	松戸市	中井克樹	60
2月3日	坂井市農地水広域協定	田んぼの生きものをシンボルとした豊かな環境づくり	坂井市	金尾滋史	100
2月8日	全国ブラックバス防除市民ネットワーク	外来生物法のこれまでとこれから～法制定の理念、修正の経緯、現在の課題（シンポジウム「絶滅危惧種と外来魚問題」）	東京都墨田区	中井克樹	80
2月20日	滋賀県レイカディア大学	琵琶湖のおいたちとそこにいた動物たち	米原市	高橋啓一	80
2月27日	滋賀県都市公園課・自然環境保全課・びわこ地球市民の森・国際ボランティア学生協会	特定外来生物オオバナミズキンバイ：厄介な特徴と取り扱いの注意～2度目の駆除によせて（森づくりサポーター、国際ボランティア学生協会オオバナミズキンバイ除去作業）	守山市	中井克樹	25

(3) 質問対応

博物館利用者からの質問や疑問、要望や相談は、直接受け付ける「質問コーナー」と、いつでもどこからでも受け付ける通信網（電子メール等）を利用した「Query」で対応している。

1) 質問コーナー

質問コーナーでは、博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けしているほか、電話による質問や相談に応じている。専門的な内容を含む質問等は担当学芸職員がその場での対応、もしくはそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べたりして後日回答したりする場合もある。また、当日担当の学芸職員が、展示室で「フロアトーク」を行うなど、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっている。

2019年度は、質問コーナーでの対応状況は以下の通りであった。

- ・実施期間：4月1日～2月27日
- ・総質問数：854件（770名）のうち来訪による質問：723件、その他の形態による質問：131件

2) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館との情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付ける専用の電子メールアドレス（query@biwahaku.jp）を設定し、受付担当者が受信した電子メールの内容に応じて専門の学芸職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2019年度は総数119件あった。

専門的な内容を含む質問 生物（魚貝類14・その他水域2・陸域の昆虫10・その他陸域4・植物16） 地学3 歴史・民俗5 環境3 その他6	63件
施設利用や行事の問合せ・案内資料請求	15件
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ	9件
広報掲載・取材依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	8件
館の運営への提案・意見・問合せ・その他（他機関のお知らせ等）	9件
上記質問に対する再質問及びその他	15件

(4) びわ博フェス 2019

「はしかけ」、「フィールドレポーター」が集まる交流会を中心として、普段のはしかけ活動等を一般の来館者に広く周知するとともに、琵琶湖博物館の活動と一緒に参加したい人々を増やす機会にすることを目的に実施した。はしかけ活動の一環として、具体的な内容としては、「はしかけ」、「フィールドレポーター」によるポスター展示を27件、ワークショップなどの活動紹介を行った。

- ・開催日 10月19日（土）・20日（日）
- ・主な内容：○体験コーナー
はしかけ・フィールドレポーターワークショップ（19日7件、20日7件）
○ポスター展示（27件）

■「びわ博フェス2019」のポスター展示・ワークショップのようす



琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習活動の推進に努めた。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 285件 教材貸出件数 62件 (23名)
 (昨年度実績 相談件数 192件 教材貸出件数 131件)

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

教えてくれる人登録者 152 学習プログラム 223 学べる場所 62

3) 環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 22回 登録者数 1,072人

4) ブース出展

7月20日・21日	第12回 水辺の匠（ウォーターステーション琵琶・アクア琵琶）
7月19日	草津市エコフォーラム（草津市立クリーンセンター）
7月29日	近江八幡市学校支援メニューフェア（近江八幡市立桐原小学校）
7月31日	しが学校支援メニューフェア（コラボ滋賀）
10月19日・20日	びわ博フェス2019（滋賀県立琵琶湖博物館）
2020年2月2日	草津市こども環境会議（草津市立クリーンセンター）
2月13日	琵琶湖サポーターズ・ネットワーク第1回交流フォーラム（滋賀県危機管理センター プレスセンター）

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

5月26日（日）	大学生の環境学習リーダー養成講習会（立命館大学 haconiwa 参加者数13名）
8月10日（土）	びわ湖の魚と漁法について （参加者数：子ども15名／立命館大学 haconiwa 学生 5名）
1月15日（水）	市町環境学習担当者会議（参加者数：19名）

2) 環境学習活動者交流会

2月27日（木）	企業の敷地内で実施できる環境学習プログラムの開発 会場：積水樹脂・竜王工場 （コロナ禍により開催を延期）
3月10日（火）	第3回びわはく学生ミーティング 会場：琵琶湖博物館 （コロナ禍により開催を中止）

3) こどもエコクラブ事業

・淡海こどもエコクラブ活動交流会

登録数：82クラブ、メンバー5,541人、サポーター470人（2020年3月末現在）

淡海こどもエコクラブ活動交流会の開催にあたっては平和堂財団の助成を受けた。

期日：12月8日（日）

場所：琵琶湖博物館ホール

参加者：こども66人、大人44人

発表者：口頭発表6チーム、壁新聞発表12チーム、絵日記掲示点数23点

内容：こどもエコクラブ登録クラブによる成果の口頭発表会および活動している子供や指導者、サポーターの交流会。なお、今年度から壁新聞だけの発表と絵日記部門をはじめ、アトリウムに展示することとした。また、休憩時間中には、ヨシネットワーク鳥飼和夫さんのヨシのお話しと、ヨシ笛コンサートを開催した。

・壁新聞、絵日記の展示

期間：12月8日（日）～2020年1月5日（日）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：こどもエコクラブに登録するクラブの活動成果ポスター展示

- ・こどもエコクラブ全国フェスティバル2020（コロナ禍により開催中止）

2020年3月21日（土） 於：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

- ・こどもエコクラブ全国フェスティバル2020 滋賀県のクラブが受賞しました。

壁新聞幼児部門 ミールケア・エコまる賞 草津市立常磐幼稚園

絵日記部門 優秀賞 速野小学校2年生 1名

4) その他

- ・12月19日（木） 令和元年度「おおさか環境賞」（大賞：ダイハツ工業（株））を受賞しました。その協働団体として琵琶湖博物館は協働賞を受賞。

- ・1月19日（日）～2月16日（日） 企業連携による生物保全活動の成果発表展示

琵琶湖博物館ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」ー生物多様性びわ湖ネットワークー 展示活動支援（琵琶湖博物館企画展示室）

情報発信活動

(1) 地域発見！参加型移動博物館

「地域発見！参加型移動博物館」事業は、2011年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。また、「サテライトミュージアム」事業は、2016年7月に第1期リニューアルオープンしたその広報的要素も加えて展示を行うことを目的としている。

今年度は、県内5件、県外3件の計8件であった。福井県大野市の本願清水イトヨの里に赴き、長期にわたって移動展示された点が特筆できる。

開催日	イベント名	会場	運営者
6月1日	日本創生のための将来世代応援知事同盟サミット in しが	びわ湖大津プリンスホテル	日本創生のための将来世代応援知事同盟
6月30日	びわ活フェスティバル2019	ビバシティ彦根（平和堂）	滋賀県（運営：エフエム滋賀）
7月15日	博物館夏祭り	Vivacity 彦根	芳賀、鈴木、橋本
8月1日～9月16日	イトヨの里企画展2019 琵琶湖博物館 移動博物館がやってくる！ 古代湖 琵琶湖の生き物 昔と今	本願清水イトヨの里 交流室、展示室	本願清水イトヨの里
9月16日	イオンモール京都桂川での琵琶湖の価値発信イベント	イオンモール京都桂川	滋賀県（運営：エフエム滋賀）
10月16日～18日	びわ湖環境ビジネスメッセ2019	長浜バイオ大学ドーム	びわ湖環境ビジネスメッセ実行委員会ほか（ブース主催：滋賀県商工政策課）
12月7日～8日	京都環境フェスティバル	京都府総合見本市会館（京都パルスプラザ）	京都環境フェスティバル実行委員会
2月2日	第19回草津市こども環境会議	草津市立クリーンセンター	琵琶湖博物館環境学習センター

(2) インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週 10 回程度である。このほか、収蔵資料の情報も公開している。

2019 年度は、2018 年 11 月に全面的なリニューアルを行ったウェブページに関して、更新と情報発信を行った。収蔵資料データベースと図書資料データベースについても、引き続き外部クラウド型サービスを通して、それぞれデータベースの公開を行っている。

ウェブページの閲覧状況については、グーグルアナリティクスを利用したアクセス解析を行った。前半 9 月まででは、5 月の連休時期と夏休み時期にピークが見られた。後半では、遠足シーズンの 10 月には比較的多くの閲覧があり、新型コロナウイルスによる臨時休館の情報を発信した 2 月末にも多くの閲覧があった。アクセス解析の結果、博物館のホームページではトップページの閲覧について、料金とアクセスページの閲覧が多く、展示とイベントページの閲覧数もそれと同程度の需要があることが示された。また、ホームページの閲覧端末としては、モバイル端末が 56% と最も多く、デスクトップパソコンによる閲覧が 39%、タブレット端末による閲覧が残り 5% となった。モバイル端末においては、iOS、Android による閲覧がほとんどだが、わずかにゲーム機のインターネット接続機能を利用したものも見られた。

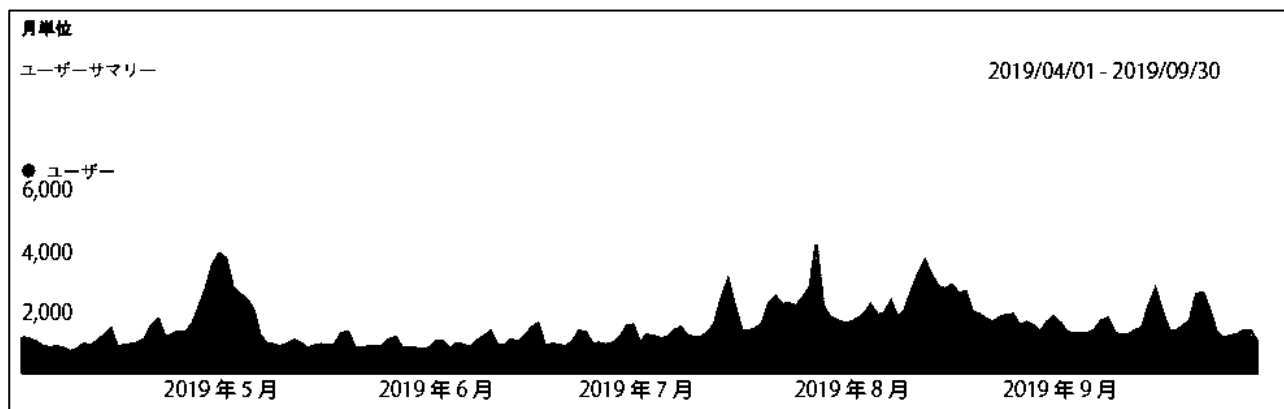


図 表示数およびサイト訪問者数 (2018 年 4 月 1 日～10 月 28 日) 注：アクセス解析には Wordpress の Jetpack プラグインを用いた。

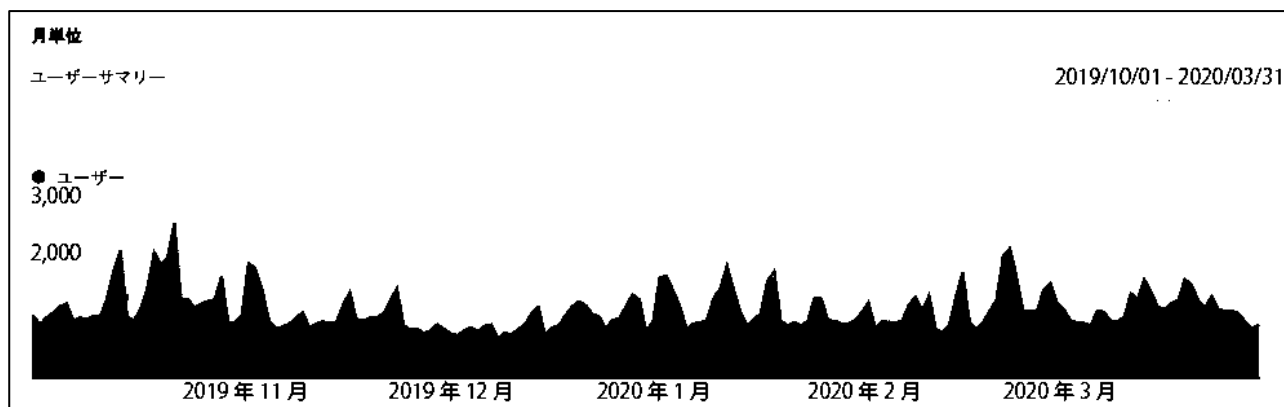


図 ページビュー数およびユーザー数 (2018 年 11 月 6 日～2019 年 3 月 31 日) 注：アクセス解析にはグーグルアナリティクスを用いた。

(3) 印刷物

1) 情報誌「びわはく」の出版

2018 年度に引き続き、2019 年度には情報誌「びわはく」第 3 号を発行した。第 2 号より号ごとのテーマを前面に押し出し、研究の最前線を紹介する特集に重点を置いた紙面づくりとした。第 3 号のテーマは企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」であった。(A4、12 頁、6,000 部)

2) その他の印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」展示解説書	A4	64	800
企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」ポスター	A1		1,000
企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」チラシ	A4		30,000
企画展示関連シンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」講演プログラム	A4	10	200
企画展示関連シンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」チラシ	A4		5,000
広報用「琵琶湖と川の魚」カレンダーポスター 2019	A1		3,000
広報用「魚チラシ」	A4		120,000
琵琶湖博物館のイベント情報 チラシ 10月～2020年3月	A4		10,000
琵琶湖博物館のイベント情報 チラシ 2020年4月～9月	A4		15,000
研究調査報告書 第32号 中世惣村の現在 ー近江国今堀郷故地の現地調査ー	A4	127	400
びわはく 3号	A4	12	6,000
さあ！びわ博へ行こう！～数えきれない発見と出会いに～ (一般団体向)	A4		6,000
さあ！びわ博へ行こう！～数えきれない発見と出会いに～ (学校向)	A4		8,000
琵琶湖博物館サイエンスセミナーちらし	A4		4,330
ナイトミュージアムチラシ	A4		26,000
アトリウムコンサートちらし	A4		20,000
学芸員が語る展示のひみつマップ(A展示室・B展示室)	A4		各 50,000
バスに乗って、琵琶湖博物館へ行こう！	A4		5,000
からすまいちばん健康ウォーキング&スタンプラリー (2019年11月～2020年1月31日)	A4		6,000
からすまウォーキングマップ(2019年11月)	A4		10,000
リニューアルサポーター企業一覧チラシ	A4		4,330
寄付チラシ	A4		40,000
納付書			6,000
学校団体用説明チラシ	A4		6,000
学習ガイド	A4	4	2,000
こどもパスポート	85*106mm		6,000

(4) コンテンツのWeb発信

2019年度は新型コロナウイルス感染拡大対策による臨時休館を受けて、滋賀県の「コロナに負けないぞ！！子ども応援プロジェクト」の一環として、博物館コンテンツのWeb発信を行った。本発信は主に北海道博物館提唱の「おうちミュージアム」に参加し行ったが、先行して「ディスカバリールームの観察シート」、およびWebアミンチュの「びわ博の中の人」の公開を行った。

琵琶湖博物館におけるおうちミュージアムでは、家ででき、楽しく学べることをテーマに、過去のイベントで使用されたシートをweb用に改装したものや、展示交流員によって行われた交流員と話をベースにしたシートや動画の配信を行った。博物館所蔵のコンテンツだけでなく、はしかけや展示交流員、関連グループよりコンテンツを提供してもらうことで、専門性を持ちながら、より来館者に近い立場の展示を制作することができた。

本ページは臨時休館解除後もWebコンテンツ用のページとして名前を変えて残す予定である。

Ⅱ 新琵琶湖博物館の創造

新琵琶湖博物館の創造

琵琶湖博物館は、これまでの博物館像にとらわれない「湖と人間」をテーマにした新たな博物館として1996年に開館した。その後、『地域だれでも・どこでも博物館』を目標とする中長期基本計画を立案し、段階的に取り組んでいたところである。

開館以来20年が経過し、調査・研究および資料収集が進んでいたことから、これらの成果に基づき、「湖と人間」のかかわりを過去から現在にわたってとらえ直し、「これからの共存関係」をより多くの来館者と共に、考えていく新たな展開が、琵琶湖博物館に求められていた。

そのため、2012年度に新たな博物館像の提示・展開のあり方等について検討を行い、展示・交流空間の再構築の方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめ、2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定し、2015年から2020年までを3期に分けてリニューアルを行うこととした。

第1期は、2014年度に体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるようC展示室と水族展示の実施設計を行い、2015年度に展示および建設工事に着手し、2016年7月にリニューアルオープンを行った。

第2期は、2016年度に参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点となるため交流空間の実施設計を行い、2017年度に展示および建設工事に着手し、2018年3月にミュージアムショップ、わくわく体験スペース（企画展示室）、4月にミュージアムレストラン、地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン（別館）、7月にディスカバリールーム、おとなのディスカバリー、11月に樹冠トレイルのリニューアルオープンを行った。

第3期は、2018年度に「湖と人間」の未来を考えることができる展示となるようA展示室とB展示室の実施設計を行い、2019年度に展示工事に着手した。

(1) 滋賀県議会への報告等

滋賀県議会に、第3期リニューアルの内容の説明を行った。

①環境・農水常任委員会 6月26日

②環境・農水常任委員会 3月11日

(2) 第3期リニューアルにかかる業務委託の契約締結

・第3期展示制作および設置等業務委託

契約日：2019年7月2日 契約業者：(株)乃村工藝社

(3) 来館者による展示評価の実施

来館者の意見を集約し、第3期の展示制作に反映する調査を実施した。

① 2月22日～2月27日（来館者のアンケート調査）

【A展示室・B展示室】

- ・何回目の来館か。
- ・誰と来館したか。
- ・展示室で面白かったもの、興味をもった展示は何か。
- ・「ゾウの半身と骨格の模型」をみて新しくわかったことは何か。
- ・「琵琶湖のパノラマ写真」をみて表記してほしい地名や山の名前はあるか。

- ・「シジミ汁の匂い」をかいでどう思ったか。
- ・「マツタケのすき焼きの匂い」をかいでどう思ったか。
- ・「縄文人になってみよう」の展示は体験したか。
- ・年齢、居住地は。
- ・リニューアル全般についてご意見があれば。

(4) ユニバーサルデザイン評価の実施

ユニバーサルデザインの観点からの意見を第3期の展示制作等に反映させるための会議を開催した。

① 12月2日（田淵千恵子氏、美濃部裕道氏、渡邊孝宏氏、古閑正孝氏、古閑美恵子氏、山野勝美氏、今井 寛氏、森川裕美氏、森川孝子氏）

- ・第3期リニューアルについて
- ・展示サンプルの確認について
- ・トイレ改修について
- ・その他

Ⅲ 環境の整備

1 拠点としての施設整備

(1) 利用者用施設の整備

第3期リニューアルオープンに向けて、正面玄関や天井の明かり採り窓からの雨漏りを修理した。新しくなる博物館に来館者を気持ち良くお迎えできるよう発券システムを導入し、トイレの改修・修理を行った。さらに、水族棟の屋根外壁、屋上広場の排水設備、園路橋、防災設備（誘導灯、信号装置、排煙窓等）の改修・修理を行い、来館者の一層の安全確保に努めている。

(2) 情報システムの整備

1) 端末機器の更新

2019年度は、2017年度より利用を進めている滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの継続的な利用を進め、安全性の高い情報システム運用を行った。

2) セキュリティ等

情報システムについては、滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの中で、常時監視を行っている。端末のセキュリティについてはウィルス等対策ソフトウェアを全機にインストールしている。このウィルス対策ソフトウェアに関して、旧バージョンのサーバが廃止となったため、旧バージョンをインストールしていたパソコンに関しては、全てバージョンアップを行った。

(3) 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の展示の企画や広報活動など博物館活動や運営を考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケートを年数回実施している。

本年度のアンケートは、昨年度と同様、1回目は夏休み期間の金曜日から日曜日までの3日間に実施した。2回目は通常3月に実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年2月27日から博物館が休館となったため、アンケート調査ができなかった。そのため、今年度は、1回のみ調査となった。

アンケート用紙は、観覧券売り場に毎日1,000枚を準備し発券時に手渡して配布するとともに、アトリウム出口にも回収箱の脇に設置した。調査の内容は、来館回数、情報源、来館目的、交通手段、滞在時間、利用場所のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式12項目、記述式1項目の全13項目からなる。設問のうち、来館回数、きっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査での共通項目となっている。加えて、2018年7月にリニューアルした展示に対する満足度についても調査を実施した。今回の調査の回答率は、1.3%（日別では0.9～1.9%、回答総数125枚）であった。

1) 実績

第1回 8月9日（金）～11日（日）

2) 結果

来館回数：今年も昨年も「はじめて」の頻度が最も多く、次に「4回目以上」が多く、「2回目」、「3回目」の選択肢の頻度が低い傾向は同様であった。しかし、「はじめて」の比率が48.8%と半数近くに達し、昨年度の37.9%より大きく増えた。

情報源：「家族・親戚」、「友人・知人」という口コミ情報が1位、2位を占め、ともに昨年度よりも高い値を示し、この2つの選択肢だけで37.7%と全体の1/3を上回った。

同行者：昨年度と同様、「家族と」が抜きん出て多かった。

交通手段：「自家用車」が80%超、「公共交通機関」が15%弱と、昨年度と同様の傾向を示した。

来館目的：昨年度と同様、「常設展示観覧」の値が最も高く今年度は50%を超えた。一方、「リニューアル展示観覧」は昨年度は7月に「おとなのディスカバリー」と「ディスカバリールーム」がお披露目になった直後だったこともあり28%と高い値を示したが、今年度は、リニューアルオープンした展示はなく、この選択肢の値の落ち込みが目立った。

滞在時間：「1～2時間」と「2～3時間」がともに30%と高く、昨年度と似た傾向を示したが、「4時間以上」が13.6%と昨年度の約3倍の値を示し、来館者の滞在時間がより長くなったものと推測される。

満足度：昨年度とほとんど同じ傾向で、「非常に満足した」と「満足した」という肯定的な選択肢が他の選択肢と比較して抜きん出て多かった。

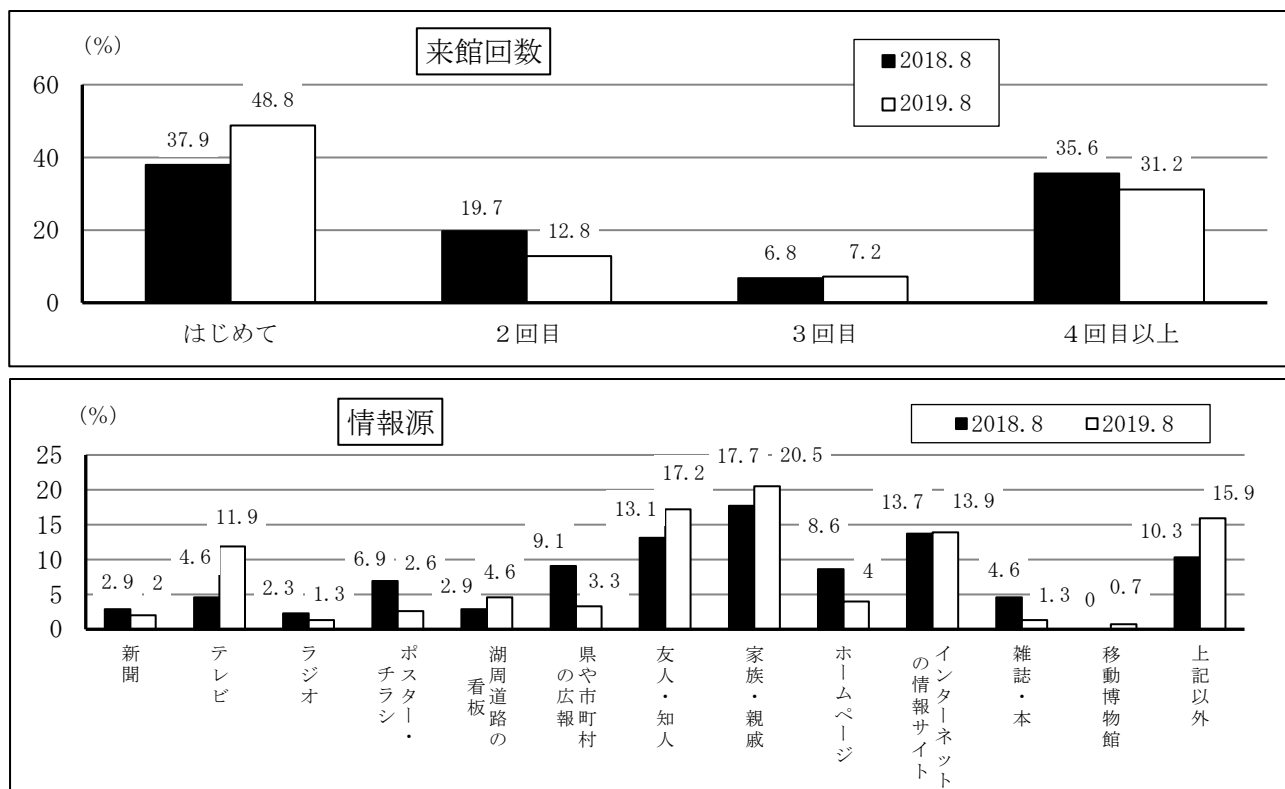
不満に思うこと：昨年度、高い方から1～3位の値を示した「レストラン」、「トイレ・階段・エスカレーター等」、「休憩場所」は、今年度はどれも値をおよそ半分に低下させた。レストランがリニューアルされたことが、不満の低下につながった可能性がある。今年度、最も高かった「交通の便」と2番目に高かった「駐車場」が、昨年度からともに値がほぼ倍増した。

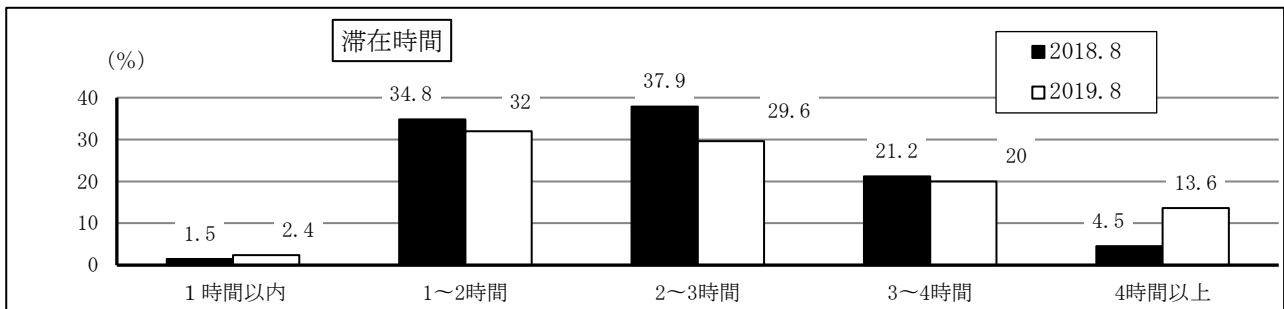
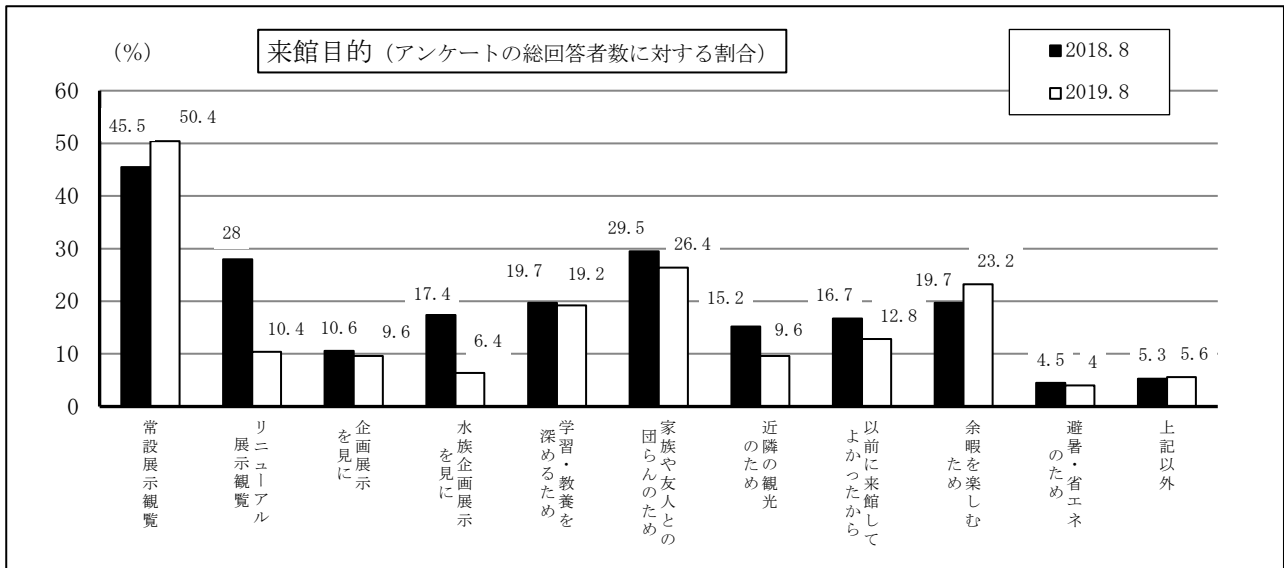
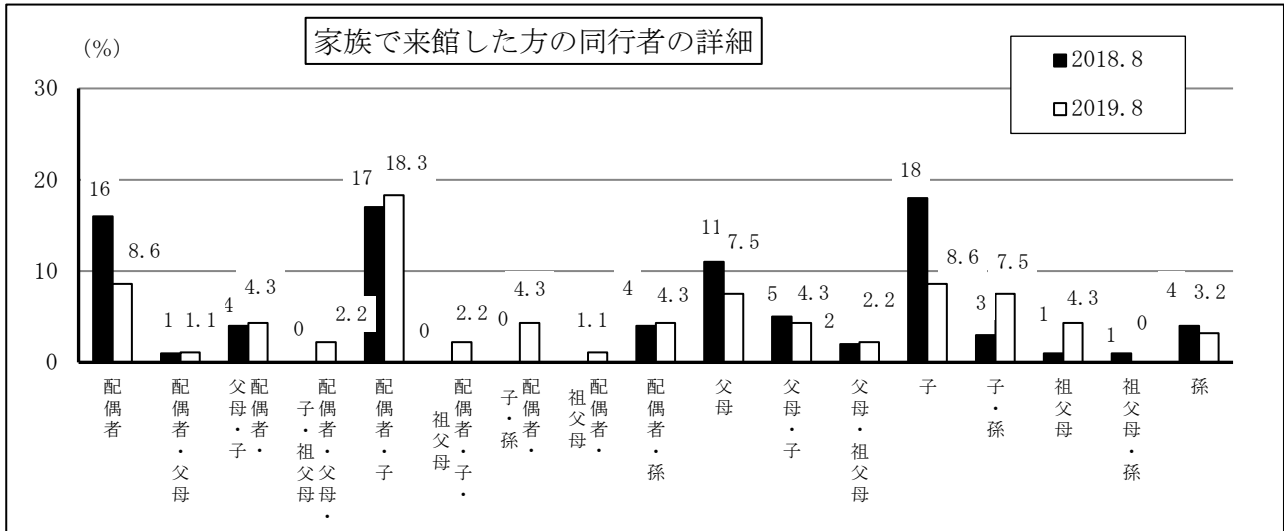
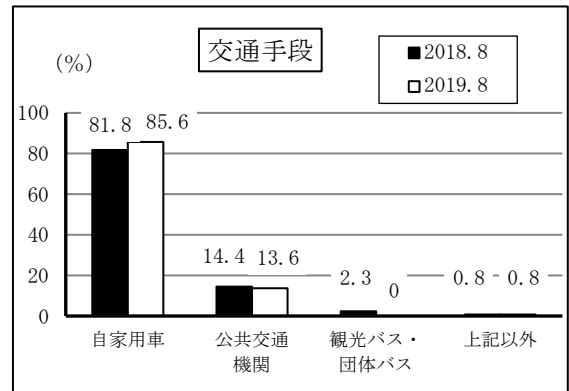
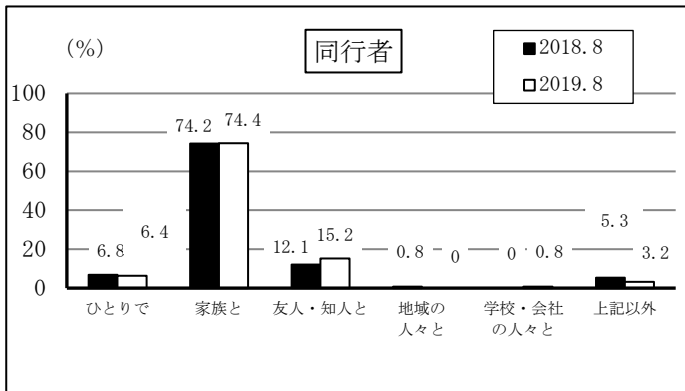
訪問予定：隣接した「道の駅」と「水生植物公園みずの森」、湖周道路で南北に隔たったショッピングモールの「イオンモール草津」と「ピエリ守山」の4つが上位を占める傾向は、昨年度と同様であった。

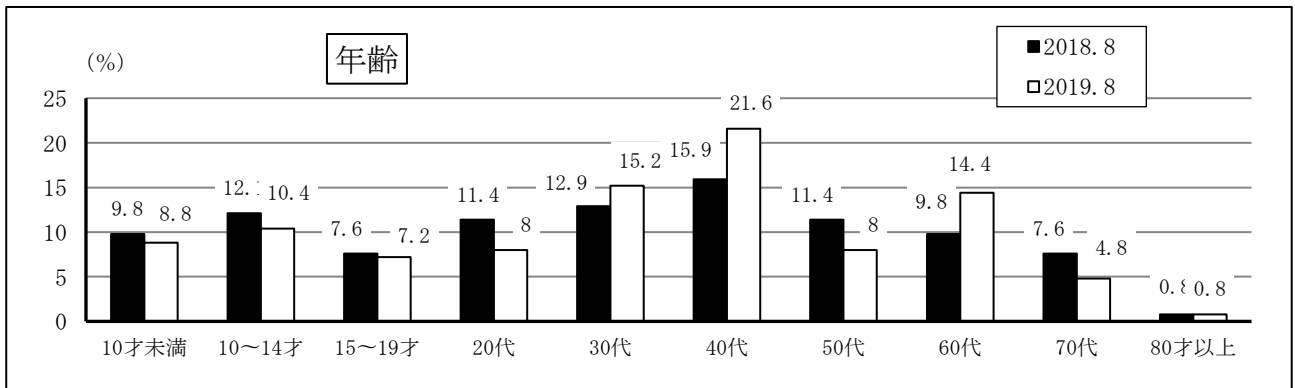
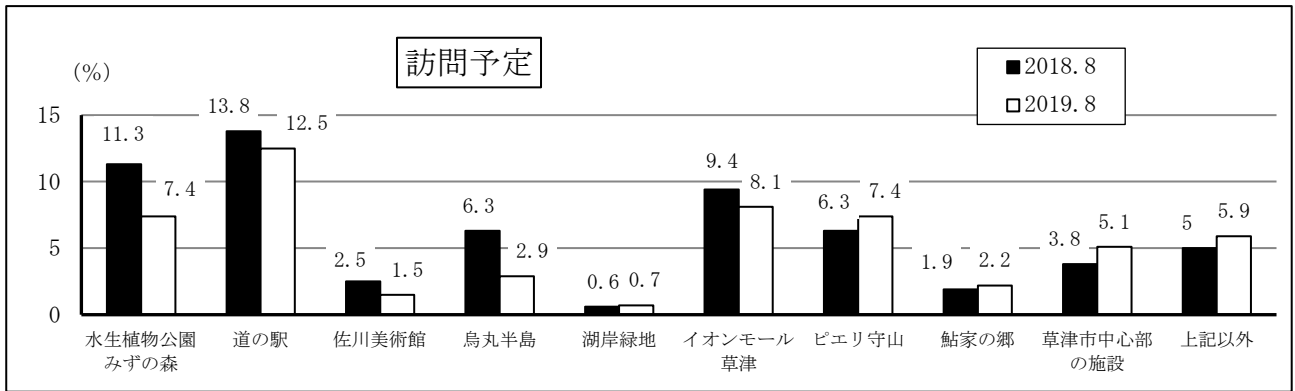
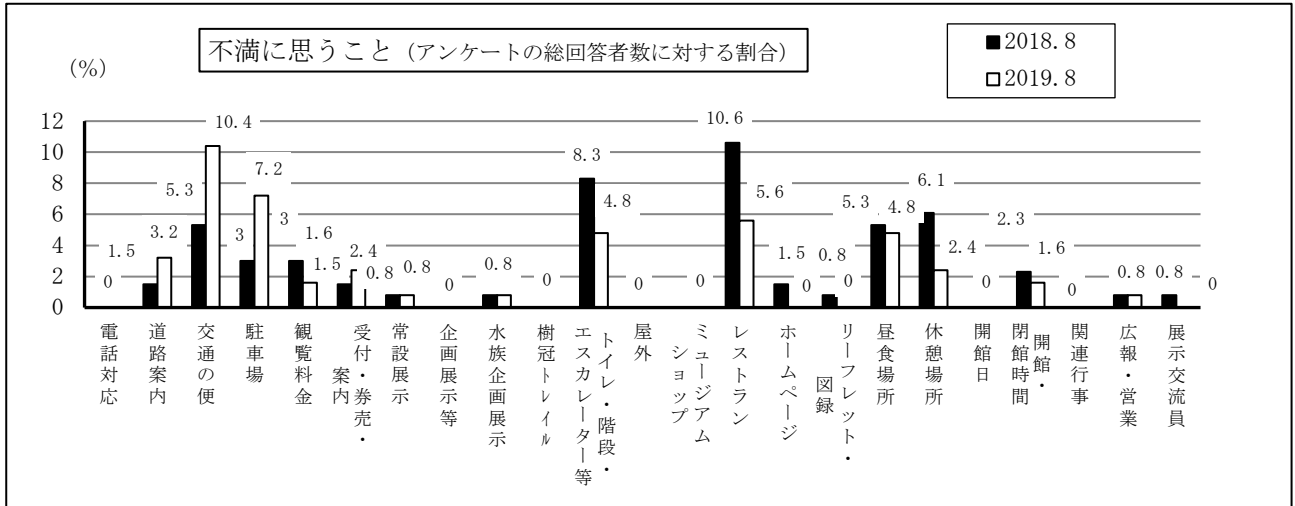
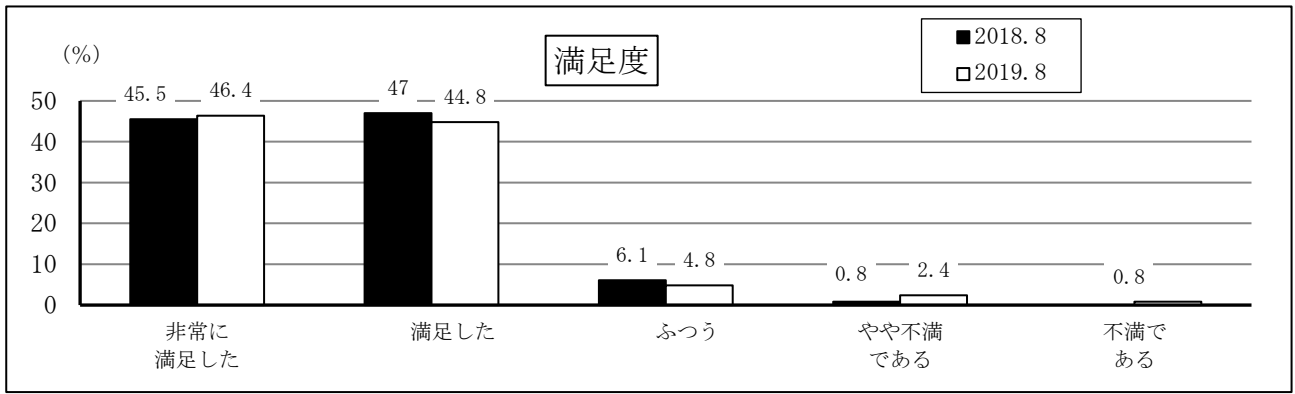
年齢：「40代」が最も多く、「30代」がそれに次ぎ、子どもを持つ親の世代が多い傾向を示した。同行者のアンケートで、「家族と」が最も多く、その内訳として「配偶者・子」が非常に多い傾向とも対応している。

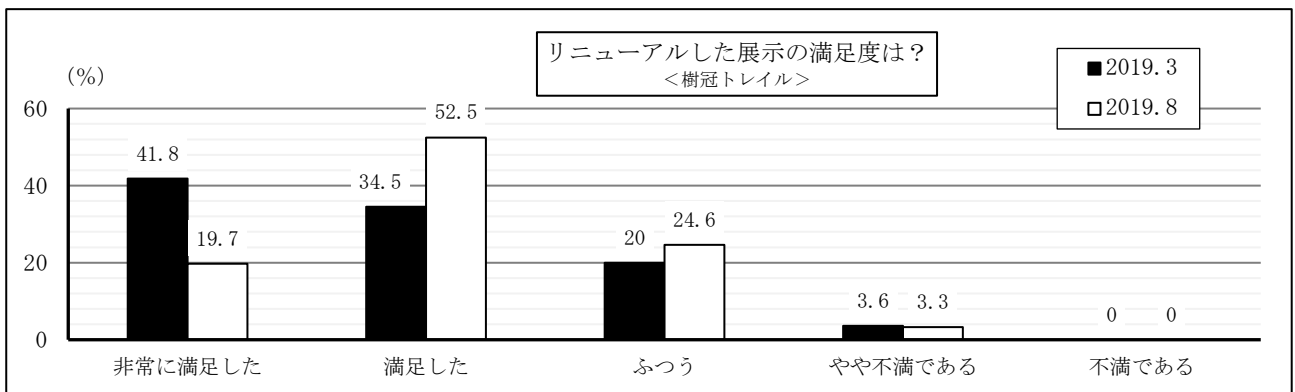
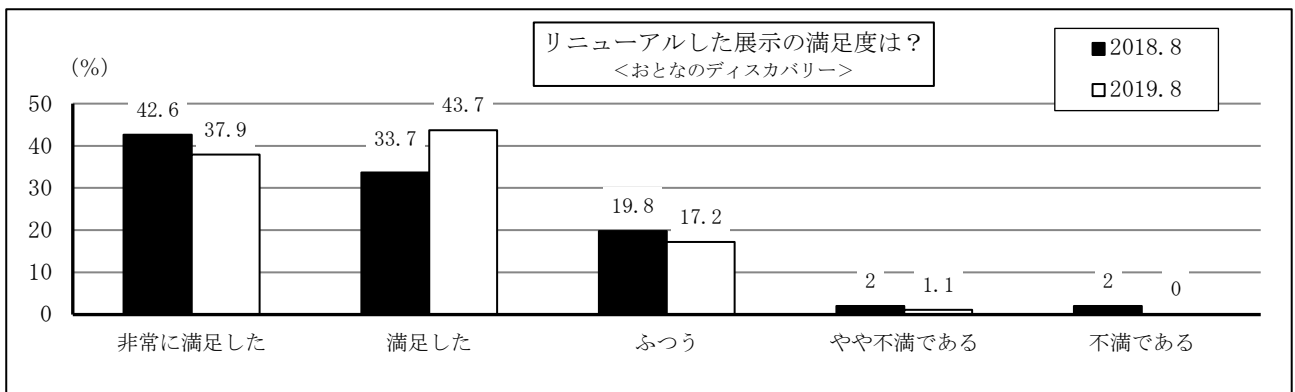
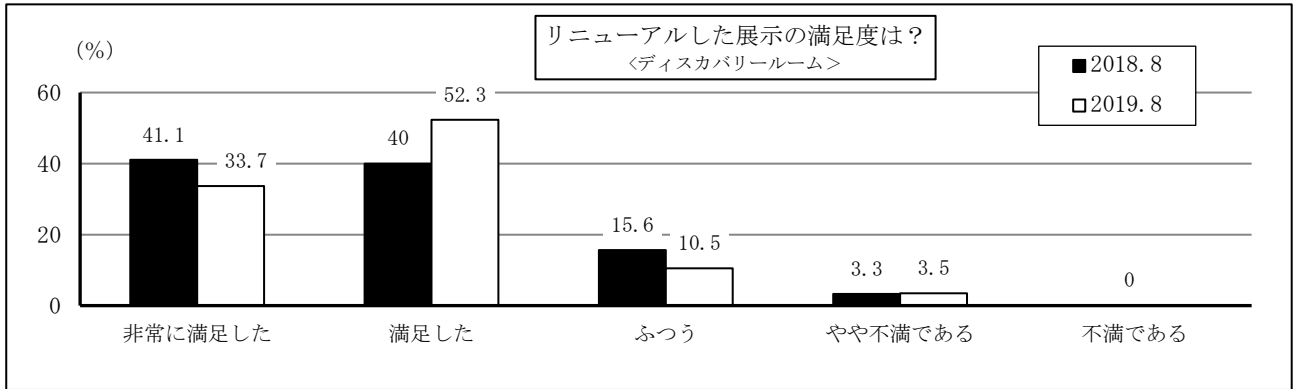
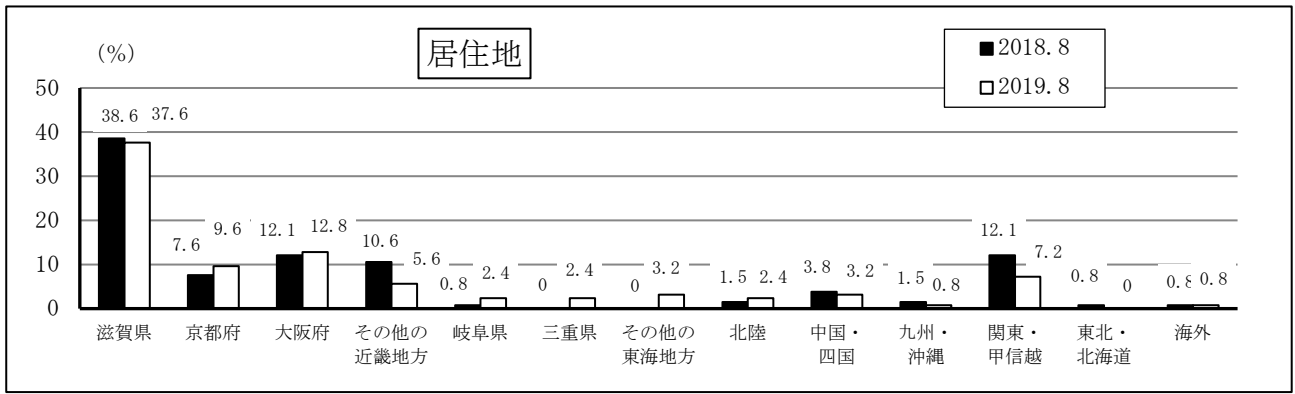
今年度は、2018年8月実施アンケートとの比較とした。

(数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの)



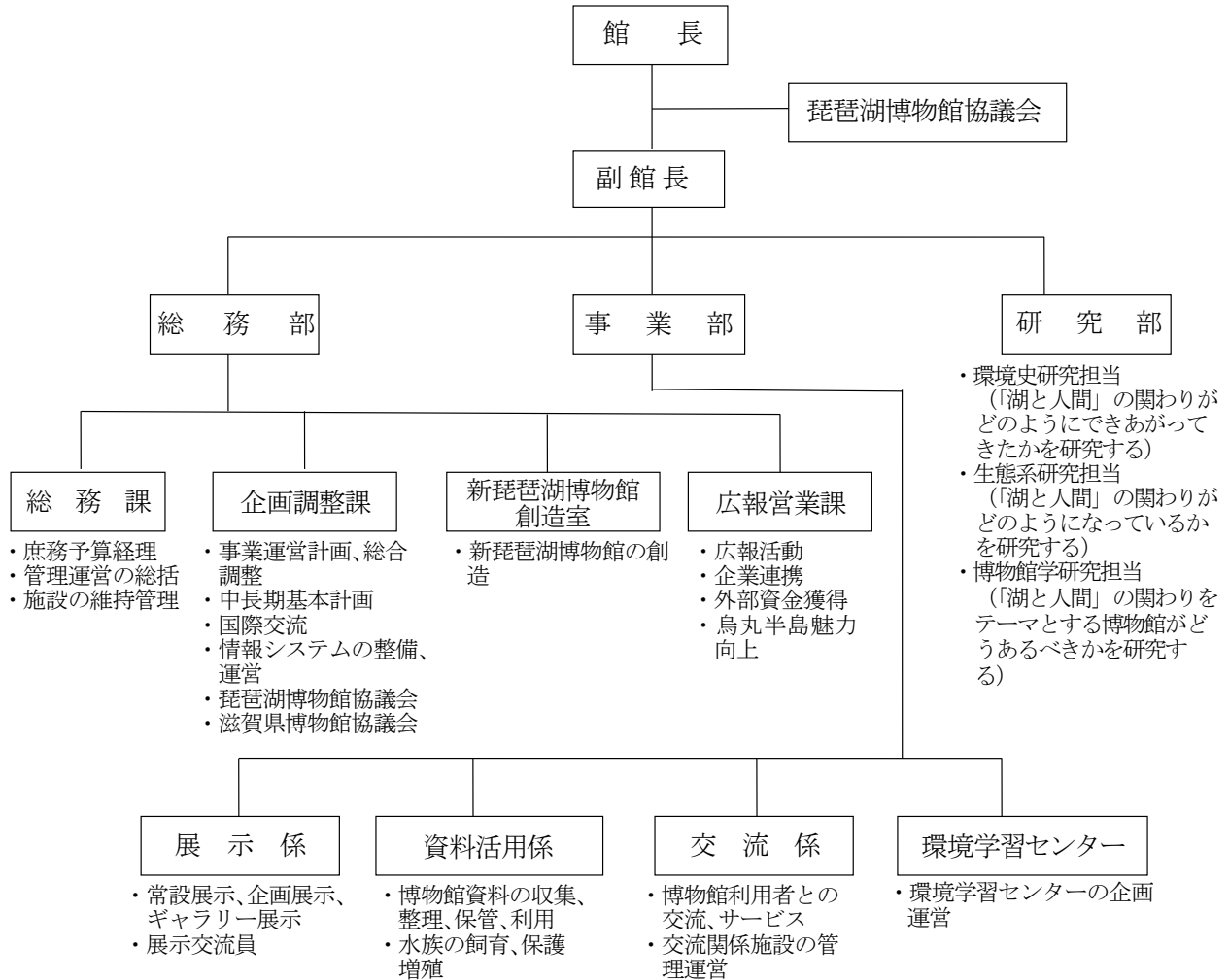






2 柔軟な運営組織

(1) 組織



職員構成 (2019年10月1日現在：兼務・併任職員を含む)

区分	館長 (非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	10	29	2	42	19	61

研究職の内訳

区分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	合計
人数(名)	25	1	1	1	1	29

(2) 職員

(2019年10月1日現在)

- 館長 高橋 啓一
- 副館長 馬淵 兼一
- 上席総括学芸員 山川 千代美
- 上席総括学芸員 亀田 佳代子
- 参事 梅村 徹弥

総務部

- 部長(事務取扱) 馬淵 兼一

◇ 総務課

- 課長 七里 啓史
- 課長補佐 初宿 文彦
- 主幹 中尾 和美
- 主査 山岡 まちこ
- 主任主事 宮田 晋太郎

◇ 新琵琶湖博物館創造室

- 室長(兼) 梅村 徹弥
- (兼) 山川 千代美
- (兼) 里口 保文
- 室長補佐 藤田 和也
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 下松 孝秀
- (兼) 林 竜馬
- (兼) 渡部 圭一
- (兼) 大久保 実香
- (兼) 妹尾 裕介
- (兼) 田畑 諒一

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 大塚 泰介
- 課長補佐(兼) 田中 順子
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 中村 久美子
- (兼) 鈴木 隆仁

◇ 広報営業課

- 課長(兼) 梅村 徹弥
- 課長補佐 田中 順子
- (兼) 金尾 滋文
- (兼) 福井 ゆめ

事業部

- 部長(兼) 山川 千代美

◇ 展示係

- (兼) 桑原 雅之
- 係長(兼) 梶永 一宏
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 片岡 佳孝
- (兼) 山中 大輔
- (兼) 妹尾 裕介
- (兼) 大槻 達郎

◇ 資料活用係

- 係長(兼) ロビン ジェームス スミス
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 林 竜馬
- (兼) 田畑 諒一

◇ 交流係

- 係長(兼) 八尋 克郎
- (兼) 下松 孝秀
- (兼) 山本 綾美
- 主査(併任) 奥野 知之
- 主査(併任) 由良 嘉基
- (兼) 楊 平
- (兼) 松岡 由子

◇ 環境学習センター

- 所長(事務取扱) 松田 征也
- 主任主事 福井 ゆめ

研究部

○部長（兼） 亀田 佳代子

◇ 環境史研究係

係長 総括学芸員 里口 保文
 専門学芸員 橋本 道範
 主査（兼） 山中 大輔
 主任学芸員 楊 平
 主任学芸員 林 竜馬
 主任学芸員 渡部 圭一
 学芸員 大久保実香
 学芸員 妹尾 裕介
 学芸技師 田畑 諒一

◇ 博物館学研究係

係長 総括学芸員 大塚 泰介
 専門学芸員 戸田 孝
 （兼） 奥野 知之
 （兼） 由良 嘉基
 主任学芸員 芦谷美奈子
 主任学芸員 金尾 滋史
 主任学芸員 中村久美子
 学芸員 松岡 由子

◇ 生態系研究係

係長 上席総括学芸員 亀田佳代子
 総括学芸員 松田 征也
 総括学芸員 桑原 雅之
 総括学芸員 八尋 克郎
 総括学芸員 芳賀 裕樹
 専門学芸員 中井 克樹
 専門学芸員 榊永 一宏
 専門学芸員 ロビン ジェームス スミス
 専門員（兼） 下松 孝秀
 主任主査 片岡 佳孝
 主任主査（兼） 山本 綾美
 学芸員 鈴木 隆仁
 学芸技師 大槻 達郎

嘱託員・臨時的任用職員

田中 里美	館長秘書	三榊友梨香	資料標本整理
江川 久雄	広報・集客	草加 伸吾	交流事業
北浦 孝雄	企業連携	塩谷えみ子	交流事業
中川 優	屋外展示運営	植村 隆司	学校学習
徳本 智美	展示室運営	高木 成美	図書資料整理
南 悠穂	展示室運営	山本 藤樹	環境学習
高石 清治	展示物維持補修	鶴飼 菜香	環境学習
大喜のぞみ	資料標本整理	鷺見満智子	環境学習
井上 晴絵	資料標本整理	細川真理子	資料標本整理
		武井 二葉	展示物制作調査

名誉館長

篠原 徹

特別研究員

天野 一葉	池田 勝	今井 一郎	岩木 真穂	柏尾 珠紀	北村 美香	楠岡 泰
黒岩 啓子	鈴木 真裕	辻川 智代	寺本 憲之	中野 聰志	中野 正俊	根来 健
廣石 伸互	藤岡 康弘	山本 充孝	柏谷 健二	左子 芳彦	真柄 侑	
Corey Tyler NOXON		川那部浩哉	布谷 知夫	中島 経夫	前畑 政善	用田 政晴
マーク J. グライガー						

フィールドレポーター・はしかけ登録者 (掲載承諾者のみ)

◇フィールドレポーター (登録者数 207 名(うちスタッフ 9 名))

土金 慧子	楠岡 泰	山本真里子	松田 道一	辻 いずみ	小野 麻代	松本 勉
近藤 順子	矢野 典子	前田 雅子	中島いずみ	橋田 理絵	熊谷 明生	熊谷 明美
宇野 啓明	保科 秀行	保科 雅子	保科 政秀	保科 明俊	山田美智子	奥村 恵子
武田 滋	小松 連	中野 敬二	土生 陽子	武田 繁	山本 篤	川畑 正信
小篠 伸二	初田 彩加	上田 修三	中場 弘二	鈴木 正範	藤本 昭義	増永裕里子
平井 政一	本田 幹雄	山本皓一郎	和田 至博	岡 隼斗	角井 俊明	加藤美由紀
柳原 潤	レイトーマス	山下 直子	山下泉マリ	山下遥ミヤ	山下悟ケイシ	福岡 敏雄
草加 伸吾	田中 一茂	市原 龍	松村 順子	山川 栄樹	山川 茜	山川 和馬
山川 侑夏	山川佳那子	中井 大介	北村 美香	小川千奈美	小川 哲仙	楠居 里奈
蜂屋 正雄	寺田 誠	後藤 真吾	杉田 薫	今井沙知子	今井虎ノ介	今井 花
川北 浩史	濱道 秀	籾内まゆ子	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	寺澤 孝之
吉野 彰一	青木 環	青木 春乃	佐々木榮一	立川 直樹	西之園保夫	福池 笙子
柳 哲平	畑中 清司	片山 慈敏	井野 勝行	中井 民子	谷村 啓子	大橋 義孝
山本つや子	三谷 軌文	福嶋 佳子	福嶋 啓志	青山 喜博	片岡 庄一	手良村知央
手良村昭子	手良村知功	飯田 俊宏	桐江 利雄	沢田 隼	中村 浩一	岡田宗一郎
岡田 和美	岡田 創暉	岡田 葵	津田 國史	村上 義信	岡 隆宏	筈井美智子
渡邊 共則	渡邊 純大	佐野 和子	佐野 隼也	佐野 裕也	松本偉之助	八尋 由佳
穴蔵 雅彦	北側 忠次	水戸 基博	水戸 涼乃	水戸 涼介	奥村恵津子	浅井 良英
村野 淳	村野 やえ	久国 正吉	矢原 功	堀 英輔	久保 和友	津田久美子
勝見 政之	北川 眞造	田中 喜久	田中 瑛斗	坂本 大介	梶島 昭紘	山崎 千晶
小林 隆夫	神戸 道典	西川 俊三	吉野 和夫	山元 祐人	小山 勝	岸田 教敬
大河原秀康	中尾 博行	江間 瑞恵	杉江ミサ子	井上 修一	百木 義忠	山口 瑞彦
後長シマ子	出口 真緒	今井 洋	柿ノ木未希	柿ノ木理志	柿ノ木志希乃	柿ノ木唯乃
熊木 慧弥	米田 大樹	向田 直人	水相 修躬	佐藤良太郎	尾原 直行	川島 雅雄
倉田 拓樹	間所 忠昌	土田 正文	桐畑 信夫	谷口 雅之	西岡 陸	厚海 秀行
厚海 佑磨	澤田 知之	三村 武士	十塚 正治	石井健一郎	渡辺圭一郎	吉川 秀司
堀江 夏妃	飯田 隆行	飯田 貞美	中谷敬二郎			

◇はしかけ (登録者数 403 名)

中野 和真	楠岡 泰	藤田 成子	山本 阿子	吉成 暁	榎本 真司	湯口 真実
山本真里子	松田 道一	辻 いずみ	谷本 正浩	谷本 由美	北田 稔	小野 麻代
戸田 博通	戸田 歌子	中川 優	松田 早苗	川田 裕元	川井 久美	川井 彩音
笹生 正則	松本 勉	若代 隆行	若代 智子	津田 廉正	根来 健	近藤 順子
松里 香織	松里 凜	矢野 典子	前田 雅子	芦田 弘美	井上 晴絵	桑垣 瑞
熊谷 明生	熊谷 明美	対中いずみ	宇野 啓明	酒井陽一郎	林 克子	大西 英雄
前田 攝子	片山 康夫	山田美智子	奥村 恵子	武田 滋	川口 涼	小松 連
松川 郁子	中野 敬二	辻川 智代	中井菜美子	中村 一馬	矢野 修	矢野としこ
土生 陽子	川畑 正信	小篠 伸二	初田 彩加	上田 修三	斉藤 文子	中場 弘二
村山 和夫	樽本 祥子	樽本 直	山野井邦彦	齊藤 眞琴	齊藤眞由美	鈴木 正範
吉居 晴美	一瀬 諭	石田 勉	猪飼 徹	岡部 陽造	古胡 陽介	小林 偉真
安原 輝	井上 聖花	山本皓一郎	和田 至博	岡 隼斗	大沢 果那	柳原 潤

山本 善康	清田 輝夫	福岡 敏雄	草加 伸吾	西村 有巧	木村 誠二	木村 爽
佐瀬 章男	田中 一茂	市原 龍	石井 千津	山川 栄樹	山川 和馬	山川 侑夏
山川佳那子	西川 美喜	一木 彰	中井 大介	北村 美香	遠藤 吉三	秋山 廣光
小川千奈美	小川 哲仙	平野 文子	吉本 由花	吉本 瀧侍	吉本 凜花	網野 博美
田中 芳子	楠居 里奈	後藤 真吾	杉田 薫	吉井 隆	吉岡 伸子	大崎美代子
大崎 穂高	大崎 颯太	富田久仁枝	宮本 直興	伊東 文彦	伊東 彬良	本間 昌子
安井加奈恵	前田 博美	今井沙知子	今井虎ノ介	今井 花	池田 勝	濱道 秀
田井中由利子	石田 未基	村田 博之	藪内まゆ子	竹元 冴矢	近持 照美	寺澤 孝之
佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	吉野 彰一	神谷 悦子	竹谷 満弘	辻 真宏
辻 実沙記	梅澤 正夫	辻本 智子	辻本 一暁	辻本紗也佳	門田なずな	門田 瑞樹
古川まや子	青木 環	青木 春乃	佐々木榮一	立川 直樹	西之園保夫	福池 笙子
堀田 修身	堀田 博美	黒柳 信之	黒柳ひとみ	堀田 恵子	柳 哲平	片山 慈敏
福永 和馬	水谷 智	村瀬 友斗	山田 正樹	山田 恵美	山田 和毅	杉山 國雄
三田村緒佐武	田付 翔	三谷 軌文	大前 健人	川南 仁	福嶋 佳子	福嶋 啓志
青山 喜博	寺本 憲之	田中 治男	田中 雅也	片岡 庄一	初古 春樹	手良村知央
手良村昭子	手良村知功	大堀 忠厚	肥田 嘉文	川崎 翼	渡邊 達也	古川 麻依
北野 大輔	島津 心暖	大橋 洋	寺尾 尚純	龍見 幸祐	吉野千栄子	飯田 俊宏
沢田 隼	津田美佐子	泉野 央樹	仲谷 泰蔵	仲谷きみ江	池田 裕輝	岡田宗一郎
岡田 和美	岡田 創暉	津田 國史	村上 義信	村上 瞳	北村 明子	西山 志穂
金山 正之	金山美佐子	北野 英子	佐野 和子	佐野 隼也	佐野 裕也	鈴木 直子
八尋 由佳	岡田 徹	柳原 徳子	山本由里子	穴蔵 雅彦	飯住 達也	川路ゆきの
水戸 基博	水戸 涼乃	水戸 涼介	山本 道子	大岡 紀彦	深田 元子	久国 正吉
立石 文代	森田 光治	矢原 功	尾崎 友輔	津田久美子	三露蓮太郎	北川 眞造
大喜のぞみ	井上 陽菜	瀬野 美貴	田中 喜久	田中 瑛斗	松本 隆	坂本 大介
東野 誠門	小林 隆夫	神戸 道典	吉田恵太郎	中山 法子	西川 俊三	徳永 義利
徳永 成美	徳永 優	井ノ口昭雄	小西 慎一	小山 勝	岸田 教敬	大河原秀康
中尾 博行	江間 瑞恵	前迫羽衣子	前迫 嘉光	島山 寿枝	吉野まゆみ	河崎 凱三
宮崎 猛	宮崎 真	宮崎 晴香	宮崎 哲	中村 重信	石上 三雄	井上 修一
百木 義忠	山口 瑞彦	中島 財	後長シマ子	出口 真緒	今井 洋	遠藤 浩子
山本 藤樹	柿ノ木未希	柿ノ木理志	柿ノ木志希乃	柿ノ木唯乃	熊木 慧弥	宇野 翔
米田 大樹	向田 直人	綺田万紀子	川村 絵美	川村 実愛	川村 郁人	川村 梓月
荒川 忠彦	尾原 直行	長 昭男	福野 憲二	三輪 祐子	関谷 和久	倉田 拵樹
間所 忠昌	服部 隆義	服部 雅也	涌井 大斗	南 和美	谷口 雅之	高田 昌彦
西岡 陸	坂東 大輝	中西 寛子	中西 春陽	中西 優一	佐々木信幸	佐々木則子
佐々木満保	佐々木幹朗	佐々木結衣	武田 広志	澤田 知之	西村 義隆	三村 武士
細木 京子	服部 圭治	十塚 正治	石井健一郎	渡辺圭一郎	吉川 秀司	堀江 夏妃
山中 裕子	木下多津江	飯田 隆行	飯田 貞美	吉田 達矢	吉田 範香	富 小由紀
中村 聡一	宮田 孝	岩西紗江子	斎藤 知行	桑田 向陽	中谷敬二郎	納屋内高史
大橋 正敏						

3 社会的支援と新しい経営

(1) 利用状況 (2019 年度入館者数)

1) 総入館者数

期 間：2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

合 計：462,162 人

開館日数： 280 日

一日平均： 1,651 人

月 平均： 38,514 人

入館者区分別内訳

区分	個人 (人)	団体 (人)	合計 (人)	構成比 (%)
未就学児	65,702	23,633	89,335	19.3
小学生・中学生	57,900	53,359	111,259	24.1
高校生・大学生	7,445	6,186	13,631	2.9
一般	227,103	20,834	247,937	53.6
合計	358,150	104,012	462,162	100.0

年 月	開館 日数	有料入館 (人)				無料入館 (人)									総 計 (人)	1 日 当 り 平 均 (人)
		一 般	高 大 学 生	小 中 学 生 (企 画 展 示)	有 料 計	65 歳 以 上	障 害 者	家 族 ふ れ あ い	サ ン デ ー	体 験 学 習	1 A 3 0 日	学 校 行 事	小 中 学 生	そ の 他		
2019.4	27	14,238	2,430	0	16,668	1,369	1,267	1,335	8	0	0	8,312	12,525	24,816	41,484	1,536
5	28	19,099	1,145	0	20,244	1,488	1,517	1,187	12	1,057	166	13,618	14,114	33,159	53,403	1,907
6	26	11,677	640	0	12,317	1,006	1,691	1,633	7	0	67	6,146	9,597	20,147	32,464	1,249
7	29	18,703	1,370	956	21,029	1,354	1,910	1,638	25	0	187	9,759	15,886	30,759	51,788	1,786
8	30	30,751	2,597	3,578	36,926	2,371	2,671	1,834	15	0	267	18,115	22,456	47,729	84,655	2,822
9	23	14,570	1,010	823	16,403	924	1,777	1,811	14	0	1,209	7,627	12,607	25,969	42,372	1,842
10	27	12,140	634	628	13,402	816	1,731	3,860	7	0	5,041	13,194	14,754	39,403	52,805	1,956
11	27	10,012	925	457	11,394	716	1,406	2,989	4	0	2,505	7,663	8,770	24,053	35,447	1,313
12	21	4,900	636	0	5,536	473	440	838	12	0	41	2,359	5,908	10,071	15,607	743
2020.1	23	10,520	440	0	10,960	733	722	1,442	4	0	65	5,170	9,736	17,872	28,832	1,254
2	19	9,013	667	0	9,680	453	647	1,258	3	0	43	3,798	7,423	13,625	23,305	1,227
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	280	155,623	12,494	6,442	174,559	11,703	15,779	19,825	111	1,057	9,591	95,761	133,776	287,603	462,162	1,651

2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2019.4	全体	7	566	10	983	8	1,604	0	0	4	390	29	3,543
	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	1	71	1	71
5	全体	59	4,861	19	2,549	1	108	5	130	3	150	87	7,798
	県内	26	1,800	1	7	0	0	2	23	0	0	29	1,830
6	全体	21	1,558	12	1,205	4	168	4	57	5	138	46	3,126
	県内	7	410	4	241	1	15	2	24	0	0	14	690
7	全体	10	391	14	1,057	10	613	2	66	7	242	43	2,369
	県内	0	0	4	389	3	101	0	0	4	141	11	631
8	全体	2	111	6	255	12	595	0	0	7	223	27	1,184
	県内	0	0	0	0	3	134	0	0	0	0	3	134
9	全体	33	2,386	3	170	4	252	5	121	6	318	51	3,247
	県内	16	1,039	0	0	3	170	0	0	1	217	20	1,426
10	全体	118	9,582	10	950	4	152	5	111	3	402	140	11,197
	県内	60	4,287	6	675	2	47	2	37	1	228	71	5,274
11	全体	49	3,707	7	831	5	317	5	119	3	113	69	5,087
	県内	31	2,216	3	80	1	25	3	64	1	14	39	2,399
12	全体	8	689	3	238	2	81	0	0	5	338	18	1,346
	県内	6	551	0	0	1	8	0	0	1	60	8	619
2020.1	全体	12	942	1	24	0	0	2	41	1	24	16	1,031
	県内	11	811	0	0	0	0	2	41	1	24	14	876
2	全体	7	484	0	0	0	0	2	38	3	147	12	669
	県内	7	484	0	0	0	0	2	38	2	126	11	648
3	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	全体	326	25,277	85	8,262	50	3,890	30	683	47	2,485	538	40,597
	県内	164	11,598	18	1,392	14	500	13	227	12	881	221	14,598

4) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2019.4	22,161	6,542	12,781	41,484
5	34,974	4,573	13,856	53,403
6	14,346	8,722	9,396	32,464
7	19,477	12,009	20,302	51,788
8	23,089	13,938	47,628	84,655
9	23,515	7,598	11,259	42,372
10	20,194	4,744	27,867	52,805
11	15,102	5,961	14,384	35,447
12	7,313	3,611	4,683	15,607
2020.1	13,818	6,349	8,665	28,832
2	14,845	4,905	3,555	23,305
3	0	0	0	0
計	208,834	78,952	174,376	462,162
構成割合	45.2%	17.1%	37.7%	100.0%

(2) 広報活動

2019年度は、専門業者に広報業務を委託し、パブリシティ活動を中心とする広報活動を展開し、テレビ番組取材の誘致や、デジタル広告、SNSを通じた情報拡散などの広報を行った。また有料広告や資料提供等を通じた情報発信の結果、来館者数は46万人余りとなった。

広告掲載10件、資料提供71件の広報活動を行い、テレビ・ラジオ174件、新聞掲載283件、雑誌等掲載194件、またWEBでも262件取り上げられた。2020年度はさらなる来館者の増加を目指し、これまでのファミリー向け広報活動のほか、大人も楽しめる博物館の魅力を発信する広報等、さらなる広報活動を展開していく必要がある。

1) 広告掲載

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
7-3月	インターネット広告：通常広告 (Instagram, Facebookの2媒体)				
7-9・11月	インターネット広告：キャンペーン広告 (Instagram, Facebook, YDN, Google, の4媒体)				
7・11月	インターネット広告：キャンペーン広告 (YouTube)				
8月	POPLEAD 2019年8月号	A5版	見開き 1.5ページ	滋賀県	12万部
10・12-3月	インターネット広告：通常広告(YDN, Googleの 2媒体)				
10月	リーフ12月号	A変形版	見開き 2ページ	京都・ 滋賀	8万部
11-3月	エース JTBパンフレット「至福の近江牛」広告	A4版	0.5ページ	関西発 中部発	2万部 1万部
2月	おでかけ moa 2020年2月号	AB版	見開き 2ページ	滋賀県	18万部
3月	るるぶ情報版「滋賀びわ湖」2020年3月発行号	AB版	カラー縦 1/3ページ	全国	6万部
3月	インターネットメディア「しがトコ」 編集記事広告掲載2本配信				

2) 資料提供

	提供日	件名
1	4月9日	滋賀県立琵琶湖博物館サイエンスセミナー 『ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほitori』を東京・ここ滋賀で開催します
2	4月11日	生きもの写真のお話と撮影会「海野和男の生きもの写真のススメ」を開催します
3	4月15日	琵琶湖博物館は10連休の期間(4月27日(土)～5月6日(月振休))も連日開館しています
4	4月24日	今年の10連休はどこへ行こう！遠くのお出かけもいいけど近くの琵琶湖博物館もおもしろい！！
5	5月10日	琵琶湖博物館リニューアルのための御寄附にかかる知事感謝状の贈呈式開催
6	5月15日	【琵琶湖博物館】各企業・団体の環境関連CSR展を開催します
7	5月15日	琵琶湖博物館 水族トピック展示『滋賀県からも新種！ナガレカマツカ』を開催します
8	5月16日	滋賀県立琵琶湖博物館 「オオキンケイギク調査」や「モミジの仲間調査」の結果報告！フィールドレポーターの交流会を開催します

	提供日	件名
9	5月16日	船ニテ神幸セラル 湖と生きる人々の祭り 滋賀県立琵琶湖博物館 B 展示室 収蔵庫をのぞいてみよう「湖を渡る神輿一日吉山王祭」を開催中！
10	5月22日	環境・ほっと・カフェ 「大学生の環境学習リーダー養成講習会」を開催します。
11	7月5日	琵琶湖の宝石「ビワマス」にまつわる美しい写真や最新の研究結果を紹介!! 滋賀県立琵琶湖博物館 第27回企画展示『海を忘れたサケービワマスの謎に迫る』を開催します
12	7月9日	今年の夏は、からすま半島に行こう!!
13	7月12日	ジャズライブに、館長の展示室解説ツアー、野洲のおっさんトークショーも!! 琵琶湖博物館 1日だけの夜間開館!!
14	7月12日	琵琶湖博物館のリニューアルに対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
15	7月19日	滋賀県立琵琶湖博物館 第27回企画展示『海を忘れたサケービワマスの謎に迫る』オープニングセレモニーを開催します
16	7月19日	サケ科魚類9種を生体展示！絶滅したといわれたクニマスの標本も展示します！ 滋賀県立琵琶湖博物館 第31回水族企画展示『ビワマスと仲間たち』を開催します
17	7月26日	滋賀県立琵琶湖博物館サイエンスセミナー 第3回『海を忘れたサケービワマスの謎に迫る』を東京・「ここ滋賀」で開催します
18	8月6日	今年の夏もマミズクラゲ、はじめました 滋賀県立琵琶湖博物館マイクロアクアリウムでマミズクラゲを間近で観察できる『ボトルクラゲ』登場！
19	8月9日	琵琶湖博物館にミストシャワーを設置しました
20	8月16日	琵琶湖博物館 A 展示室・B 展示室 今の展示はあと100日で見納めになります！
21	8月21日	琵琶湖の宝石“ビワマス”に関わる7人のプロフェッショナルが集結!! 滋賀県立琵琶湖博物館 第27回企画展示関連シンポジウム『ビワマスとその仲間たちをもっと身近に』を開催します
22	8月28日	好評につき11月24日まで展示延長！ 滋賀県立琵琶湖博物館 第31回水族企画展示『ビワマスと仲間たち』開催期間を延長します
23	9月12日	琵琶湖博物館のリニューアルに対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
24	9月12日	琵琶湖博物館のリニューアルに対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
25	9月13日	琵琶湖博物館 A 展示室・B 展示室クロージングイベント 『学芸員が語る展示のひみつマップ』を配布します！
26	9月13日	琵琶湖博物館 A 展示室コレクションギャラリーで拡大版『地域の人々がつくる展示コーナー』を開催します
27	9月13日	琵琶湖博物館のリニューアルに対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
28	9月13日	琵琶湖博物館のリニューアルに対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
29	9月19日	琵琶湖博物館の累計来館者がまもなく1,100万人を迎えます！
30	9月25日	江戸時代に描かれた琵琶湖にすむ魚の屏風『湖魚奇観』を滋賀県初公開！ 野洲市歴史民俗博物館 秋期企画展「人と魚の歴史学」の開催について
31	9月26日	琵琶湖博物館の累計来館者が明日1,100万人になります！
32	9月27日	世界最古の養鯉に関する研究が国際学術誌に掲載!! 中島経夫琵琶湖博物館名誉学芸員の研究が Nature Ecology and Evolution に掲載されました!!
33	10月4日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和元年度第1回会議を開催します
34	10月9日	琵琶湖博物館 A 展示室・B 展示室クロージングイベント 『学芸員と行く 展示室見納めツアー』

	提供日	件名
35	10月10日	滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示「海を忘れたサケーピワマスの謎に迫る」の来場者数が3万人を突破しました！！
36	10月11日	ワークショップや樹冠トレイルツアーなど、イベントが盛りだくさんの2日間！ 滋賀県立琵琶湖博物館 びわ博フェス2019を開催します
37	10月21日	バス乗車キャンペーン！ バスに乗って、琵琶湖博物館へ行こう！ バスを利用して博物館にお越しの方に、帰りのバスチケットをプレゼントします！
38	11月1日	からすま半島で健康ウォーキング事業開催中！ からすまウォーキングマップの配布中 からすまいちばんスタンプラリーも同時開催！
39	11月6日	11月は計量強調月間「今年もやります！カメの公開身体測定！」
40	11月8日	琵琶湖博物館 A展示室・B展示室クロージングイベント『用田政晴名誉学芸員と行く B展示室見納めツアー』
41	11月18日	琵琶湖博物館 A展示室・B展示室の展示は11月24日（日）で終了します
42	11月21日	企画展示閉幕まであとわずか!!展示で紹介されているピワマスに関する研究です 琵琶湖水系におけるピワマスとアマゴの関係についての研究成果
43	11月22日	リニューアル工事中も琵琶湖博物館は開館しています！ ～展示室の閉室および料金の改定について～
44	11月22日	琵琶湖博物館 アトリウムコンサートを開催します
45	11月28日	田んぼの生きもの研究大集合!! 記念すべき10回目の開催です!! 『第10回 琵琶湖地域の水田生物研究会』を開催します
46	11月29日	地質時代の国際標準申請の審査状況に関するプレリリースについて 地層「千葉セクション」の審査状況について ～GSSP 認定へ向けて～ (2019年11月)
47	11月29日	琵琶湖博物館 手作り乾電池教室を開催します
48	11月29日	『淡海こどもエコクラブ活動交流会』の開催
49	12月4日	滋賀県立琵琶湖博物館 バイカルアザラシのマリが死亡しました
50	12月19日	滋賀県立琵琶湖博物館水族展示 今年もトンネル水槽にサンタクロースがやってきます！
51	12月24日	滋賀県立琵琶湖博物館 西の湖のフィールド調査からヨシ原でつくられる花粉量を日本ではじめて解明しました！
52	12月26日	琵琶湖博物館は新年2日から開館！干支展など楽しんでいただける企画をご用意しています。
53	12月27日	滋賀県立琵琶湖博物館は新年1月2日から開館！ 2020干支展「ねずみ！子！ネズミ！」を開催します
54	1月8日	【琵琶湖博物館】 常盤小学校の小学生の皆さんにリニューアル工事中の琵琶湖博物館の展示室を見学していただきます！
55	1月10日	滋賀県立琵琶湖博物館 『2019年度 新琵琶湖学セミナー』を開催します
56	1月15日	地層「千葉セクション」のIUGS（国際地質科学連合）における審査結果発表について
57	1月16日	ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」の開催およびセレモニーの実施について
58	1月22日	琵琶湖のまわりや滋賀県のさまざまな昆虫を扱った初めての書籍！！ 琵琶湖博物館ブックレット⑩ 『琵琶湖のまわりの昆虫ー地域の人びとと探るー』を出版しました！
59	1月24日	琵琶湖博物館のリニューアルに対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
60	1月28日	琵琶湖博物館が「おおさか環境賞」で協働賞を受賞しました。
61	2月17日	淡海こどもエコクラブが全国エコ活コンクールで滋賀県初の2部門受賞！
62	2月21日	滋賀県立琵琶湖博物館 一足お先に新しい展示の一部をお見せします!! 期間限定!!リニューアル展示体感コーナーがオープン!!

	提供日	件名
63	2月25日	2月27日(木)に搬出と輸送を実施します！丸子船の原寸大断面模型が長浜市内で常設展示されることになりました
64	2月26日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和元年度第2回会議を開催します
65	2月27日	【琵琶湖博物館】全館休館のお知らせ
66	3月11日	【琵琶湖博物館】休校中で家にいるみなさんへ！おうちで楽しむ琵琶湖博物館の情報発信中!!
67	3月13日	古文書の収蔵品情報を初公開！ 琵琶湖博物館収蔵品データベース歴史資料(文書)を公開しました！
68	3月17日	【琵琶湖博物館】『おうちミュージアム』に参加します！
69	3月27日	3種のナマズのことがわかるナマズづくしの一冊!! 琵琶湖博物館ブックレット⑩ 『ナマズの世界へようこそ -マナマズ・イワトコ・タニガワ-』を出版しました！
70	3月27日	【琵琶湖博物館】中国からマスクの寄贈を受けました！
71	3月30日	琵琶湖博物館は、当面の間休館いたします

3) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
4/1	キラりん滋賀 BBC ニュース	びわ博は日本最大級の淡水魚の水族館！	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
4/2	知ったかぶりカイツブリニュース	びわ博は日本最大級の淡水魚の水族館！	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
4/12	ten	伊藤園の寄付贈呈と下物ビオトープ	読売テレビ	田中順子課長補佐
4/16	知ったかぶりカイツブリニュース	web アミンチュ_びわ博の中の人_生配信する微チューバー	びわ湖放送	鈴木隆仁学芸員
4/19	まるっと平成Q ~映像で振り返る滋賀	琵琶湖博物館 C展(空ビワ)より滋賀の平成を振り返る特別番組	NHK 大津	中井克樹専門学芸員
4/24	「おうみ発 630」	知りたがりっ！～びわ湖の伝統漁を守る琵琶湖博物館の伝統漁具の展示会をきっかけに	NHK 大津	渡部圭一主任学芸員
4/25	キラりん滋賀 BBC ニュース	GWは琵琶湖博物館へ	びわ湖放送	福井ゆめ主事
4/26	ぐるっと関西おひるまえ	びわ湖の伝統漁を守る琵琶湖博物館の伝統漁具の展示会	NHK 大阪	渡部圭一主任学芸員
4/26	キラりん滋賀 BBC ニュース	GWは琵琶湖博物館へ	びわ湖放送	福井ゆめ主事
5/3	きらきん 生放送で琵琶湖博物館にマッハが来る!!	琵琶湖博物館より中継(ヨシ水槽・空ビワ・樹冠トレイル)	KBS 京都	金尾滋史主任学芸員
5/15 5/16 5/17	おうみかわら版	生活実験工房 田んぼ体験	ZTV	下松孝秀専門員
5/22	YONHAP NEWS	韓国の生物資源館 琵琶湖博物館と23日に合同発表会	聯合ニュース テレビ	梅村徹弥課長

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
6 21 ～ 30	鉄ぶら	サイクリングシリーズ：びわ湖の生きもの紹介	スターキャット・ケーブルネットワーク	田中順子課長補佐
6 21	鉄ぶら	サイクリングシリーズ：びわ湖の生きもの紹介	アイ・シー・シー	田中順子課長補佐
6 21	鉄ぶら	サイクリングシリーズ：びわ湖の生きもの紹介	三河湾ネットワーク	田中順子課長補佐
6 21	鉄ぶら	サイクリングシリーズ：びわ湖の生きもの紹介	ケーブルメディア四国	田中順子課長補佐
6 28 ～ 30	鉄ぶら	サイクリングシリーズ：びわ湖の生きもの紹介	福井ケーブルテレビ	田中順子課長補佐
7 1～ 11	鉄ぶら	サイクリングシリーズ：びわ湖の生きもの紹介	福井ケーブルテレビ	田中順子課長補佐
7 8	関西のニュース	バイカルアザラシの体重測定について	NHK 大津	松岡由子学芸員
7 8	「おうみ発 630」	バイカルアザラシの体重測定について	NHK 大津	松岡由子学芸員
7 10 ～ 26	琵琶湖博物館のCM	ナイトミュージアム	KBS 京都	福井ゆめ主事
7 14 21	比叡の光	びわ湖と人に出会う(1)・(2)	びわ湖放送	高橋啓一館長
7 14 21	比叡の光	びわ湖と人に出会う(1)・(2)	KBS 京都	高橋啓一館長
7 16 23	比叡の光	びわ湖と人に出会う(1)・(2)	スカイ A	高橋啓一館長
7 12	キラりん滋賀 日本まんなか直送便プラス	おとなのディスカバリー、樹冠トレイル	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員 福井ゆめ主事
7 12	キラりん滋賀 日本まんなか直送便プラス	おとなのディスカバリー、樹冠トレイル	三重テレビ放送	金尾滋史主任学芸員 福井ゆめ主事
7 12	キラりん滋賀 日本まんなか直送便プラス	おとなのディスカバリー、樹冠トレイル	岐阜放送	金尾滋史主任学芸員 福井ゆめ主事
7 12	キラりん滋賀 日本まんなか直送便プラス	おとなのディスカバリー、樹冠トレイル	テレビ和歌山	金尾滋史主任学芸員 福井ゆめ主事
7 12	滋賀プラスワンインフォメーション	企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」	FM 滋賀	金尾滋史主任学芸員
7 20	ぐるっとびわ湖～琵琶湖博物館への誘い～		びわ湖放送	福井ゆめ主事
7 21	キラりん滋賀 BBC ニュース	感謝状贈呈式(リニューアル寄附企業)	びわ湖放送	福井ゆめ主事
7 23	関西のニュース	企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」	NHK 大津	桑原雅之総括学芸員
7 23	「おうみ発 630」	企画展示海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」	NHK 大津	桑原雅之総括学芸員

放送日		番組名	内容	媒体	担当者
7	26 30	滋賀 SOSE	水族展示室、A～C 展示室	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
7	30	ぐるっと関西おひるまえ	企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」	NHK 大阪	桑原雅之総括学芸員
8	1	京いちにちニュース 630 京の特集	知られざる平安神宮 絶滅危惧種のシェルター	NHK 京都	松田征也総括学芸員
8	7	よーいドン ロザンのうんちく	C 展示室、水族展示室	関西テレビ	金尾滋史主任学芸員
8	7	キラりん滋賀 中継コーナー	企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」	びわ湖放送	桑原雅之総括学芸員
8	11	なんじゃかんじゃ探偵団	水族、ふれあい水槽の謎について	KBS 京都	金尾滋史主任学芸員
8	22	知ったかぶりカイツブリニュース	ナイトミュージアムのトークショーの様様	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
8	26	「おうみ発 630」	オオバナミズキンバイ駆除のこうしゅうかいを琵琶湖博物館で実施	NHK 大津	中井克樹専門学芸員
9	10	「朝生ワイドす・またん！」 & 「ZIP!」	激ウマ高級食材 レイクロブスターを追う！ 外来生物「タンカイザリカニ」について	読売テレビ	金尾滋史主任学芸員
9	17	知ったかぶりカイツブリニュース	ふれ合い水槽	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
9	14	キラりん滋賀 BBC ニュース	A 展コレクションギャラリー「地域の人々による展示コーナー拡大版」について	びわ湖放送	里口保文総括学芸員
9	20	キラりん滋賀 BBC ニュース	感謝状贈呈式（リニューアル寄附企業）と企画展示の紹介	びわ湖放送	福井ゆめ主事
9	30	正木明の地球にいいこと	琵琶湖の固有種の危機、外来種の脅威について	ラジオ関西	中井克樹専門学芸員
10	1	琵琶湖博物館紹介番組	びわ湖博物館の全体説明 (1)	彦根 FM クラブ	金尾滋史主任学芸員
10	2	琵琶湖博物館紹介番組	びわ湖博物館の全体説明 (2)	彦根 FM クラブ	金尾滋史主任学芸員
10	3	琵琶湖博物館紹介番組	びわ湖博物館の全体説明 (3)	彦根 FM クラブ	金尾滋史主任学芸員
10	4	琵琶湖博物館紹介番組	びわ湖博物館の全体説明 (4)	彦根 FM クラブ	金尾滋史主任学芸員
10	8	琵琶湖博物館紹介番組	水族展示室の紹介 (1)	彦根 FM クラブ	金尾滋史主任学芸員
10	9	琵琶湖博物館紹介番組	水族展示室の紹介 (2)	彦根 FM クラブ	金尾滋史主任学芸員
10	10	琵琶湖博物館紹介番組	水族展示室の紹介 (3)	彦根 FM クラブ	金尾滋史主任学芸員
10	11	琵琶湖博物館紹介番組	水族展示室の紹介 (4)	彦根 FM クラブ	金尾滋史主任学芸員
10	15	列島縦断宝メシグランプリ 2019	イワトコナマズの映像	NHK 総合	金尾滋史主任学芸員
10	15	琵琶湖博物館紹介番組	企画展示「海を忘れたサケ」の紹介 (1)	彦根 FM クラブ	芳賀裕樹総括学芸員
10	16	琵琶湖博物館紹介番組	企画展示「海を忘れたサケ」の紹介 (2)	彦根 FM クラブ	芳賀裕樹総括学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
10 17	琵琶湖博物館紹介番組	企画展示「海を忘れたサケ」の紹介 (3)	彦根 FM クラブ	芳賀裕樹総括学芸員
10 18	琵琶湖博物館紹介番組	企画展示「海を忘れたサケ」の紹介 (4)	彦根 FM クラブ	芳賀裕樹総括学芸員
10 18	ランチタイム大津	びわはくの遊び方	FM おおつ	金尾滋史主任学芸員 福井ゆめ主事
10 22	琵琶湖博物館紹介番組	A 展示室の紹介 (1)	彦根 FM クラブ	里口保文総括学芸員
10 23	琵琶湖博物館紹介番組	A 展示室の紹介 (2)	彦根 FM クラブ	里口保文総括学芸員
10 23	キラりん滋賀	A・B 展示室ツアーとバスチケットキャンペーンの紹介	びわ湖放送	福井ゆめ主事
10 24	琵琶湖博物館紹介番組	A 展示室の紹介 (3)	彦根 FM クラブ	里口保文総括学芸員
10 25	琵琶湖博物館紹介番組	A 展示室の紹介 (4)	彦根 FM クラブ	里口保文総括学芸員
10 27	BBC ニュース	館長と行く A 展示室ツアーの紹介	びわ湖放送	高橋啓一館長
10 30	ミント	昨年台風の影響 北湖のナガエツルノゲイトウ	毎日放送	中井克樹専門学芸員
11 2	花咲かタイムス	琵琶湖博物館の紹介 (おとなのディスカバリー、樹冠トレイル、水族展示室)	CBC テレビ	田中順子課長補佐
11 25 ～ 27	キラりん滋賀	A・B 展示室閉室に伴う料金改定とバスチケットキャンペーンのお知らせ	びわ湖放送	福井ゆめ主事
11 28 ～ 29	キラりん滋賀	A・B 展示室閉室に伴う料金改定と手作り乾電池教室のお知らせ	びわ湖放送	福井ゆめ主事
11 28	ま〜ぶる！女と男ときむらのシャバダバ元気!!「街かどレポート」	ラジオカーリポートによる博物館の魅力、リニューアル情報とイベント等のお知らせ	KBS 京都ラジオ	梅村徹弥課長
11 30	しらががテレビインフォメーション	琵琶湖地域の水田生物研究会	びわ湖放送	大塚泰介総括学芸員
12 5	「おうみ発 630」	バイカルアザラシ マリ死ぬ	NHK 大津	金尾滋史主任学芸員
12 5	キラりん滋賀	バイカルアザラシ マリ死ぬ / 中国共産党湖南省委員会の幹部ら来館	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
12 11	勇さんのびわ湖カンパニー	琵琶湖博物館紹介	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
12 13	キラりん滋賀	海と日本 PROJECT で琵琶湖博物館紹介	びわ湖放送	大塚泰介総括学芸員
12 14	BBC ニュース	アトリウムコンサートの様子とウインターコンサートの紹介	びわ湖放送	福井ゆめ主事
12 17 ～ 20	キラりん滋賀	アトリウムコンサートの様子とウインターコンサートの紹介	びわ湖放送	福井ゆめ主事
12 19	天才てれびくん YOU	西川貴教氏による琵琶湖に関するクイズ出題と博物館の紹介	NHK (E テレ)	金尾滋史主任学芸員

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者
12	22	BBC ニュース	サンタ水槽	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
12	22	関西のニュース	サンタ水槽	NHK 大津	金尾滋史主任学芸員
12	25	未来レストランへようこそ ～究極の一皿を召し上が れ！～	写真提供：『ニゴロブナ』	BS 朝日	金尾滋史主任学芸員
12	28	しらしがテレビインフォメ ーション	2020 干支展 ねずみ！子！ネズ ミ！！	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
1	5	BBC ニュース	琵琶湖博物館干支展を開催チ ュー♪	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
1	7	「おうみ発 630」	2020 干支展 ねずみ！子！ネズ ミ！！ 開催	NHK 大津	金尾滋史主任学芸員
1	8	「おうみ発 845」	2020 干支展 ねずみ！子！ネズ ミ！！ 開催	NHK 大津	金尾滋史主任学芸員
1	10	おはよう関西	琵琶湖博物館 夏リニューア ルオープン！	NHK 大津	梅村徹弥課長
1	15	キラりん滋賀	小学生が琵琶湖博物館リニュー アル工事を見学	びわ湖放送	渡部圭一主任学芸員
1	25	土曜スタジオパーク	滋賀観光大使の西川貴教氏 が、琵琶湖博物館をレポート	NHK 総合	金尾滋史主任学芸員
1	31	キラりん滋賀	感謝状贈呈式の模様と入館料 割引およびバスチケットキャ ンペーンの垂知らせ	びわ湖放送	福井ゆめ主事
2	2	ナニコレ珍百景	琵琶湖博物館の紹介と固有種 を食べる習慣	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
2	5	「おうみ発 630」	リニューアルに関するニュー ス	NHK 大津	梅村徹弥課長
2	5	「おうみ発 845」	リニューアルに関するニュー ス	NHK 大津	梅村徹弥課長
2	17	日本列島！ハテナの旅～京 都・滋賀で大人の修学旅行 ～	琵琶湖博物館（水族展示室） を紹介	BS TBS	金尾滋史主任学芸員
2	22 ～ 29	BBC ニュース	琵琶湖博物館からのお知らせ CM	びわ湖放送	福井ゆめ主事
2	29	プラタモリ 伊賀忍者～な ぜ伊賀は“NINJA “の里に なったのか？～	琵琶湖がうんだ伊賀の地形	NHK 総合	里口保文総括学芸員
2	29	BBC ニュース	県内各施設臨時休館	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
3	2	ワイルドライフ 知られざ る琵琶湖巨大水系に謎のビ ワマスを追う！		NHK BS プレミ アム	桑原雅之総括学芸員

4) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	1	140年史(4)湖国と滋賀本社の40年 1996年琵琶湖博物館オープン	京都新聞
4	2	[びわ博こだわり展示の裏話]<40>開館当初からある秘密の水槽 トイレからニジマスの姿 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
4	3	琵琶湖博物館館長に高橋氏が就任 前館長の篠原徹氏は名誉館長に就任	朝日新聞
4	4	琵琶湖博物館と市立水生植物公園みずの森のある烏丸半島中央部未利用地を草津市土地開発公社が取得	朝日新聞
4	4	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<26>真珠手術用具 医療器具を転用精密作業 三樹友梨香嘱託職員	京都新聞
4	5	[美術館・博物館]琵琶湖 漁具図鑑一魚つかみの道具のヒミツ 案内	毎日新聞
4	8	琵琶博で特別展 漁の様子の映像も エビタツベ・ドジョウ踏み琵琶湖の伝統漁具多彩 渡部圭一主任学芸員の話	京都新聞
4	9	[文化]ナマズ産卵に心震わせ 琵琶湖で観察 150回超、粘り続けて新発見 前畑政善名誉学芸員	日本経済新聞
4	10	びわ博「楽しく研究できた」篠原前館長、高橋館長と会見	毎日新聞
4	10	烏丸半島9ヘクタールに観光施設整備へ草津市が土地取得	産経新聞
4	11	希少オオワシ「実物」の迫力、長浜の湖北野鳥センターで剥製公開 県内では他に琵琶湖博物館が所蔵	中日新聞
4	12	びわ博全貌明らかに 第3期リニューアル案 触れられる展示やAR活用 橋本道範専門学芸員と創造室担当者の話	毎日新聞
4	12	[美術館・博物館]琵琶湖 漁具図鑑一魚つかみの道具のヒミツ 案内	毎日新聞
4	13	[湖岸より]<341>開館3理念をさらに 高橋啓一館長	中日新聞
4	13	ヨシ原保全へ伊藤園寄付 県に620万円ピオトープ維持に 琵琶湖博物館で贈呈式	読売新聞
4	13	滋賀琵琶湖 エリ漁 <写真資料提供：『ニゴロブナ』『ホンモロコ』『ふなずし』>	中日こどもウィークリー
4	16	[びわ博こだわり展示の裏話]<41>どうして水は出てこない？不思議な水槽 空気が水押す力を利用 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
4	17	オオワシの生態を紹介 剥製や「おばあちゃん」研究成果 珍しい剥製は県内では他に琵琶湖博物館が所蔵	読売新聞
4	17	[現代のことば]卓抜な比喻—琵琶湖のコアユ 篠原徹名誉館長	京都新聞(夕刊)
4	18	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<27>三枚小糸網 大量水揚げで使用拡大 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
4	18	砂防の歴史や意義紹介 教員らの団体学習冊子「砂防探訪～琵琶湖・淀川水系砂防の歩み」北村美香特別研究員のコメント	京都新聞
4	19	琵琶湖保全のピオトープ 寄付金活用し開園生き物にふれ合う場に 琵琶湖博物館で「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーンの寄付金贈呈式 / [美術館・博物館]琵琶湖 漁具図鑑一魚つかみの道具のヒミツ 案内	毎日新聞
4	21	[琵琶湖の魚たち]湖国に春告げる使者ウグイ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
4	24	県施設使用料10月見直し リニューアル中の琵琶湖博物館の観覧料などは据え置く。 / 県、新天皇即位で記帳所設置 県公館と琵琶博に	京都新聞
4	24	県、新天皇即位記念事業の一環で「令和の森」整備検討 来月4・5日にかけて皇太子さまも訪問された琵琶湖博物館に記帳所を設置、両日とも博物館を無料開放する予定	産経新聞
4	25	大型連休中各種施設は？琵琶湖博物館は期間中は休まず開館	中日新聞
4	26	07年大津「全国豊かな海づくり大会」での「ブルーギル持ち帰り」発言 陛下の「謝罪」記述仰天 元上席総括学芸員前畑政善名誉学芸員の話	京都新聞
4	26	[催し]琵琶湖 漁具図鑑一魚つかみの道具のヒミツ展の案内 / [美術館・博物館]琵琶湖 漁具図鑑一魚つかみの道具のヒミツ 案内	毎日新聞
4	27	[湖岸より]<342>企業と連携 希少淡水魚保全 金尾滋史主任学芸員	中日新聞
4	29	琵琶湖伝統の漁具紹介 琵琶湖博物館巨大なフナ捕りカゴも 特別展「琵琶湖 漁具図鑑一魚つかみの道具のヒミツ」開催 担当者のコメント	読売新聞
4	30	「水資源機構」開発断念で草津市は、琵琶湖博物館と水生植物公園みずの森の間に位置する烏丸半島の9ヘクタール購入	毎日新聞
4	30	天皇陛下の主な京滋来訪 第27回全国豊かな海づくり大会に出席。県立琵琶湖博物館などを訪れる。	京都新聞
5	2	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<28>カーバイドランプ 携帯「灯り」夜の漁で重宝 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
5	3	天皇陛下即位で県が、県公民館と琵琶湖博物館の2カ所に記帳所設置	毎日新聞
5	5	新天皇即位祝い県が琵琶湖博物館・県公民館に記帳所設置 琵琶湖博物館には2012年7月に訪問、約1時間半かけて見学	朝日新聞
5	5	陛下への祝意と新時代願い込め 県内2カ所に記帳所 琵琶湖博物館では329人が記帳	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	6	新聞紙でかぶと作り 草津・琵琶博	読売新聞
5	6	紙面折り「かぶと」親子で記念撮影 県立琵琶湖博物館	中日新聞
5	10	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
5	11	[湖岸より]<343>博学連携 奥野知之主査	中日新聞
5	14	[びわ博こだわり展示の裏話]<42>造形師の観察眼と再現技術 オオナマズの姿忠実に 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
5	14	作って誇る滋賀の味 2011年に琵琶湖博物館で滋賀の伝統食を紹介する「食事博」を開催	朝日新聞
5	15	琵琶博改修に500万円を県に寄付 伊藤忠商事	京都新聞
5	16	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<29>藻掻き 風が対敵手際よく収穫 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
5	17	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
5	19	生き物撮影なるほど!琵琶博、20人学ぶ	読売新聞
5	19	[琵琶湖の魚たち]美しすぎる淡水魚・イチモンジタナゴ 松田征也総括学芸員	産経新聞
5	20	淡い黄色山肌彩る 大津・シイノキ花盛り 林竜馬主任学芸員の話	京都新聞
5	21	新駅中止後県政に対応、琵琶湖博物館開設準備室長就任時には開館に向けて尽力 瑞宝中授章の元県副知事田口宇一郎さん	京都新聞
5	24	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
5	25	[湖岸より]<344>マミズクラゲの“二重生活” 鈴木隆仁学芸員	中日新聞
5	28	[びわ博こだわり展示の裏話]<43>本当のタヌキってどんな顔?観察シートでスケッチを 中村久美子主任学芸員 / 防災、自然、文化…郷土知り愛着を 29日から市民大学講座 講師に「わかって来たフナズシの歴史」橋本道範専門学芸員、「琵琶湖のおいたち」里口保文総括学芸員ほか	毎日新聞
5	30	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<30>釣り針 狙うは大物「ギャング」 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
5	31	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
6	1	[湖岸より]<345>耳石から琵琶湖のアユの生きざまを探る 片岡佳孝主任主査 / 県庁で全面禁煙始まる 琵琶湖博物館など県立施設は個別に検討	中日新聞
6	4	コイ科の新種 県内河川にも生息 ナガレカマツカ見に来て 琵琶湖博物館で展示 田畑諒一学芸技師のコメント <写真資料提供:『ナガレカマツカ』>	京都新聞
6	6	[現代のこぼれ]稜線と地平線—北山 篠原徹名誉館長	京都新聞(夕刊)
6	7	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
6	8	[湖国の人たち]研究結果楽しく伝える 仮説の証明手助けを 高橋啓一第3代琵琶湖博物館館長	毎日新聞
6	11	[びわ博こだわり展示の裏話]<44>ときどき出現 新発見の生き物紹介 トピック水槽に注目 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
6	11	台風で琵琶湖水草大流失 昨年21号南部の7割 国立環境研究所と琵琶湖博物館の調・分析で判明	毎日新聞(夕刊)
6	12	[時のひと]琵琶湖博物館3代目館長に就任 高橋啓一	京都新聞
6	13	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<31>ドジョウ叩き 初夏の夜の水田針刺す 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
6	13	県、119部署で法令順守せず 継続して勤めているアルバイトへの年次有給休暇の付与が不足(琵琶湖博物館など5部署)等	朝日新聞
6	14	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
6	15	[湖岸より]<346>物理現象で琵琶湖を知ろう 戸田孝専門学芸員	中日新聞
6	16	新種の魚会いに来て 琵琶博「ナガレカマツカ」展示 担当者のコメント <写真資料提供:『ナガレカマツカ』>	読売新聞
6	16	[琵琶湖の魚たち]ふなずしがつなぐ琵琶湖と人 ニゴロブナ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
6	18	[名品手鑑]<58>醒井木彫美術館 滋賀の博物館・美術館探訪 森大造の能彫、仏像代表作「竹生島」や「地藏菩薩」 八尋克郎総括学芸員	毎日新聞
6	21	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
6	25	[びわ博こだわり展示の裏話]<45>バイカルアザラシの健康診断 検査方法 負担少なく 松岡由子学芸員	毎日新聞
6	27	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<32>マエガキ 泥ごと魚を掻きとる 三樹友梨香囀託職員	京都新聞
6	28	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
6	28	360万年前の伊賀化石が魅せる 北田コレクション展示 拓殖の資料館 琵琶湖博物館と30年以上の協力関係 高橋啓一館長が見学・コメント	朝日新聞
7	5	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
7	5	琵琶湖博物館「企画展示 海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」 「ナイトミュージアム」案内	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	6	[湖岸より]<347>琵琶湖固有の珪藻とその祖先 大塚泰介総括学芸員	中日新聞
7	7	[凡語]森でシカが増えると石につくコケを食べるアユも減る可能性がある」桑原雅之総括学芸員	京都新聞
7	11	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<33>漬け柴漁の鯿 太い幹や枝引き上げる渡部圭一主任学芸員	京都新聞
7	12	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
7	13	[湖岸より]<348>海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー 桑原雅之総括学芸員	中日新聞
7	14	[琵琶湖の魚たち]ビワマスは意外としたたか 桑原雅之総括学芸員	産経新聞
7	15	ビワコオオナマズ2.7メートルの実物大模型、ミシガン船内で展示「ミシガン」と琵琶湖博物館の共同企画「ミシガンびわ湖ミュージアム」	中日新聞
7	19	[遊・You・友]「企画展示 海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」開催案内	朝日新聞(夕刊)
7	19	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
7	19	[近江すたいる]絶滅危惧種守る“企業ビオトープ”オムロン野洲事業所 琵琶湖博物館などと連携 繁殖に欠かせぬ共生 環境学習にと観察会も	読売新聞(しが県民情報)
7	20	琵琶博、27日の開館時間延長 夜の昆虫観察やジャズ楽しんで	京都新聞
7	23	ビワマスの謎の生態パネルや剥製で迫る 琵琶湖博物館展示 金尾滋史主任学芸員のコメント	中日新聞
7	24	夜の昆虫や魚 27日開館延長 琵琶湖博物館	読売新聞
7	25	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<34>鵜飼文書 明治期まで命脈保つ 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
7	26	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
7	27	[湖岸より]<349>琵琶湖の“隠れた主役”イバラモ 芦谷美奈子主任学芸員	中日新聞
7	28	「夏なのに樹氷？」木々一部白く 大津の写真家現象撮影 大槻達郎学芸技師のコメント	京都新聞
7	30	[びわ博こだわり展示の裏話]<46>屋外の水槽にやってくるお客さん意外な出会いに驚き 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
8	2	[Event & Stage]「企画展示 海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」開催案内	読売新聞
8	2	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
8	7	[現代のことば]京好き 篠原徹名誉館長	京都新聞(夕刊)
8	8	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<35>引っ掛け 夏休みの子アユ取り 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
8	9	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
8	10	[湖岸より]<350>氷期から続く山門湿原 山川千代美上席総括学芸員	中日新聞
8	11	[琵琶湖の魚たち]ナワバリ主張で体当たりするアユ 片岡佳孝主任主査	産経新聞
8	20	[びわ博こだわり展示の裏話]<47>こだわりづくし樹冠トレイル 水運支えた「丸子船」再現 林竜馬主任学芸員	毎日新聞
8	22	ビワマスの生態に迫る 琵琶博で展示 写真パネルや剥製	読売新聞
8	22	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<36>地曳網の足縄 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
8	23	[おでかけスポット]琵琶湖博物館圧巻の水槽トンネル 大人も子どもも古代湖の謎発見 金尾滋史主任学芸員の話	日本経済新聞(夕刊)
8	24	[湖岸より]<351>水遊びから学ぶ多彩な知恵 楊平主任学芸員	中日新聞
8	24	琵琶湖ブルーギル激減 水草減少原因か 生態系へ影響懸念	読売新聞(夕刊)
8	27	駆除活動成果や課題探る 琵琶湖博物館で研究成果を発表するワークショップ開催 中井克樹専門学芸員のコメント	中日新聞
8	30	ビワマス 30年の研究成果紹介 琵琶湖博物館で企画展 交雑の実態や遡上調査	京都新聞
8	30	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
8	31	[湖岸より]<352>筆に珍重 琵琶湖のネズミ 中村久美子主任学芸員	中日新聞
9	2	[現代のことば]日本史の舞台ー京と近江 篠原徹名誉館長	京都新聞(夕刊)
9	3	[びわ博こだわり展示の裏話]<48>みんなで作った樹冠トレイル 魅力広がれ「森人」パネル 林竜馬主任学芸員	毎日新聞
9	4	琵琶湖博物館リニューアル 誰もが学び楽しむ空間に 林竜馬主任学芸員の話	中日新聞
9	5	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<37>シジミカキのタモ網 長い柄付け底かきとる 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
9	6	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
9	6	県の情報アプリで 若者への発信強化 スマートニュースの画像	読売新聞
9	8	[琵琶湖の魚たち]カネヒラ 貝の中で越冬 松田征也総括学芸員	産経新聞
9	14	[湖岸より]<353>湖岸の水田近世から大きく発達 下松孝秀専門員	中日新聞
9	19	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<38>プラスチック製エビタツベ 需要に合わせて「改造」も 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
9	25	湖国情報ニュースアプリで スマートニュースの画像	京都新聞
9	27	[美術館・博物館]ビワマスと仲間たち 案内	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
9	27	[展覧会]企画展示 海を忘れたサケーピワマスの謎に迫るー 案内	読売新聞(しが県民情報)
9	28	琵琶博来館者 1100 万人大阪の神崎さんに記念品	京都新聞
9	28	[湖岸より]<354>地球上に生命 何種存在するか ロビン・スミス専門学芸員	中日新聞
9	28	[滋賀プラス1]新聞版「人と魚の歴史学」記念講演会 篠原徹名誉館長、橋本道範専門学芸員、金尾滋史主任学芸員、田畑諒一学芸技師 案内	読売・毎日・京都・産経新聞
9	29	[滋賀プラス1]新聞版「人と魚の歴史学」記念講演会 篠原徹名誉館長、橋本道範専門学芸員、金尾滋史主任学芸員、田畑諒一学芸技師 案内	中日新聞
9	30	[滋賀プラス1]新聞版「人と魚の歴史学」記念講演会 篠原徹名誉館長、橋本道範専門学芸員、金尾滋史主任学芸員、田畑諒一学芸技師 案内	朝日新聞
10	1	[びわ博こだわり展示の裏話]<49>琵琶湖の生い立ちを紹介 地層で当時の環境理解 里口保文総括学芸員	毎日新聞
10	2	琵琶博来館者 1100 万人大阪の神崎さん 高橋啓一館長より認定書など贈られる	読売新聞
10	3	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<39>船名板 比良の産物 湖東へ運び 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
10	4	コイの養殖 8000 年の歴史 世界最古 中国の集落跡に骨 中島経夫名誉学芸員のコメント	朝日新聞(夕刊)
10	4	[美術館・博物館]ピワマスと仲間たち 案内	毎日新聞
10	5	8000 年前中国コイ養殖 琵琶湖博物館など発見 中島経夫名誉学芸員の話	毎日新聞
10	5	琵琶湖博物館発表 8000 年前の中国でコイ養殖可能性 世界最古か稲作以前から 中島経夫名誉学芸員の話	京都新聞
10	5	世界最古コイ養殖 琵琶湖博物館中島経夫名誉学芸員らの研究グループ中国で確認	中日新聞
10	6	8000 年前にコイ養殖 琵琶博など発表 中国で出土の歯分析 中島経夫名誉学芸員の話	読売新聞
10	6	[琵琶湖の魚たち]ピワコガタスジシマドジョウ 琵琶、近江の名を有するドジョウ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
10	9	[なるほドリ]ピワマスの生態はどこまでわかっているの?企画展示「海を忘れたサケーピワマスの謎に迫るー」案内 桑原雅之総括学芸員の話	毎日新聞
10	9	県立琵琶湖博物館で企画展 ピワマスの謎に迫る 桑原雅之総括学芸員の話	産経新聞
10	11	[美術館・博物館]ピワマスと仲間たち 案内	毎日新聞
10	12	[湖岸より]<355>はしかけ「虫架け」の活動 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
10	12	大津祭宵宮は中止 台風 19 号 JR など計画運休も 県立琵琶湖博物館は臨時休館	朝日新聞
10	15	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「海を忘れたサケーピワマスの謎に迫るー」)	朝日新聞(夕刊)
10	16	人と湖魚の歴史紹介「文化との関わり感じて」 琵琶湖博物館学芸員らによる記念講演	京都新聞
10	17	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<40>養 すぐ乾く雨具、前掛けも 渡部圭一主任学芸員 / 即位儀式合わせ 県、琵琶湖博物館 4 施設無料開放	京都新聞
10	17	[現代のことば]知られざる湖魚料理 ジョッキ 篠原徹名誉館長	京都新聞(夕刊)
10	18	[美術館・博物館]ピワマスと仲間たち 案内	毎日新聞
10	18	[遊覧選]市民大学講座「琵琶湖の生い立ち」講師里口保文総括学芸員開催案内	中日新聞
10	19	即位礼あわせ慶祝行事 県内神事や施設無料開放 琵琶湖博物館など	産経新聞
10	22	[びわ博こだわり展示の裏話]<50>鉱物や化石を楽しむ地域の人々 調査や標本への思い届け 里口保文総括学芸員	毎日新聞
10	22	キャッシュレス決済 京都府の施設進まず 琵琶湖博物館など県立 3 施設は未対応	京都新聞
10	22	一部の琵琶湖博物館など公立施設 きょう無料開放	朝日新聞
10	22	施設無料開放や記帳所 琵琶湖博物館など県内各地	読売新聞
10	25	[美術館・博物館]ピワマスと仲間たち 案内	毎日新聞
10	26	[湖岸より]<356>型破りな台風 思わぬ置き土産 中井克樹専門学芸員	中日新聞
10	29	市民劇一から創り上げ 脚本・演出プロに頼らず 出演者の少年少女がブナ原生林や琵琶湖博物館を見学	読売新聞
10	31	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<41>ワカサギ小糸網 丈短く改造真冬の湖底 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
11	1	[美術館・博物館]ピワマスと仲間たち 案内	毎日新聞
11	3	「ゾウと言えば忠類」へ研究第一人者高橋館長が講演	十勝毎日新聞
11	4	忠類で発掘ナウマンゾウ化石 50 年伝え続けた意義強調 滋賀の琵琶湖博物館高橋館長講演	北海道新聞
11	5	改装で今月下旬閉鎖の琵琶博展示室 撤去の物品見納めツアー 橋本道範専門学芸員唐橋模型など解説	京都新聞
11	5	ナウマンゾウ“闊歩”「掘れば出る」忠類の価値証明 高橋啓一館長のコメント	十勝毎日新聞
11	8	[美術館・博物館]ピワマスと仲間たち 案内	毎日新聞
11	9	[湖岸より]<357>これで見納め A・B 展示 橋本道範専門学芸員	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
11	10	[琵琶湖の魚たち]大きな口と頭 コワオモテのハス 松岡由子学芸員	産経新聞
11	13	[現代のこぼれ]嵐山のニホンザル 篠原徹名誉館長	京都新聞(夕刊)
11	14	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<42>一本釣 竿ごと水中に立てる 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
11	15	[美術館・博物館]ピワマスと仲間たち 案内	毎日新聞
11	16	琵琶湖保全+民間誘致でにぎわい創出 南湖周辺(矢橋帰帆島、琵琶湖博物館周辺)活用エリアに 県、湖岸に3区分設定へ	京都新聞
11	19	[びわ博こだわり展示の裏話]<51>普段は見られない史料紹介 収蔵庫のぞいてみよう 橋本道範専門学芸員	毎日新聞
11	22	琵琶湖の生物、昔の資料で 野洲市歴史民俗博物館「人と魚の歴史学」で田畑諒一学芸技師の講演会 / [美術館・博物館]ピワマスと仲間たち 案内	毎日新聞
11	23	[湖岸より]<358>フィールドワークから得られるもの 榎永一宏専門学芸員	中日新聞
11	28	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<43>両口タツベ 堅型を横に効率上げる 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
11	29	[美術館・博物館]2020 干支展 ねずみ!子!ネズミ!! 案内	毎日新聞
11	30	[湖岸より]<359>バイカルアザラシの繁殖 松岡由子学芸員	中日新聞
12	3	[びわ博こだわり展示の裏話]<52>魚の冬の過ごし方 水槽の中を観察しよう 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
12	5	アザラシの「マリ」死ぬ 琵琶博妊娠中の腎不全原因か 担当者のコメント <写真資料提供:『バイカルアザラシ「マリ」』>	読売新聞
12	5	さよならマリ 琵琶湖博物館 <写真資料提供:『バイカルアザラシ「マリ」』>	朝日新聞
12	5	バイカルアザラシ1頭死ぬ 琵琶湖博物館メスのマリ、来館者に人気 担当者のコメント <写真資料提供:『バイカルアザラシ「マリ」』>	中日新聞
12	5	バイカルアザラシ急性腎不全で死ぬ 琵琶湖博物館 <写真資料提供:『バイカルアザラシ「マリ」』>	京都新聞
12	6	アザラシ「マリ」死ぬ 琵琶湖博物館の話と担当者のコメント <写真資料提供:『バイカルアザラシ「マリ」』> / [美術館・博物館]2020 干支展 ねずみ!子!ネズミ!! 案内	毎日新聞
12	6	バイカルアザラシ天国へ 琵琶湖博物館の「マリ」妊娠で急性腎不全か 担当者のコメント <写真資料提供:『バイカルアザラシ「マリ」』>	産経新聞
12	8	[琵琶湖の魚たち]3種に分かれたカマツカ 田畑諒一学芸技師	産経新聞
12	10	環境に優しい農業理解を 湖南省関係者「魚のゆりかご」視察 琵琶湖博物館などの訪問や県庁での研修会	京都新聞
12	12	インドネシア議員琵琶湖の保全学ぶ 県庁と琵琶湖博物館を訪問	中日新聞
12	12	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<44>ハリカゴ 総延長1キロ超 延縄収め 三樹友梨香囀託員 / 琵琶湖の保全対策視察インドネシアの議員ら来県 琵琶湖博物館も、目撃	京都新聞
12	13	[美術館・博物館]2020 干支展 ねずみ!子!ネズミ!! 案内	毎日新聞
12	14	[湖岸より]<360>専門を超えた研究交流の醍醐味 亀田佳代子上席総括学芸員	中日新聞
12	17	[びわ博こだわり展示の裏話]<53>暗闇になると現れる「琵琶湖の主」 悠々と泳ぐオオナマズ 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
12	20	[美術館・博物館]2020 干支展 ねずみ!子!ネズミ!! 案内	毎日新聞
12	22	泳ぐサンタさん 琵琶湖博物館	読売新聞
12	22	サンタが泳いでやってきた♪ 琵琶湖博物館トンネル水槽に登場	朝日新聞
12	22	スイスイサンタ琵琶湖博物館	毎日新聞
12	22	サンタさんお魚とスイスイ 琵琶湖博物館水槽で今年も	中日新聞
12	22	[私の京都新聞評]被害者傷つける取材望まず 高橋啓一館長	京都新聞
12	23	琵琶湖博物館など地方創生相が視察	読売新聞
12	23	水中のメリーXマス 琵琶博	京都新聞
12	24	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「2020 干支展 ねずみ!子!ネズミ!!」)	朝日新聞(夕刊)
12	26	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<45>クサリ 漁師と地曳網をつなぐ 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
12	29	湖国1年のニュース(下) 人気者だったバイカルアザラシのマリが死ぬ	朝日新聞
12	31	湖国この1年ニュース(2019) 琵琶湖博物館でバイカルアザラシ「マリ」が死亡	京都新聞
1	4	ひろがれネズミのイメージ びわ博 えとにちなみ特別展 金尾滋史主任学芸員の話	毎日新聞
1	5	滋賀のネズミ チュー目 琵琶湖博物館えとにちなみ展示	京都新聞
1	5	古今東西ネズミ集合 県立琵琶湖博物館で企画展	中日新聞
1	6	子年にちなんでネズミたち紹介 県立琵琶湖博物館	朝日新聞
1	6	[近江のFUJIYAMA]<3>古くから信仰の対象 御上神社の「神体山」今も続く山上祭 橋本道範専門学芸員の話 <写真資料提供:『琵琶湖真景図』>	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
1	9	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑] <46>板図 船大工の頭中の「設計図」 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
1	10	[美術館・博物館]2020 干支展 ねずみ!子!ネズミ!! 案内	毎日新聞
1	10	[Event & Stage]2020 干支展 ねずみ!子!ネズミ!! 案内	読売新聞
1	10	[びわ博の研究・活動を紹介]生き物や自然楽しく学ぶ 榎永一宏専門学芸員の話	読売新聞(しが県民情報)
1	11	[湖岸より] <361>恐る恐る自然と向き合う 高橋啓一館長	中日新聞
1	14	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「2020 干支展 ねずみ!子!ネズミ!!」)	朝日新聞(夕刊)
1	15	いろいろいる子 琵琶湖博物館 カヤネズミ剥製/近江八幡・ねずみ岩パネル	読売新聞
1	17	[美術館・博物館]2020 干支展 ねずみ!子!ネズミ!! 案内	毎日新聞
1	17	アケボノゾウ全身骨格出土の多賀町「古代ロマン」の夢つなぐ 琵琶湖博物館などの協力で立ち上げた「古代ゾウ発掘プロジェクト」 / [展覧会]ギャラリー展示「トンボ100大作戦 -滋賀のトンボを救え-」	読売新聞(しが県民情報)
1	18	タガメ売買禁止に 趣味の採集規制外 <写真資料提供:『タガメ』>	読売新聞(東京)
1	18	タガメ売買禁止へ 趣味の採集はOK <写真資料提供:『タガメ』>	読売新聞(夕刊)
1	18	地球史に「チバニアン」 日本初、千葉の地層から 77 万~12 万年前名前を正式発表	京都新聞(夕刊)
1	19	[琵琶湖の魚たち]湖国の湧き水のシンボル ハリヨ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
1	20	湖国のトンボ守ろう 琵琶博で企画展 75 種の写真 生態紹介	京都新聞
1	20	[現代のことば]「鶴飼」 篠原徹名誉館長	京都新聞(夕刊)
1	21	[びわ博こだわり展示の裏話] <54>ネズミにまつわる滋賀のおはなし 古来から身近な生き物 中村久美子主任学芸員	毎日新聞
1	23	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑] <47>田船 農作業や漁 身近な足 渡部圭一主任学芸員 / [凡語]「生物多様性びわ湖ネットワーク」の企画「トンボ100大作戦」が琵琶湖博物館で開催	京都新聞
1	24	[美術館・博物館]トンボ100 大作戦 -滋賀のトンボを救え- 案内	毎日新聞
1	25	[湖岸より] <362>DNA が物語る魚の歴史 田畑諒一学芸技師	中日新聞
1	26	[私の京都新聞評]地方が輝く具体的方法を 高橋啓一館長	京都新聞
1	31	[美術館・博物館]トンボ100 大作戦 -滋賀のトンボを救え- 案内	毎日新聞
2	1	[湖岸より] <363>リニューアルイヤーの学芸員のお正月 渡部圭一主任学芸員	中日新聞
2	4	[びわ博こだわり展示の裏話] <55>希少淡水魚の保全と保護増殖センター 絶滅危機の40 種を飼育 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
2	6	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑] <48>ウナギ筒 シンプルに竹を束ね 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
2	7	[美術館・博物館]トンボ100 大作戦 -滋賀のトンボを救え- 案内	毎日新聞
2	8	人生50 年節目のイナズマ 西川貴教さん琵琶湖博物館がお気に入り	毎日新聞
2	8	イナズマロックから寄付金「ポン」 西川さんは、草津市役所を訪問し琵琶湖博物館について SNS で発信した翌日に六千人が来館したエピソードを紹介	中日新聞
2	14	[美術館・博物館]トンボ100 大作戦 -滋賀のトンボを救え- 案内	毎日新聞
2	15	[湖岸より] <364>移り変わる大地 里口保文総括学芸員	中日新聞
2	16	[琵琶湖の魚たち]ワカサギ、実は国内外来種 片岡佳孝主任主査	産経新聞
2	20	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑] <49>サデ網 濁流の魚 待ち続ける 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
2	23	[私の京都新聞評]少数や反対意見報道を 高橋啓一館長	京都新聞
2	24	ゾウの骨格模型など展示物一足早く体感 琵琶博改修中エリア 金尾滋史主任学芸員の「コメント」 <写真資料提供:『コウガゾウの骨格模型』>	読売新聞
2	24	「貫頭衣」体験ばしゃり 琵琶湖博でリニューアル先取り展示	京都新聞
2	28	濃厚接触者を健康観察 新型肺炎 県、50 歳代男性感染受け琵琶湖博物館が28 日からの臨時休館を発表	読売新聞
2	28	新型肺炎 広がる影響 琵琶湖博物館も休館	朝日新聞
2	28	新型肺炎 休館や延期、各地で影響 琵琶湖博物館は、28 日~3 月16 日は全館休館	毎日新聞
2	28	京滋イベント中止続々 琵琶湖博物館は、2 月28 日~3 月16 日休館	京都新聞
2	28	琵琶湖博物館きょうから休館 期間中に予定していたイベントも中止	中日新聞
2	29	[湖岸より] <365>繰り返す気候と森の物語 林竜馬主任学芸員 / 新型肺炎感染男性の県内家族陰性 三日月大造知事が県主催のイベントの原則中止や延期にすることや県立博物館の休館を明らかに	中日新聞
3	3	[びわ博こだわり展示の裏話] <56>時代境界の基準になった火山灰層 堅田丘陵も「チバニアン」 里口保文総括学芸員	毎日新聞
3	5	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑] <50>大型ドンジョフミ 湯水時手で魚追い込む 三樹友梨香囀託員	京都新聞
3	7	自宅待機の子に学習応援番組 びわ湖放送12、19、26 日に 第1回は琵琶湖博物館	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	9	湖国の施設見学気分分校中に楽しんでね びわ湖放送が制作 12日から琵琶博など	京都新聞
3	9	「丸子舟」進化見て 原寸大断面模型 琵琶湖博物館常設展示へ	産経新聞
3	10	一斉休校で特別番組 びわ湖放送子どもたちに 12日は琵琶湖博物館「日本最大の淡水湖・びわ湖の歴史と生き物たち」	朝日新聞
3	10	琵琶湖を守ろう外来魚駆除大会、来月26日琵琶湖博物館近くで開催	毎日新聞
3	13	県立施設休館 原則24日まで 琵琶湖博物館など3施設の休館を延長	朝日新聞
3	13	[現代のことば] 鬼室集斯 篠原徹名誉館長	京都新聞(夕刊)
3	14	びわ湖放送が学習支援施設訪問者目線での番組作り 12日は「びわ湖を学ぼう」のテーマで琵琶湖博物館を訪ねる	毎日新聞
3	14	[湖岸より]<366>龍の棲む国、近江 妹尾裕介学芸員	中日新聞
3	14	[天声人語]琵琶湖の真珠 松田征也総括学芸員の話	京都新聞
3	15	[琵琶湖の魚たち]アマゴ、ビワマスと共存の謎 桑原雅之総括学芸員	産経新聞
3	17	[びわ博こだわり展示の裏話]<57>臨時休館中の博物館から発信 ネット動画を楽しんで 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
3	19	[ニュースの門@滋賀]<木>琵琶湖環境編 増えた水草ガラス作品に なぜ大量繁茂するのか 芳賀裕樹総括学芸員	読売新聞
3	19	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<51>コールタール鍋 役割転用 生活見届け 渡部圭一主任学芸員	京都新聞
3	20	動画で学びを応援 県がプログラムを開始 楽しめる本、体力アップの運動紹介も 休館中の琵琶湖博物館も「おうちミュージアム」に参加	中日新聞
3	22	ヌートリア作物被害深刻 高い繁殖力目撃情報急増 中村久美子主任学芸員の話	読売新聞
3	22	[私の京都新聞評]科学記事 朝刊も掲載を 高橋啓一館長	京都新聞
3	24	新型コロナ禍と闘う 企業支援など7億7000万円 県立施設の休館やイベントの中止などによる対応費用に、約1億円を盛り込む	中日新聞
3	25	県施設きょうから開館 新型コロナ感染防止策取り順次 琵琶湖博物館は31日まで休館を続ける	朝日新聞
3	28	[湖岸より]<367>琵琶湖を取り巻く森のものがたり 山川千代美上席総括学芸員 / 学習船模型の展示台使って 八幡工業高生が県教委に送る 九月から琵琶湖博物館で展示	中日新聞
3	31	[びわ博こだわり展示の裏話]<58>おうちミュージアムインびわ博 ネット使って各地巡ろう 鈴木隆仁学芸員	毎日新聞
3	31	新型コロナ 琵琶博休館を継続 消毒薬確保できず	読売新聞
3	31	臨時休館を延長 琵琶湖博物館 担当者のコメント / 来月から新企画「ミクロの世界から びわ博セレクション」	京都新聞

5) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	ギャラリー展示「琵琶湖 漁具図鑑」の紹介	(関西・中国・四国) じゃらん5月号
4	[特集]「琵琶湖博物館第2期リニューアル！」(1)「樹冠トレイル」について 林竜馬主任学芸員 (2)「おとなのディスカバリー」について 榎永一宏専門学芸員 (3) ディスカバリールームのリニューアルについて 中村久美子主任学芸員 / [新撰 淡海木間撰]<75>縄文時代のスギ埋没木 林竜馬主任学芸員 / [催し案内]ギャラリー展示「琵琶湖 漁具図鑑—魚つかみの道具のヒミツ」の案内	Duet 2019 春 vol.131
4	国内最大級の淡水生物展示 琵琶湖博物館の紹介 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	水族館びあ(全国版)
4	見どころ満載の草津 友達や家族と草津を楽しもう!! 琵琶湖博物館の案内	KuSaTsu 観光ガイドマップ-びわ湖・草津-
4	『出会いバス巡回ルート』琵琶湖博物館の案内	藤と日本遺産を巡る「出会いバス MAP」2019.5.3~5
4	続々リニューアル!進化を続ける博物館 琵琶湖博物館の案内	まっぶる滋賀びわ湖(長浜・彦根・大津)'20
4	[マンガ・武道のすすめ]日置流弓術の地・竜王町 琵琶湖博物館A展示室の紹介と近江の弓を使った神事の紹介 渡部圭一主任学芸員	月刊武道
4	連休中の主な窓口対応と開所状況 県立施設 琵琶湖博物館	滋賀報知新聞 (4/25)
4	しが棚田ボランティア参加者募集中!「しが棚田トラスト制度」寄附特典として10,000円以上で琵琶湖博物館観覧券を贈呈	しが棚田ボランティア(2019.4~7)チラシ
5	2期リニューアル 国内初、大人も楽しめるリアルな知的空間 琵琶湖博物館の紹介	展示学57

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
5	母なる水滋賀県 高島市、大津市、草津市 ドライブガイド琵琶湖博物館の案内	JAF MATE 2019.5月号
5	コンシェルジュがオススメするここから滋賀旅 びわ湖 400 万年の歴史を体感 琵琶湖博物館の紹介	SHIGA'S GUIDE 2019.6
5	伊藤忠商事 琵琶湖博物館リニューアルへ寄付 / [琵琶湖博物館の催し] 「石ころ de アート!」 「みんなで湖魚料理をつくろう! (コアユ・シジミ編)」案内	滋賀報知新聞 (5/23)
5	特集: 琵琶湖博物館 弁財天とビワコオオナマズ / 様々な視点で捉える 「魚と人との関わり」 金尾滋史主任学芸員 / 琵琶湖にしかない生き物 ~固有種~ 田畑諒一学芸技師 / ビワコオオナマズグッズプレゼント	どうぶつのくに
5	びわ湖に棲む生き物ってこんなにいっぱいいるんだね 琵琶湖博物館の紹介	じゃらん家族旅行 (関西・東海・中国・四国版) 2019
5	樹冠トレイルの展望デッキから鳥のさえずりを聞きながら広大なびわ湖を楽しめる 琵琶湖博物館の紹介	Cheki pon 5月号 vol.148
5	「人と湖」をテーマに、琵琶湖の生い立ち・人と生き物とのかかわりについて学べる琵琶湖博物館の案内	ときわ歴史ふれあいマップ
6	企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」、水族企画展示「ビワマスと仲間たち」 / 「希望が丘自然観察会 (夏のトンボと昆虫)」「ナイトミュージアム」「初心者のためのふなずし作り体験」の案内	博物館研究 vol.54 No.7 (No.613号)
6	企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」、水族企画展示「ビワマスと仲間たち」、「ドキ土器!おしゃれもようを楽しもう!」「七夕☆短冊に願い事をかこう!」「みんなで「かいこ絵日記」をつくろう!」サイエンスセミナー第3回「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」「希望が丘自然観察会 (夏のトンボと昆虫)」「季節の植物でアロマウォーターを作ろう!」「生活実験工房たんぼ体験 (7月)」	れいかる (湖国文化情報) 7・8月号 vol.111
6	「初心者のためのふなずし作り体験」「わくわくお宝探し (展示室探検)」「琵琶湖を歩こう!」「マイナス 80 度から生還した微小生物」の案内	れいかる (湖国文化情報) 7・8月号 vol.111
6	琵琶湖博物館へ行こう!企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」「ナイトミュージアム」水族企画展示「ビワマスと仲間たち」「希望が丘自然観察会 (夏のトンボと昆虫)」「季節の植物でアロマウォーターを作ろう!」「みんなで「かいこ絵日記」をつくろう!」「生活実験工房たんぼ体験 (昆虫採集)」「初心者のためのふなずし作り体験」「琵琶湖を歩こう!」「下物ビオトープ生物観察会」の案内 びわ活!スタンプラリー	2019年この夏!びわ活!
6	空中遊歩道から望む琵琶湖の水景色 琵琶湖博物館の紹介	東海ウォーカー 2019.7月号
6	琵琶湖の歴史と人を繋ぐ水族館 琵琶湖博物館の紹介	中村元の全国水族館ガイド
6	一度は訪れてみたい皇室ゆかりの地 平成 24 年、天皇陛下が皇太子時代にご視察されました、滋賀県立琵琶湖博物館	赤い風船皇室ゆかりの宿 (7~10月) チラシ
7	[琵琶湖博物館の催し]「ナイトミュージアム」「初心者のためのふなずし作り体験」の案内	滋賀プラス 1 (県広報誌) 7・8月号 vol.180
7	企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」、水族企画展示「ビワマスと仲間たち」 / 「わくわくお宝探し (展示室探検)」「下物ビオトープ生物観察会」「マイナス 80 度から生還した微小生物」の案内	博物館研究 vol.54 No.8 (No.614号)
7	ファミリー de 夏旅「湖と人間」がテーマの体験型博物館 / アニマルのパラダイス 琵琶湖に棲む生きものを間近で観察 琵琶湖博物館の案内	まっぶる家族でおでかけ夏休み号
7	発見しよう!体感しよう!琵琶湖の生き物 琵琶湖博物館の紹介 金尾滋史主任学芸員 / [イベント情報]「みんなで『かいこ絵日記』をつくろう!」「ナイトミュージアム」「わくわくお宝探し (展示室探検)」の案内 / 入場無料券プレゼント	まま・ここっと 2019 夏号 vol.12
7	楽しい夏休みのエコ体験「ナイトミュージアム」の案内 / ちょっとそこまで」おでかけ特集「ナイトミュージアム」「わくわくお宝探し (展示室探検)」「みんなで『かいこ絵日記』をつくろう!」の案内 /	広報くさつ (7/1・15) No.1222・1223
7	[特集]多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト (協力: 琵琶湖博物館) 第 7 次発掘調査 / [催し案内]企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」、水族企画展示「ビワマスと仲間たち」	Duet 2019 夏 vol.132
7	琵琶湖を知ろう 琵琶湖博物館 / [博物館スタンプラリー]企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」	博物館夏祭り チラシ
7	ミシガンびわ湖ミュージアム (企画協力: 琵琶湖博物館) クルーズの前後にもっとびわ湖を学ぼう!	びわ湖クルーズ 夏 琵琶湖汽船パンフレット

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
7	知っているようで、意外と知らない！？滋賀県のこんなコト 琵琶湖の魚編 (取材協力：琵琶湖博物館)	ザ・スタイル、くるくるマガジン (滋賀トヨタ・ネットトヨタ滋賀情報誌) 2019 夏号
7	琵琶湖をほぼ一周して、日本の魚の世界を覗く 琵琶湖博物館の出口から、湖へと繰り出そう 琵琶湖の魚はおいしいぞ！ 金尾滋史主任学芸員	(月刊) アクアライフ No. 481
7	空中遊歩道「樹冠トレイル」から琵琶湖を展望しよう！琵琶湖博物館の紹介	さらさ (2019 夏号) No. 106 (滋賀県土木交通部流域政策局情報誌)
7	琵琶湖博物館の案内 オリジナル絵はがきプレゼント	ホンダ 得トクパスポートなび三重北水シンポジウム 2019in しが チラシ
7	～琵琶湖の治水・利水・環境巡り～ 琵琶湖博物館見学	ポップリード 2019.8 vol.108
7	ポップリード編集部の夏休み 琵琶湖博物館の案内 金尾滋史主任学芸員	COOL SHIGA (Cultral information guide) vol. 4
7	企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」の案内	滋賀民報 (7/21)
7	[湖国の人]楽しいことが基本です 暮らしの中に博物館を 高橋啓一館長	充実 (さんぎん充実友の会会報) summer 40号
7	遙かな時を抱くー琵琶湖 琵琶湖博物館の紹介	
8	企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」、水族企画展示「ビワマスと仲間たち」 / 「田んぼ体験 (9月)」「葉っぱの形に注目しよう！」「顕微鏡で観察しよう プラクトンでビンゴ」の案内	博物館研究 vol.54 No.9 (No.615号)
8	[ズームアップ]企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」 / 水族企画展示「ビワマスと仲間たち」 / 「葉っぱの形に注目しよう！」「プラクトンを見よう！」「田んぼ体験 (9・10月)」「顕微鏡で観察しよう プラクトンでビンゴ」「はしかけ登録講座」「びわ博フェス2019」	れいかる (湖国文化情報) 9・10月号 vol.112
8	湖に暮らす生きものたちと出会う 琵琶湖博物館の紹介	動物園&水族館完全ガイド
8	国内最大級の淡水水族展示で琵琶湖の魚の魅力を知る 琵琶湖博物館の紹介	カーサブルータス 9月号
8	大人も楽しめる自由研究イベントガイド (全国版) 琵琶湖博物館のイベント紹介	女性セブン 8/29号
8	淡水魚やバイカルアザランも！博物館の枠を超えた多彩な展示 琵琶湖博物館の案内	関西ウォーカー No.18 (8/10～27)
8	県立琵琶湖博物館 ビワマスの謎に迫る企画展	滋賀報知新聞 (8/22)
8	琵琶湖博物館の案内	MINAMIKUSATU LIFE (「フラインレジデンス南草津」情報誌)
9	[催し・講座]企画展示関連シンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」の案内	滋賀プラス1 (県広報誌) 9・10月号 vol.181
9	[催し・講座]企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」、「田んぼ体験 (10月)」の案内	博物館研究 vol.54 No.10 (No.616号)
9	淡水魚の伝統料理！ふなずしを作ってみよう 取材協力：琵琶湖博物館 <写真資料提供：『ふなずし』>	(月刊) アクアライフ No.483
9	豊饒の美味、琵琶湖 琵琶湖博物館の紹介	ひととき 10月号
9	“学びの秋”に訪れたい近畿の博物館 琵琶湖博物館の紹介	「道の駅」旅案内 (近畿版) 秋冬号
9	琵琶湖博物館常設展示ペア招待券プレゼント	教育しが 10月号 No.74
9	琵琶湖博物館の紹介	びわ湖おでかけマップ 2019 秋
9	ご公務等でご訪問された“ゆかりの地”をご紹介します。平成24年、天皇陛下が皇太子時代にご視察されました、滋賀県立琵琶湖博物館	赤い風船皇室ゆかりの地を巡る 京都・滋賀・奈良 (’19.10～’20.1)
9	学びの秋！琵琶湖の自然と生き物を体感！琵琶湖博物館招待券プレゼント	[月刊]こんきくらぶ (彦根 地域みっちゃん生活情報誌) 2019.10 (vol.174)
9	学びの秋！琵琶湖の自然と生き物を体感！琵琶湖博物館招待券プレゼント	ぼてじゃこ倶楽部 (長浜・米原 地域みっちゃん生活情報誌) 2019.10 (vol.149)
9	学びの秋！琵琶湖の自然と生き物を体感！琵琶湖博物館招待券プレゼント	オウティ [近江八幡版] [東近江版] (近江八幡版・東近江 地域みっちゃん生活情報誌) 2019.10 (vol.83)
9	学びの秋！琵琶湖の自然と生き物を体感！琵琶湖博物館招待券プレゼント	びわこと [南部版] (大津 地域みっちゃん生活情報誌) 2019.10 (vol.34)
9	学びの秋！琵琶湖の自然と生き物を体感！琵琶湖博物館招待券プレゼント	湖南フリモ [草津版] [栗東版] [守山 野洲版] (草津 守山 栗東 野洲 地域みっちゃん生活情報誌) 2019.10 (vol.13)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
10	企画展示「海を忘れたサケーピワマスの謎に迫る」、水族企画展示「ピワマスと仲間たち」の案内	博物館研究 vol.54 No.11 (No.617号)
10	リニューアル工事に伴いA・B展示室を閉館 企画展示「海を忘れたサケーピワマスの謎に迫る」、A展示室クロージング展示「地域の人々による展示コーナー『鉱物・化石のよもやま話』」 / みんなで湖魚料理をつくろう！(秋のプレミアム編)の案内	れいかる(湖国文化情報) 11・12月号 vol.113
10	「びわ博フェス2019」の案内	滋賀報知新聞 (10/10)
10	琵琶湖博物館の紹介	いんどり通信(滋賀日産とお客様のコミュニケーション情報誌) (vol.174)
10	琵琶湖博物館リニューアル3期工事で来月閉鎖 見納め近づく！A・B両展示室	滋賀民報 (10/20)
10	琵琶湖博物館へ行こう！ 琵琶湖博物館の案内	Leaf 12月号 京都町屋でごはん
11	[催し・講座]企画展示「海を忘れたサケーピワマスの謎に迫る」	滋賀プラス1(県広報誌)11・12月号 vol.182
11	「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」「綿にふれてみよう！」「はたきをつくろう！」「田んぼ体験(12月)」の案内	博物館研究 vol.54 No.12 (No.618号)
11	企画展記念講演会「DNAからみた琵琶湖の魚たちの歴史-湖魚奇観の魚を中心に-」田畑諒一芸技師	広報やす
11	「滋賀号」発売後に完成した必見の展示室 琵琶湖博物館の紹介	ロングライフデザイン(2019.6-9)No.1
11	家族で楽しめる♪琵琶湖博物館の12月のイベントをチェック!!「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」「綿にふれてみよう！」「はたきをつくろう！」「田んぼ体験(しめ縄づくり)」	パリュッシュ vol.251
11	西川貴教氏リニューアルした琵琶湖博物館に来館	ターボ・エクスプレス(西川貴教オフィシャルファンクラブ情報誌) vol.142
11	400万年かけて30kmも大移動した琵琶湖 <写真資料提供:『化石林』> 琵琶湖博物館の案内	日本列島2500万年史
11	リニューアルした琵琶湖博物館へ行ってみよう！ 琵琶湖博物館の紹介	Leaf(滋賀・京都)家族でおでかけ1月号
12	「水鳥を観察しよう！」の案内	博物館研究 vol.55 No.1 (No.619号)
12	A・B展示室閉室のお知らせ 2020干支展「ねずみ！子！ネズミ！！」、ギャラリー展示「トンボ100大作戦 -滋賀のトンボを救え-」 / 「新琵琶湖学セミナー(全3回)」「人間コマでダムすごろく！」「水鳥を観察しよう！」「骨にふれてみよう！」「田んぼ体験(わら細工)」「森の宝物をさがそう！」「節分☆オニのお面をつくろう！」「おひなさまをつくろう！」の案内	れいかる(湖国文化情報) 1・2月号 vol.114
12	琵琶湖博物館の紹介	滋賀・びわ湖魅力発信パンフレット(アジア向け)
12	[琵琶湖博物館のイベント情報(1月)]2020干支展「ねずみ！子！ネズミ！！」「人間コマでダムすごろく！」「森の宝物をさがそう！」「節分☆オニのお面をつくろう！」、新琵琶湖学セミナー「湖の400万年と私たち -変わる大地・気候・生き物-」(全3回)の案内	滋賀報知新聞 (12/26)
1	[催し・講座]新琵琶湖学セミナー「湖の400万年と私たち -変わる大地・気候・生き物-」(全3回)の案内	滋賀プラス1(県広報誌)1・2月号 vol.183
1	トンボ100大作戦 -滋賀のトンボを救え- / 「骨にふれてみよう！」「田んぼ体験(わら細工)」の案内	博物館研究 vol.55 No.2 (No.620号)
2	A・B展示室閉室のお知らせ / 「はしかけ登録講座」「からすま半島でトンボを調べよう」「里山体験教室(全4回)」「お魚モビルを作ろう！」、新琵琶湖学セミナー「湖の400万年と私たち -変わる大地・気候・生き物-」の案内	れいかる(湖国文化情報) 3・4月号 vol.115
2	「お魚モビルを作ろう！」「新琵琶湖学セミナー(全3回)」	博物館研究 vol.55 No.3 (No.621号)
2	琵琶湖について学べる体験施設 琵琶湖博物館の案内	こどもとおでかけ365日(関西版)
2	琵琶湖博物館はしかけグループ緑のくすり箱「あんもないとの石けんを作ろう」の案内	ルシオールアース&アートフェスティバル(守山市主催)チラシ
2	びわ博に行こう!! 琵琶湖博物館の案内	びわ湖レイクサイドマラソン2020大会プログラム
2	琵琶湖の生物と人の関わりを紹介 琵琶湖博物館の案内	旅の手帖 3月号
2	琵琶湖を学ぼう！ 琵琶湖博物館の案内	ポップリード 2020.3 vol.114

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
3	滋賀県の研究機関 琵琶湖博物館の紹介 / [催し・講座]「はしかけ登録講座」 「お魚モバイルを作ろう！」 / 琵琶湖博物館入館チケットプレゼント	滋賀プラス1 (県広報誌) 3・4月号 vol. 184
3	A・B展示室閉室のお知らせ / 「春の草花でしおりを作ろう！」 「プランクトンを見よう！」 「田んぼ体験 (5月)」 「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」 「みんなで湖魚料理をつくろう！ (コアユ・シジミ編)」 「カブトをつくろう！」 「七夕☆短冊に願い事をかこう！」 「はしかけ登録講座」の案内	れいかる (湖国文化情報) 5・6月号 vol. 116
3	琵琶湖博物館オリジナルポストカードプレゼント	おうみ戦国武将パスポート
3	グッジョブ！を引き出すこの一着 続・滋賀のお仕事制服 “赤と黒” に込めた思いとは 琵琶湖博物館展示交流員の制服	リビング滋賀 2020. 3. 28 1715号
3	アクティブ体験の草津 trip 鳥や昆虫の目線で森を歩こう 琵琶湖博物館の案内	「健康しが」を旅するハンドブック

(3) 予算

2019年度歳入 (円)

科目	決算額
使用料及び手数料	147,651,689
財産収入	0
諸収入	13,699,904
合計	161,351,593

2019年度歳出 (円)

事業名	事業内容	決算額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	523,413,982
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	115,721,672
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	295,246,818
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	12,855,770
環境学習推進費	環境学習センターの運営	2,779,861
合計		950,018,103

(4) 寄付など

126件 29,582千円

リニューアルサポーター	38件	22,261千円
水槽サポーター	44件	2,300千円
樹冠トレイルサポーター	8件	800千円
メンバーシップ	33件	2,792千円
キャンパスメンバーズ	3件	430千円

4 存在基盤の確立

(1) 琵琶湖博物館協議会

第1回

- 開催日時 2019年10月11日(金) 13:10～15:10
 場 所 琵琶湖博物館セミナー室
 議 題 ① 令和元年度の博物館活動について
 ② 新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画
 令和元年度取組状況について
 ③ 第3期リニューアルについて

第2回

- 開催日時 2020年3月4日(水) 13:10～15:15 (コロナ禍により書面開催)
 場 所 琵琶湖博物館セミナー室
 議 題 ① 令和元年度の博物館活動について
 ② 新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画について
 令和元年度取組状況について
 ③ 第3期リニューアルについて

第12期委員

(任期：2018年9月1日～2020年8月31日)

氏名	区分	現職 (平成31年3月現在)
山崎 賢	学校教育	草津市立老上小学校校長
下澤 辰次	学校教育	高島市立安曇川中学校校長
橋詰 純子	社会教育	カワセミ自然の会
鹿田 由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
菊池 玲奈	環境保全	結・社会デザイン事務所代表
中田 春美	文化財保護	近江歴史回廊倶楽部会員
土井 通弘	学識者	就実大学人文科学部表現文化学科教授
池田 千晶	学識者	中日新聞大津支局長
中坊 徹次	学識者	京都大学名誉教授
中川 毅	学識者	立命館大学 総合科学技術研究機構古気候学研究センター長 (教授)
稲垣 和美	その他	積水樹脂(株)評価・環境管理部安全・品質・環境グループ
田淵 千恵子	その他	手話通訳士
山本 勇造	その他	公募委員
高尾 裕貴子	その他	公募委員

(2) 企画・計画

1) 新琵琶湖博物館創造基本計画 行動計画

現在、琵琶湖博物館は平成32年(2020年)まで6年間に及ぶリニューアルの途上にある。このリニューアルによって琵琶湖博物館が目指すべき姿を示したものが平成26年(2014年)3月に策定した「新琵琶湖博物館創造基本計画」である。この計画の実現に向けて、具体的な達成目標と進捗計画を記した「新琵琶湖博物館行動基本計画 行動計画」を平成29年(2017年)3月に策定した。

計画は「常設展示の再構築」「交流空間・交流機能の再構築」「利用者の利便性・快適性を高める施設整

備」「多様な主体との連携」「広報・営業活動の強化」「資料を利用しやすい博物館への進化と飼育生物の計画的繁殖」「『湖と人間』の関係を考える研究の推進」の7つの柱からなり、全体で66の目標と、各年度における進捗目標を掲げている。

2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

2019年度は、年間を通じた切れ目のない広報や話題づくりにより、メディアへの露出を増やし、京阪神ファミリー層に訴求することで、県内ファミリー層への効果も狙った拡散性の高い取組を行うことを方針として広報を展開してきた。また、首都圏での情報発信として、「ここ滋賀」でのセミナーを開催した。

広報用チラシ・ポスターの配布、ホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問などを行ってきた。また、旅行業者を通して、学校や一般旅行者向けのパンフレットを作成した。従来の報道機関に加え、プレスリリースの配信・掲載サービスを利用した資料提供や、旅行誌やグルメショッピング情報誌・フリーペーパーを使った広告など、広域的な広報活動を行った。またインターネット・SNSの広告やWebメディアへの記事掲載等も行い、情報拡散にも力を注いだ。さらに第3期リニューアルに向けた期待感の創出のため、新たな話題の発信などの広報活動を行った。

新型コロナウイルス感染対策のため臨時休館となった3月以降は、自粛期間中でも自宅等で楽しく学べる「おうちミュージアム」によりホームページでの発信を強化した。

IV 2019年度をふり返って

1 研究部

琵琶湖博物館では、開館以来、研究活動は博物館の根幹であると位置づけ、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探る研究を行ってきた。2019年度は、引き続き2016年度に策定した新琵琶湖博物館創造基本計画の研究活動方針に沿って、行動計画の研究事業を進めた。具体的には、(1)琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進、(2)「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究、(3)「木から森へ」の博物館学の追求という三つの方向性を掲げ、2020年度までにそれらの研究を具体的に推進していくことを目指した。

新琵琶湖博物館創造基本計画の柱であり、開館以来20年以上に及ぶ研究成果の発信として、2019年度も引き続き第3期展示リニューアル、A・B展示室の更新準備を進めた。2020年度には、全ての常設展示室が更新され、グランドオープンを迎える予定である。

2019年度は、新たな総合研究を1件スタートさせた。「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」と題して、江戸時代末期から現在までの約150年間の琵琶湖とその集水域の様々な環境変遷を収集、整理し、種類の異なる情報間の関係を明らかにすることで、未来の湖と人との関わりについて検討するための情報セットを整備するというものである。本年度は準備段階として、共同研究者同士の情報共有と既存情報の確認を行った。2023年度まで継続し、次の展示更新につながる研究成果や資料・情報の収集を目指す予定である。

研究活動方針の1つである、琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など、東アジア水系の中での位置づけを明らかにする研究では、MOUを締結している韓国国立洛東江生物資源館との合同セミナーを、5月に韓国で行った。今回は、合同セミナーと合わせて、調査船による洛東江の見学などを行い、現地の環境や調査方法などを実際に目にすることができた。また今回は、企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」に関する展示や資料の交流についての打合せも行い、実際に企画展示では洛東江生物資源館から借用した韓国のサケマス類の標本や資料、画像などを展示することができた。

研究発信のひとつである第27回企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」は、7月20日から11月24日まで開催した。その関連行事として、一般財団法人全国科学博物館振興財団の助成を受け、9月14日にシンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」も開催した。このシンポジウムでは、ビワマスに関わる様々なジャンルの専門家の他、台湾海洋大学や国立台湾博物館の研究者も招いて開催され、すでに述べた韓国のサケマス類の展示とあわせて、国際的な視野から琵琶湖固有種ビワマスの位置づけや研究成果を比較することができた。

その他の研究発信としては、引き続き中日新聞連載コラム「湖岸より」への執筆や、琵琶湖博物館ブックレットシリーズの刊行を継続している。ブックレットについては、今年度は第10号「琵琶湖のまわりの昆虫」と第11号「ナマズの世界へようこそ」を発刊した。新琵琶湖学セミナーについては、リニューアルオープンするA展示室の新しいテーマ「湖の400万年と私たちー変わる大地・気候・生き物ー」をセミナーのタイトルとし、琵琶湖の生き物・大地・気候というテーマで最新の研究成果を紹介するとともに、現在の私たちの暮らしとの関係性についても伝えるセミナーとした。セミナーは、1月、2月、3月の3回に渡って、学芸員や外部研究者による6本の発表を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、残念ながら第3回は中止となった。第1回と第2回の参加者は、のべ130名だった。これ以外に、首都圏での発信として、東京・日本橋の滋賀県アンテナショップ「ここ滋賀」において、琵琶湖博物館サイエンスセミナーを、昨年度に引き続き2回実施した。

データで見ると、今年度の研究発信は、学術論文15件、専門分野の著述52件、一般向けの著述127件、学会発表は133件であった。研究成果の発信数は、ここ数年展示リニューアルに時間と労力がかかっているためか、論文数は低い水準にとどまっている。次年度のグランドオープン後は、研究環境を整え、次の展示更新や博物館活動への活用のために、より一層研究を推進していく必要がある。そのため、各学芸職員が研究専念日を週1日確保できるよう、年度初めに各自曜日を設定して実施できるようにしている。また、老朽化と故障により分析を行うことが難しくなっている大型研究備品について、新規購入の予算確保に努めた結果、故障し使えなくなったDNAシーケンサーを新たに購入することができた。引き続き、研究棟の空調設備の老朽化や故障などの課題も、改善の方向を探りたい。

県費による研究費が年々厳しくなる中で、文部科学省科学研究費補助金などの外部資金の獲得について、組織的に進めてきたが、今年度の科学研究費では3件の新規採択があり、継続を合わせて10件という結果となった。科学研究費以外の外部助成にも、引き続き積極的に応募し、研究費の確保を行っていく必要がある。また、今年度も21名の特別研究員を受け入れ、科研費申請も含めて学芸職員だけでは取り組めない幅広い分野の研究にも取り組むことができた。ただし、スペースの問題や、科学研究費への申請が可能な研究者番号の取得基準、博物館への研究成果の還元の方法などについては、さらに検討を進めて行く必要がある。

館外との研究交流については、県立の試験研究機関同士の連絡会議において交流が進み、各機関の研究者が関心を持つテーマの勉強会の開催が定着してきている。このような交流をきっかけとして、新たな共同研究の発展が期待される。

2 事業部

(1) 展示

第2期リニューアルまで整備を終えた博物館は、順調に来館者数を伸ばし、新型コロナウイルスの影響により臨時休館するまでは目標来館者数の50万人を越える勢いであった。第2期リニューアルは、「日本空間デザイン賞2019」に入選し、様々な形で外部から評価されている。第27回企画展示「海を忘れたサケ ピワマスの謎に迫る」は、ピワマスを琵琶湖生態系のシンボルとし、長年の研究の蓄積や最新の遺伝子研究の成果を踏まえ、ピワマスの生態や進化の過程を示すことで、この魚の貴重さについて紹介すると共に、同種が滋賀・京都の食文化の中で長年にわたって愛されてきたことを紹介した。また、生息環境の変化や、人間活動の変化によってこのピワマスにも種の存続の危機が迫っていることを紹介し、来場者の皆さんと共に持続可能な共存関係の構築の必要性について考えた。第31回水族企画展示「ピワマスと仲間たち」は、ピワマスの属するサクラマス群をはじめ、国内あるいは移入種を含む湖沼性のサケ科魚類を9種類の生態展示、田沢湖産クニマスと西湖で再発見されたクニマスの標本などを展示した。エントランス風除室に新たなデジタルサイネージが2台導入され、料金表や餌やりの時間、台風情報など適宜最新の情報を来館者に向けて発信されることとなった。第3期リニューアル工事のためA・B展示室が11月25日から閉室された。一般駐車場から博物館へ向かうところにある園路橋は開館以来25年が経過して、表面が一部腐食し、雨が降ると水たまりが出来る状況であったため、グランドオープンを控え、園路橋の改修を行い、2020年2月22日から使用を開始した。観覧券の発券システムが2020年2月25日に新設され、チケットには展示に関する写真6種類（バイカルアザラシ、カヤネズミ、オオワシ、ノロ、おとなのディスカバリー、樹冠トレイル）が印刷され、業務的にも発券準備や集計などの手作業を効率化することに成功した。新型コロナウイルスの感染症対策のため、2020年2月28日から3月31日まで臨時休館となったが、この間も、館内では、滋賀県の「コロナに負けないぞ！子ども応援プロジェクト」の一環として「おうちミュージアム」に参加した。展示交流員は、webアミンチュと連携して「展示交流員と話そう」を中心に配信動画作成・撮影に臨むだけでなく、当館独自の動画コンテンツの作成・撮影に参加した。

(2) 資料の整備・活用

2019年度は、第3期リニューアルに向けた資料の整備を視野にいれながら、琵琶湖地域や湖と人間に関する資料を長く保管できる環境の整備に努めた。また、2017年度から導入した汎用性の高いクラウド型データベースの活用により、新たなカテゴリーの資料の登録と公開を順次進めつつあり、第3期リニューアルで必要な資料管理にも大いに活用してきた。これまでに収集し、当館に収蔵されている資料は137万点を超え、そのうち登録資料は64万点を超えることとなったが、収蔵資料の半数以上がまだ登録されていないことから、今後の利用を考えた資料の整理および登録を着実に進めていく必要がある。また、収蔵施設の環境整備の改善の取り組みとして収蔵庫空間の温湿度センサーの較正のほか、空気環境の改善を行った。このような総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要最低限の燻蒸処理をいくつかの方法によって行った。

(3) 交流・サービス活動

博物館周辺や県内各地で、計18件の観察会等を実施した。うち16件は、他団体との共同事業としての実施であった。また、3種類の講座を計7回行い、298人を集めた。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2回の講座は中止となった。依頼に応じて講義や観察会などを行う地域連携事業は、館内では60件・参加者2,218名、館外では72件・参加者4,757名の活動実績となった。学校行事で来館した入館学校数は538校、児童生徒数は40,597人で、前年度より12校、2,740人減少した。特に県外の小学校の入館学校数、児童生徒数が減少した。これに関しては、インフルエンザの流行や新型コロナウイルスの影響による休校も関わっているのではないかと考えられる。体験学習を実施した学校数は90校、受講者数は7,027人であった。フィールドレポーターはアンケート型調査として「夏のセミ調査」「近江の食調査」の2件を行った。登録者数は195名であった。「はしかけ」制度の登録者は年度末時点で403名であった。2019年度には1グループ増加し、26グループでの活動展開となっている。びわ博フェスでは、「はしかけ」、「フィールドレポーター」によるポスター展示、ワークショップなどの活動紹介を行い、来館者との交流を深めた。

3 総務部

(1) 来館者の状況

前年度に第2期リニューアルオープンを終えた2019年度は、ギャラリー展「琵琶湖漁具図鑑―魚つかみの道具のヒミツ」（前年度～5月6日）、企画展示「海を忘れたサケ―ビワマスの謎に迫る―」（7月20日～11月24日）、ナイトミュージアム（7月27日）などを開催、年度のはじめから10月までは来館者数が対前年度同月比で上回り多くの方々を迎えることができた。しかしながら、第3期リニューアルオープンに向けてA・B展示室を閉室（11月25日～）したことにより11月から来館者は減少傾向を示した、さらには新型コロナウイルス感染症対策として全館閉館（2月28日～）としたことの影響もあり、2019年度の来館者は462,162人と目標としていた51万人を下回り、対前年度比較でも約1万人の減となった。なお、「倶楽部LBM」の普及に努め、新型コロナウイルスの影響もあったが、8,705人（H30 10,410人）の方に入会いただいた。

(2) 企業・団体との連携

CSRやSDGs等の環境保全の取り組みが大きな社会的役割を果たすようになり、博物館においても企業・団体等を重視すべきパートナーと位置づけ、「リニューアルサポーター制度」や「メンバーシップ制度」、「水槽サポーター制度」「樹冠トレイルサポーター制度」を運用してきた。積極的な働きかけを行った結果、多くの賛同を得ることができた。

(3) 広報戦略

2019年は第3期リニューアルを前に、琵琶湖博物館の魅力を周知し、更なる来館者の増加を図ることを目

的に、広報活動を展開した。

広報業務については、専門的な知識や豊富な実践経験を持つ民間業者に委託した。業務委託にあたっては、「広報活動は年間を通したものとすが、特に春季および秋季を重点期間とすること」「訴求するターゲットは、京阪神地域（淀川流域）および県内に居住する大人」「大人向けのブランド構築およびブランディングの実施」とし、インスタグラムの開設をはじめ、パブリシティ活動や駅等での広告掲示、ウェブを活かした広報等を展開した。

(4) 施設整備

施設の長寿命化対策として、水族棟エリアの屋根・外壁工事および屋上広場の排水対策工事をはじめとする予防保全工事を実施するとともに、館内外において、必要な改修・修繕などを行った。来館者の熱中症予防・暑さ対策のため、正面玄関にミストシャワーを設置するとともに、老朽化していた園路橋の改修を行った。大型台風被害からの復旧のため、エリア内の多数の倒木の整備を行った。さらに、2階来館者用トイレの一部改修を行い、多目的トイレのオストメイト対応等を実施した。また、県立施設無料Wi-Fi整備事業により、館内に設置した5箇所のアクセスポイントの継続運用を行い、来館者の利便性の向上や利用機会の拡大につなげている。

(5) 新琵琶湖博物館創造

琵琶湖博物館は、「湖と人間」のよりよい共存関係を築くことを目的に1996年に開館した。以来、環境学習の拠点として、展示・交流活動を通じて、琵琶湖の価値を再発見し、琵琶湖や地域に関心をもつ人づくり・地域づくりに努め、着実に成果をあげてきた。

この間、新たな環境課題の顕在化、暮らしと環境に対する県民の考え方の多様化により地域での取り組みも活発化していた。しかしながら当館で進展した調査・研究、蓄積した知見、収集された多くの資料や標本を伝える大規模な展示更新が行われていない状況であった。

県政の課題や高度化・複雑化した情報をわかりやすく知りたい、体験・交流の機会を求める県民のニーズに応え、琵琶湖博物館が拠点施設として次の時代に向けて「湖と人間」のこれからのかわりを問い続けていくために、展示と交流の情報発信力を高めるとともに、次世代を担う人材を育成する交流機能を充実する必要があった。

こうしたことから、2012年度にリニューアルの方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめ、2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定し、2015年から2020年までを3期に分けてリニューアルを行うこととなった。

第1期として、2014年度において、体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるようC展示室と水族展示の実施設設計を行い、2015年度に展示および建設工事に着手し、2016年7月のリニューアルオープンによりC展示室と水族展示の再構築を図った。

また、第2期として、2016年度において、参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点となるため交流空間の実施設設計を行い、2017年度に展示および建設工事に着手し、2018年3月のミュージアムショップ、わくわく体験スペース（企画展示室）、4月のミュージアムレストラン、地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン（別館）、7月のディスカバリールーム、おとなのディスカバリー、11月の樹冠トレイルのリニューアルオープンにより交流空間の再構築を図った。

さらに、第3期として、2018年度に「湖と人間」の未来を考えることができる展示となるようA展示室とB展示室の実施設設計を行い、2019年度に展示工事に着手した。

琵琶湖博物館 年報
第 24 号 2019 年度（令和元年度）

令和 2 年（2020 年）12 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地
電話 077-568-4811